

IBM® DB2 Universal Database™



データウェアハウス・センター アプリケーション統合ガイド

バージョン 8.2

IBM® DB2 Universal Database™



データウェアハウス・センター アプリケーション統合ガイド

バージョン 8.2

ご注意！

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： SC27-1124-01
IBM® DB2 Universal Database™
Data Warehouse Center
Application Integration Guide
Version 8.2

発 行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2004.8

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1998 - 2004. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2004

目次

本書について	vii
本書の対象読者	vii

第 1 部 アプリケーションの統合 1

第 1 章 ユーザー・アプリケーションを統合するための計画 3

パートナー・アプリケーションは、データウェアハウス・センターおよび情報とどのように連携するか	3
パートナー・アプリケーションの管理	4
パートナー・メタデータの管理	4
統合のシナリオ	5

第 2 章 メタデータのインポートとエクスポート 9

第 3 章 データウェアハウス・センターへのメタデータのインポート 11

タグ言語ファイルの構築	11
メタデータをインポートするオブジェクトの選択	11
データウェアハウス・センターのためのオブジェクト定義	13
データウェアハウス・センター・メタデータ・テンプレートのインストール	13
交換プログラム	14
交換プログラムの作成	14
データウェアハウス・センターのタグ言語ファイル用のヘッダーの定義	18
データウェアハウス・センターのためのソースおよびターゲットの定義	19
データウェアハウス・センターのためのソースおよびターゲットの定義	19
データウェアハウス・センターのための値の置換	20
データベース	20
ファイル	20
プログラム・ロジック	21
データウェアハウス・センター・プログラムの定義	21
データウェアハウス・センター・プログラムの定義	22
データウェアハウス・センターのテンプレートへのコピー	22
データウェアハウス・センター・プログラムのロジック	23

第 4 章 データウェアハウス・センターからのデータのエクスポート 25

メタデータのエクスポートのためのオブジェクトの選択	25
タグ言語ファイルへのメタデータのエクスポート	26

第 2 部 メタデータのリファレンス 29

第 5 章 メタデータ・テンプレート 31

データウェアハウス・センターとともに提供されるメタデータ・テンプレート	31
データウェアハウス・センター用の AgentSite.tag テンプレート	32
データウェアハウス・センター用のトークン Column.tag テンプレート	34
データウェアハウス・センター用のトークン HeaderInfo.tag テンプレート	39
データウェアハウス・センター用のトークン Process.tag テンプレート	39
データウェアハウス・センター用のトークン StarSchema.tag テンプレート	41
データウェアハウス・センター用の StarSchemaInputTable.tag テンプレート	41
データウェアハウス・センター用の Step.tag テンプレート	42
データウェアハウス・センター用の StepCascade.tag テンプレート	45
データウェアハウス・センター用の StepInputTable.tag テンプレート	46
データウェアハウス・センター用の StepOutputTable.tag テンプレート	47
データウェアハウス・センター用の StepVWVOutputTable.tag テンプレート	48
データウェアハウス・センター用の StepVWVProgramInstance.tag テンプレート	49
データウェアハウス・センター用の AgenttoDatabase.tag テンプレート	50
データウェアハウス・センター用の AgenttoProgram.tag テンプレート	51
データウェアハウス・センター用の Commit.tag テンプレート	51
データウェアハウス・センター用の ForeignKey.tag テンプレート	52
データウェアハウス・センター用の ForeignKeyAdditional.tag テンプレート	55
データウェアハウス・センター用の PrimaryKey.tag テンプレート	56
データウェアハウス・センター用の PrimaryKeyAdditional.tag テンプレート	58
データウェアハウス・センター用の SourceDataBase.tag テンプレート	60
データウェアハウス・センター用の SubjectArea.tag テンプレート	62
データウェアハウス・センター用の Table.tag テンプレート	64

データウェアハウス・センター用の VWPGroup.tag テンプレート	69
データウェアハウス・センター用の VWPPProgramInstanceParameter.tag テンプレート	70
データウェアハウス・センター用の VWPPProgramTemplate.tag テンプレート	72
データウェアハウス・センター用の VWPPProgramTemplateParameter.tag テンプレート	75
WarehouseDataBase.tag テンプレート	77

第 6 章 データウェアハウス・センターの メタデータ 81

データウェアハウス・センターのための DATABASE オブジェクト・メタデータ	81
データウェアハウス・センターのための TABLES オ ブジェクト・メタデータ	85
データウェアハウス・センター用の COLUMN オブ ジェクト・メタデータ	89

第 7 章 インフォメーション・カタログ・ マネージャーのオブジェクト・タイプ . . . 93

すべてのインフォメーション・カタログ・センタ ー・オブジェクトのデフォルトのプロパティ	93
インフォメーション・カタログ・センター用の拡張 可能オブジェクト・タイプのガイドライン	93
事前定義オブジェクト記述: アプリケーション・デー タ	94
事前定義オブジェクト記述: 属性	95
事前定義オブジェクト記述: オーディオ・クリップ	96
事前定義オブジェクト記述: ビジネス・サブジェク ト・エリア	97
事前定義オブジェクト記述: 図表	98
事前定義オブジェクト記述: 列またはフィールド	99
事前定義オブジェクト記述: コメント	101
事前定義オブジェクト記述: データベース	102
事前定義オブジェクト記述: マルチディメンショ ン・データベース内でのディメンション	104
事前定義オブジェクト記述: 文書	105
事前定義オブジェクト記述: DWC プロセス	106
事前定義オブジェクト記述: ファイル	107
事前定義オブジェクト記述: 用語集項目	109
事前定義オブジェクト記述: イメージまたはグラフ イックス	110
事前定義オブジェクト記述: IMS データベース定義 (DBD)	111
事前定義オブジェクト記述: IMS プログラム制御ブ ロック (PCB)	113
事前定義オブジェクト記述: IMS プログラム仕様ブ ロック (PSB)	114
事前定義オブジェクト記述: IMS セグメント	115
事前定義オブジェクト記述: インターネット文書	116
事前定義オブジェクト記述: Lotus Approach 照会	117
事前定義オブジェクト記述: マルチディメンショ ン・データベース	118

事前定義オブジェクト記述: インフォメーション・ カタログ・ニュース	119
事前定義オブジェクト記述: オンライン・ニュー ス・サービス	120
事前定義オブジェクト記述: オンライン資料	121
事前定義オブジェクト記述: 連絡先	121
事前定義オブジェクト記述: プレゼンテーション	123
事前定義オブジェクト記述: インフォメーション・ カタログ・オブジェクトから呼び出すことができる プログラム	124
事前定義オブジェクト記述: レコード	125
事前定義オブジェクト記述: リレーショナル表とビ ュー	126
事前定義オブジェクト記述: スプレッドシート	128
事前定義オブジェクト記述: スタースキーマ	129
事前定義オブジェクト記述: サブスキーマ	130
事前定義オブジェクト記述: テキスト・ベースのレ ポート	131
事前定義オブジェクト記述: トランスフォーメーシ ョン	132
事前定義オブジェクト記述: ビデオ・クリップ	134

第 3 部 提供されているプログラム とマクロのリファレンス 137

第 8 章 提供されているデータウェアハ ウス・センター・プログラム 139

データウェアハウス・センターとともに提供される VWPEXUNIX プログラム	139
パラメーター	139
戻りコード	140
ログ・ファイル	141
データウェアハウス・センターとともに提供される ISV_Sample プログラム	141

付録 A. 情報カタログ・マネージャー、 バージョン 7 のビューの互換性 143

データウェアハウス・センター用の FLG.ATCHREL ビュー	143
データウェアハウス・センター用の FLG.NAMEINST ビュー	143
データウェアハウス・センター用の FLG.PROPERTY ビュー	144
データウェアハウス・センター用の FLG.RELINST ビュー	144

付録 B. テンプレート・プラン・ワーク シート 147

付録 C. データウェアハウス・センター で使用する独自のプログラムの作成 . . . 157

パラメーターの受け渡し	157
データウェアハウス・センターのプログラムから状 況情報を戻す	158
ユーザー定義プログラムの標準出力の保管	159

情報をデータウェアハウス・センターに転送する	159
フィードバック・ファイルの形式設定	159
フィードバックによってステップ状況を判別する 方法	160
特記事項	163
商標	165

参考文献	167
索引	169
IBM と連絡をとる	171
製品情報	171

本書について

本書には、データウェアハウジング・ソリューションの開発者が、アプリケーションをデータウェアハウス・センターやインフォメーション・カタログ・センターと統合する際に役立つ情報が載せられています。本書を使用することにより、アプリケーションのメタデータを、データウェアハウス・センターやインフォメーション・カタログ・センターで使用できる形式に転送および変換するプログラムを作成できます。また、本書の情報を使用すれば、インフォメーション・カタログ・センターの形式を調整することもできます。

本書の対象読者

本書は、データウェアハウジング・ソリューションの開発者のうち、別の会社のデータウェアハウジング・アプリケーションと、データウェアハウス・センターまたはインフォメーション・カタログ・センター（あるいはその両方）との間の自動化されたインターフェースを作成することを担当する方を対象としています。

ある程度の情報処理サポートの経験があるとしても、社内の他のサポート担当者の助けを必要とすることが時々あるかもしれません。本書で説明されている統合機能を使用するためには、データウェアハウス・センターとインフォメーション・カタログ・センターについての十分な知識が必要です。特に、下記の表に示されている作業の実行方法について知っていなければなりません。

作業	参照先
インフォメーション・カタログの作成	インフォメーション・カタログ・センター 管理ガイド
メタデータのインポートとエクスポート	インフォメーション・カタログ・センター 管理ガイド
ウェアハウス・エージェント・サイトの定義	データウェアハウス・センター 管理ガイド、およびデータウェアハウス・センターのオンライン・ヘルプ
ステップの作成、プロモート、実行、およびモニター	データウェアハウス・センター 管理ガイド、およびデータウェアハウス・センターのオンライン・ヘルプ
データウェアハウス・センター・プログラムの作成、およびステップでの使用	データウェアハウス・センター 管理ガイド、およびデータウェアハウス・センターのオンライン・ヘルプ
データウェアハウス・センター・プログラムのパラメーターの変更	データウェアハウス・センター 管理ガイド、およびデータウェアハウス・センターのオンライン・ヘルプ
メタデータのインポートとエクスポート	データウェアハウス・センター 管理ガイド、およびデータウェアハウス・センターのオンライン・ヘルプ

データウェアハウス・センターとインフォメーション・カタログ・センターの資料のリストについては、167ページの『参考文献』を参照してください。

第 1 部 アプリケーションの統合

第 1 章 ユーザー・アプリケーションを統合するための計画

パートナー・アプリケーションは、データウェアハウス・センターおよび情報とどのように連携するか

パートナー・アプリケーションとは、データウェアハウス・センターから独立して実行するアプリケーションであり、データウェアハウジング・ソリューションのためにある種のサポートを提供します。アプリケーションをデータウェアハウス・センターに定義して、そのアプリケーションが複数アプリケーションを含むことのできるウェアハウス構築プロセスに含まれるようにすることができます。

たとえば、IMS™ データベースから操作データをアンロードして、そのデータをクレンジングしてから、クレンジング済みデータを DB2® ウェアハウス・データベースにロードすることができます。その後ユーザーはクレンジング済みデータを照会することができます。次の 3 つのパートナー・アプリケーションがあります。

- パートナー・アプリケーション 1 は、データベースからデータをアンロードして、表の結合などの簡単な変換を実行してから、変換済みデータをウェアハウス・データベースに書き込みます。
- パートナー・アプリケーション 2 は、データをクレンジングして、そのデータをウェアハウス用に準備します。
- パートナー・アプリケーション 3 は、ウェアハウス内のデータを照会してレポートします。それには、ユーザーが特定の属性について検索できるウェアハウス内の表に関するメタデータが含まれます。ユーザーはメタデータを使用して、必要なデータがどの表に含まれるかを判別します。

以下のプロセスでは、これら 3 つのアプリケーションを共に使用します。

1. パートナー・アプリケーション 1 は、ソース IMS データベース内の複数のセグメントからデータを抽出します。
2. パートナー・アプリケーション 1 は、ソース・セグメントからのデータを結合して、結合済みデータをファイル 1 に書き込みます。
3. パートナー・アプリケーション 1 は、結合済みデータをファイル 1 に書き込みます。
4. パートナー・アプリケーション 2 は、ファイル 1 からデータを読み取ります。
5. パートナー・アプリケーション 2 は、名前の突き合わせおよび他のデータ・クレンジング技法を使用して、データをクレンジングします。
6. パートナー・アプリケーション 2 は、クレンジング済みデータをファイル 2 に書き込みます。
7. パートナー・アプリケーション 1 は、ファイル 2 からデータを読み取ります。
8. パートナー・アプリケーション 1 は、データをウェアハウス・データベースに書き込みます。
9. パートナー・アプリケーション 3 は、ユーザーが照会する表を選択したとき、ウェアハウス内のデータを表示するか、またはウェアハウス内のデータをレポートします。

パートナー・アプリケーションの管理

データウェアハウス・センターのステップを使用して、ウェアハウジングのプロセスを管理できます。ステップとは、ウェアハウス・プロセスでデータに対する単一の操作のことです。ほとんどの場合、ステップにはウェアハウス・ソース、データの変換または移動、およびウェアハウス・ターゲットが含まれます。ステップはスケジュールに従って実行したり、他のステップからのカスケードで実行することができます。ステップを使用して、データの抽出、変換、および書き込みにおける各ステップを定義およびスケジューリングします。

基本ステップは以下のタスクを実行します。

- 少なくとも 1 つの表またはファイルからデータを抽出します。
- データウェアハウス・センター SQL 処理を使用してデータを変換するか、またはデータを変換するプログラムを呼び出します。
- 変換済みデータを表に書き込みます。

パートナー・アプリケーションの例では、以下のソースからターゲットへの変換のための、3 つのステップを定義します。

- アンロード・ステップは、タスク 1 から 3 を実行します。
- クレンジング・ステップは、タスク 4 から 6 を実行します
- ロード・ステップは、タスク 7 から 8 を実行します。

パートナー・アプリケーション 3 はタスク 9 でユーザーの要求に応じてデータを変換するので、タスク 9 のためにはステップを定義しません。

ステップの定義で、ステップを実行する日付および時刻をスケジューリングできます。その日時に、データウェアハウス・センターは SQL ステートメントを発行したりプログラムを開始することによって、ステップが定義するプロセスを開始します。さらに、2 番目のステップが最初のステップの処理修了後に開始するように指定することもできます。

最初のステップが特定の日時に実行するようにスケジューリングできます。2 番目のステップは最初のステップの実行後に開始するようにスケジューリングできます。3 番目のステップは 2 番目のステップの実行後に開始するようにスケジュールできます。このようにして、複数のパートナー・アプリケーションの実行プロセスを自動化することができます。

パートナー・メタデータの管理

メタデータの管理プロセスを定義するには、パートナー・メタデータをデータウェアハウス・センターにインポートします。パートナー・メタデータとは、パートナー・アプリケーションが使用し、データウェアハウス・センターの外側に保管するメタデータのことです。

パートナー・アプリケーションの例では、以下のメタデータをデータウェアハウス・センターにインポートします。

- パートナー・アプリケーション 1 から、データベース、ファイル 1、およびアプリケーションに関するメタデータ

- パートナー・アプリケーション 2 から、ファイル 2 およびアプリケーションに関するメタデータ

その後、ファイルに関するメタデータをパートナー・アプリケーションに公開して、両方のパートナー・アプリケーションが同じ情報を使用するようにします。

- ファイル 2 に関するメタデータをパートナー・アプリケーション 1 にエクスポートします。
- ファイル 1 に関するメタデータをパートナー・アプリケーション 2 にエクスポートします。

データウェアハウス・センターからインフォメーション・カタログ・マネージャーにメタデータをエクスポートして、ウェアハウスのユーザーのためにウェアハウス内のデータに関する情報を提供することができます。ソースとターゲットについてのメタデータ、およびソース形式からターゲット形式へのデータ変換についてのメタデータをインポートすることができます。ウェアハウスのユーザーはインポートされたメタデータによって、ウェアハウス内のデータのリネージュに関する情報を取得することができます。パートナー・アプリケーションの例では、ウェアハウス内の表である表 3 に関するメタデータをインフォメーション・カタログ・マネージャーにエクスポートします。

メタデータをデータウェアハウス・センターから直接、インフォメーション・カタログ・マネージャーにインポートすることができます。

統合のシナリオ

次の表は、いくつかの一般的なタイプのウェアハウジング・アプリケーションをリストして、それらをデータウェアハウス・センターに統合する方法を説明しています。

表 1. 統合のシナリオ

アプリケーションのタイプ	統合プロセス
データウェアハウジング設計	データウェアハウジング設計アプリケーションからのデータをデータウェアハウス・センターで使用するには、 <ol style="list-style-type: none"> 1. メタデータをデータウェアハウス・センターにインポートします。 2. メタデータ同期を使用して、メタデータをインフォメーション・カタログ・マネージャーに伝搬します。
操作データ記述	メタデータをデータウェアハウス・センターに、そしてビジネス・メタデータをインフォメーション・カタログ・マネージャーにインポートします。 メタデータがリネージュのためだけに組み込まれているソース・データに対するもので、ソース表またはファイルを定義するためのものではない場合、メタデータをインフォメーション・カタログ・マネージャーに直接インポートしてください。

表1. 統合のシナリオ (続き)

アプリケーションの タイプ	統合プロセス
データ・クレンジング	<p>操作データをクレンジングするには、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ソース・データとターゲット・データの動きを管理するのは、データウェアハウス・センターまたはパートナー・アプリケーションのどちらであるかを判別します。 <p>異なるアプリケーションが、ソース・データおよびターゲット・データをそれぞれ管理することが可能です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. ソースおよびターゲット定義をインポートするか、またはソースおよびターゲット定義をエクスポートします。定義を再度入力しなくてもよいように、そのように行ってください。 3. パートナー・アプリケーションをデータウェアハウス・センター・プログラムとして定義するか、またはパートナー・アプリケーションを開始するデータウェアハウス・センター・プログラムを作成します。 4. パートナー・アプリケーションのパラメーターを設定するユーザー・インターフェースを開発します。 5. メタデータをデータウェアハウス・センターにインポートして、データウェアハウス・センターがデータ・クレンジング・アプリケーションを実行できるようにします。 <p>プログラムのスケジューリングは、順番で行うことも、日付と時刻によって行うことも可能です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. ビジネス・メタデータをインフォメーション・カタログ・センターにインポートして、ユーザーが使用できるようにします。
代替データ記憶装置 (DB2 OLAP Server™ など)	<p>操作データを代替データ記憶装置にロードするには、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. データウェアハウス・センターから、パートナー記憶装置の構築に必要なデータ定義をエクスポートします。 2. ロード・プログラムをデータウェアハウス・センター・プログラムとして定義するか、またはロード・プログラムを開始するデータウェアハウス・センター・プログラムを作成します。 3. パートナー・アプリケーションのパラメーターを設定するユーザー・インターフェースを開発します。 4. ロード・プログラムの定義をデータウェアハウス・センターにインポートします。 <p>ロード・プログラムを使用して、操作データ・ストア内の値とパートナー・データ・ストア内の値とを同期させます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. パートナー・データ・ストアのためのビジネス・メタデータをインフォメーション・カタログ・センターにインポートします。

表 1. 統合のシナリオ (続き)

アプリケーションの タイプ	統合プロセス
レポート作成 (Brio や Business Object など)	<p>レポート作成アプリケーションをデータウェアハウス・センターに統合するには。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ビジネス・メタデータをインフォメーション・カタログ・センターからレポート作成アプリケーションにエクスポートします。 2. レポートについての説明をインフォメーション・カタログ・センターにインポートします。 3. レポート作成アプリケーションをインフォメーション・カタログから開始できるようにします。

この項で説明されているモデルおよびテンプレートには、DB2 Universal Database のパッケージで提供されているデータウェアハウス・センターのバージョン 8、Warehouse Manager のパッケージで提供されているインフォメーション・カタログ・マネージャー管理者のバージョン 8、およびそれらの前提条件となる製品が必要です。

データウェアハウス・センターおよびインフォメーション・カタログ・センターに対する前提条件となる製品については、ご使用のプラットフォームに該当する「概説およびインストール」、および「DB2 Warehouse Manager インストール・ガイド」を参照してください。

第 2 章 メタデータのインポートとエクスポート

この章では、メタデータをデータウェアハウス・センターに直接インポートする方法およびそこから直接エクスポートする方法を詳しく説明します。

第 3 章 データウェアハウス・センターへのメタデータのインポート

メタデータをデータウェアハウス・センターにインポートしておく、データウェアハウス・センターは、ウェアハウスのためにデータを抽出してトランスフォームしたり、あるいは、データを抽出しトランスフォームするパートナー・アプリケーションを実行することができます。

メタデータをデータウェアハウス・センターにインポートするには、以下のタスクが関係します。

1. タグ言語ファイル (インポートするオブジェクトのためのメタデータが入るファイル) の作成。
2. タグ言語ファイルのインポート。
3. データウェアハウスで実行するステップの準備。

タグ言語ファイルの構築

メタデータをインポートするオブジェクトの選択

以下のタイプのオブジェクトについて、メタデータをデータウェアハウス・センターにインポートできます。

エージェント・サイト

ウェアハウス・エージェント は、ソース・データベースまたはファイル (ウェアハウス・ソース) と、ターゲット・データベース (ウェアハウス・ターゲット) との間の実際のデータ転送を実行します。さらに、そのデータの変換も実行します。ウェアハウス・エージェントは、ウェアハウス・サーバーからコマンドを受け取ります。その後、エージェントは SQL コマンドを発行し、パートナー・アプリケーションを開始するか、またはパートナー・アプリケーションを開始するデータウェアハウス・センター・プログラムを開始します。さらに、ウェアハウス・エージェントは、表定義をインポートします。

エージェント・サイト は、エージェントが実行するマシンです。エージェント・サイトには、ソース・データベースおよびターゲット・データベースを含むマシンにアクセス可能でなければなりません。

ウェアハウス・ソースおよびウェアハウス・ターゲット

ソース・データベース またはソース・ファイル は、データウェアハウス・センターまたはパートナー・アプリケーションがデータを抽出して処理を続けるための、データベースまたはファイルです。一般用語のソース は、データベースまたは 1 つ以上のファイルのグループを意味します。ソースは、1 つ以上の表、ファイル、またはセグメントに関連しています。表、ファイル、またはセグメントは、1 つ以上の列またはフィールドに関連してい

ます。ウェアハウス・ソースは、データウェアハウス・センターに対して定義されている単一のデータベース、またはファイルのセットからの、表およびビューのサブセットです。

ウェアハウス・ターゲット またはターゲット・ファイル は、データウェアハウス・センターまたはパートナー・アプリケーションが処理した後にデータを書き込むデータベースまたはファイルです。一般用語のターゲットは、データベースまたは 1 つ以上のファイルのグループを意味します。ターゲットは、1 つ以上の表またはファイルと関連しています。表またはファイルは、1 つ以上の列またはフィールドと関連しています。ウェアハウス・ターゲットは、データウェアハウス・センターによって管理される表のサブセットまたはファイルのセットです。

ウェアハウス・ターゲットは、ユーザーが照会およびレポート作成を実行するために使用するウェアハウスを含むデータベースです。

データウェアハウス・センター・プログラム

データウェアハウス・センター・プログラム は、ある種のデータ形式変更を実行するユーザー作成またはパートナー・アプリケーションです。プログラムをデータウェアハウス・センターに定義して、その実行をスケジューリングし、ステップの一部としてその操作をモニターすることができます。データウェアハウス・センター・プログラムは、通常 1 つ以上のパラメーターに関連しています。関連したデータウェアハウス・センター・プログラムをデータウェアハウス・センター・プログラム・グループに関連付けることにより、それらをグループ化することができます。

サブジェクト・エリア

サブジェクト・エリア を使用して、特定のトピックまたは機能に関連したプロセス（およびそれらのプロセス内のステップ、ウェアハウス・ソース、そしてウェアハウス・ターゲット）を論理的にグループ化することができます。たとえば、販売データを移動および変換する一連のプロセスがある場合、Sales サブジェクト・エリアを作成して、それらのプロセスをそのサブジェクト・エリア内に作成することができます。同様に、複数の Marketing プロセスは Marketing サブジェクト・エリアの下にグループ化できます。

プロセス

プロセスは、通常ソース・データに対して操作を行う一連のステップで、データを元の形式から意思決定に役立つ形式に変換します。データウェアハウス・センターのプロセスは、通常 1 つ以上のウェアハウス・ソース、1 つ以上のステップ、および 1 つ以上のウェアハウス・ターゲットから構成されます。

ステップ

ステップとは、データウェアハウス・センター・プロセスでデータに対する単一の操作のことです。プロセスは、通常 1 つ以上のウェアハウス・ソース、1 つ以上のステップ、および 1 つ以上のウェアハウス・ターゲットから構成されます。ほとんどの場合、ステップにはウェアハウス・ソース、データの変換または移動の説明、およびウェアハウス・ターゲットが含まれます。ステップを使用して、データの抽出、変換、および書き込みにおける各ステップを定義およびスケジューリングします。ステップのメタデータには、データウェアハウス・センターまたはパートナー・アプリケーションが

操作を行うソースおよびターゲット表が含まれます。さらに、発行する SQL ステートメント、または変換の実行を開始するプログラムも含まれます。

ステップ間のカスケード関係

カスケード関係は、他のステップの処理状況に基づくステップのスケジュールです。ステップが、別のステップの実行の終了後に実行するようにスケジュールリングすることができます。

データウェアハウス・センター・オブジェクト間の関係

データウェアハウス・センター・オブジェクトのメタデータは、他のオブジェクトとの関係を記述しています。たとえば、ステップのメタデータは、そのステップが使用するウェアハウス・ソースとウェアハウス・ターゲット表との関係を記述しています。

データウェアハウス・センターのためのオブジェクト定義

データウェアハウス・センターにインポートするオブジェクトを定義するには、1 つ以上のデータウェアハウス・センター・メタデータ・テンプレートからタグ言語ファイルを作成する必要があります。

各テンプレートは、表などのオブジェクト、または列などのオブジェクトのサブセットに対応します。複数のテンプレートを結合して、オブジェクトに関するすべての詳細を定義します。たとえば、ソース・データベースを定義したい場合、データベース、表、および列のテンプレートを結合します。

パートナー・メタデータ・ストアから値を取得するプログラムを作成して、それらの値によってテンプレート内のトークンを置換します。この種のプログラムを交換プログラムと呼びます。

各テンプレートには、交換プログラムが値を指定しなければならないトークンが含まれます。たとえば、トークン *TableDescription は表の記述を表します。交換プログラムは *TableDescription を検索して、それをリレーショナル・カタログで指定された表の記述を含むストリングに置き換えます。DB2® Universal Database の表では、システム・カタログの syscat.tables 表の REMARKS フィールド内にその記述があります。交換プログラムがトークンを値で置き換えるので、ファイル内のメタデータを識別する基礎となるタグ言語の構文を知る必要はありません。

データウェアハウス・センター・メタデータ・テンプレートのインストール

このタスクは、データウェアハウス・センター・メタデータ・テンプレートのためのオブジェクト定義という主作業の一部です。データウェアハウス・センター・メタデータ・テンプレートのインストールは、アプリケーション開発クライアントのインストール時に選択できます。

手順:

テンプレートをインストールするには、以下のように行います。

1. インストールの「セットアップ・タイプ (Setup Type)」ウィンドウの「カスタム (Custom)」をクリックする。

2. 「データウェアハウス ISV ツールキット (Data Warehouse ISV Toolkit)」をクリックする。
3. テンプレートをインストールするディレクトリーを指定する。

ISV ツールキットのためのデフォルト・ディレクトリーは `x:\¥sqllib¥templates` です。データウェアハウス・センターは、環境変数 `VWS_TEMPLATES` を ISV ツールキットのロケーションに設定します。プログラムで `VWS_TEMPLATES` の値を照会して、テンプレートを見つけることができます。

メタデータ・テンプレートをインストールするディレクトリーを指定した後、データウェアハウス・センターは、`VWS_TEMPLATES` で設定するディレクトリーのサブディレクトリーにファイルをインストールします。下記の表は、データウェアハウス・センターがインストールするファイルのタイプと、それらのファイルがインストールされるサブディレクトリーを示しています。

表2. テンプレートのファイル・タイプとサブディレクトリー

ファイルのタイプ	サブディレクトリー
テンプレート	ISV
サンプル	Samples
ヘッダー・ファイル	Include

交換プログラム

交換プログラムの作成

交換プログラムを作成するとき、以下を行う必要があります。

- ヘッダー・ファイルを組み込む。
- 適切なテンプレートをコピーして変更する。
- テンプレートの変更済みコピーをタグ言語ファイルに追加する。

さらに、データウェアハウス・センターが処理メッセージのログに使用するディレクトリーと同じディレクトリーに処理メッセージのログを記録することができます。

ISV_defines.h ヘッダー・ファイル

ISV_Defines.h ヘッダー・ファイルを使用すると、テンプレートのトークンが変更してもプログラム・ロジックを同じに保つことができます。その場合に必要なのは、プログラムを再コンパイルすることだけです。

テンプレートのコピーと変更

テンプレートを使用して作業するために、作成するプログラムは以下の手順を使用しなければなりません。

1. `VWS_TEMPLATES` 環境変数を使用して、テンプレートが保管されているディレクトリーを取得します。その値に `¥ISV¥` を追加して、テンプレートの完全パスを取得します。
2. テンプレートのコピーをプログラム内にローカルに読み取ります。

3. テンプレートを検索してテンプレート内のトークンを見つけ、それらのトークンをパートナー・アプリケーションからのメタデータで置き換えます。

タグ言語ファイルの形式にプログラミングする代わりに、検索と置換の手法を使用します。トークンを使用することにより、テンプレート・ファイル内で使用されているタグ言語の変更からプログラムが独立していることとなります。

テンプレート内では、各トークンは括弧で囲まれています。右小括弧は値の終了を示します。作成するプログラムがトークンだけを値に置換して、括弧を除去しないようにしてください。

トークンの値を置換するストリングは、以下の規則に従っていなければなりません。

- ストリングに組み込みタブ文字を含めることはできません。
- ストリング内に括弧がある場合、それを単一引用符で囲みます。

たとえば、*DatabaseNotes トークンを以下の値で置き換えると仮定します。

```
This is my database (managed by the Finance group).
```

この値を、以下のように変更しなければなりません。

```
This is my database ('managed by the Finance group').
```

交換プログラムにトークンの値がない場合、そのトークンを定数 ISV_DEFAULTVALUE (ISV_defines.h 内で定義されている) に置き換えるようにします。ただし、必要なトークンには ISV_DEFAULTVALUE 以外の値を指定しなければなりません。

セキュリティー・グループのテンプレートは存在しないので、作成するプログラムでは値 ISV_DEFAULTSECURITYGROUP を *SecurityGroup トークンのインスタンスに指定しなければなりません。

テンプレートは、データウェアハウス・センターに特定のメタデータについてはデフォルト値を使用します。たとえば、ウェアハウス・ソースおよびウェアハウス・ターゲットの再試行回数および再試行インターバルは、データウェアハウス・センターのデフォルト値に設定されます。

タグ言語ファイルへのテンプレートの追加

次の表は、プログラムがテンプレートをタグ言語ファイルに追加しなければならない順序を示しています。それらの表には、テンプレートが必須またはオプションとなるときの条件が示されています。

ヘッダーを除き、それぞれのテンプレートについて必要な数のコピーを定義することができます。各タグ言語ファイルで定義するヘッダーのコピーは 1 つだけです。

表 3. テンプレートの相互関係および条件

順序	テンプレート	必須またはオプション
1	HeaderInfo.tag	常に必須
2	AgentSite.tag	デフォルトのエージェント・サイトを使用しない場合は必須

表3. テンプレートの相互関係および条件 (続き)

順序	テンプレート	必須またはオプション
3	VWPGGroup.tag	データウェアハウス・センター・プログラムを定義している場合は必須
4	VWPPProgramTemplate.tag	データウェアハウス・センター・プログラムを定義している場合は必須
5	VWPPProgramTemplateParameter.tag	データウェアハウス・センター・プログラムを定義している場合は必須
6	SourceDataBase.tag WarehouseDataBase.tag	ウェアハウス・ソースまたはウェアハウス・ターゲットを定義している場合は必須
7	Table.tag	ウェアハウス・ソースまたはウェアハウス・ターゲットを定義している場合は必須
8	Column.tag	ウェアハウス・ソースまたはウェアハウス・ターゲットを定義している場合は必須

Column.tag テンプレートをタグ言語ファイルに追加した後、一連のテンプレート、およびテンプレートをタグ言語ファイルに追加する順序は、ステップまたはスタースキーマのどちらを定義したいかに依存します。

ステップを定義している場合、表4に示されている順序で以下のテンプレートをタグ言語ファイルに追加します。

表4. ステップを定義するときのテンプレートの相互関係および条件

順序	テンプレート	必須またはオプション
9	SubjectArea.tag	ステップを定義している場合は必須
10	Process.tag	ステップを定義している場合は必須
11	Step.tag	ソースおよびターゲット・データとの間での SQL 変換を生成している場合、またはデータウェアハウス・センターが実行するプログラムを定義している場合は必須。
12	StepInputTable.tag	以下のタイプのステップを定義している場合は必須。 ISV_StepType_Editioned_Append ISV_StepType_Full_Replace ISV_StepType_Uneditioned_Append 以下のタイプのステップを定義している場合はオプション。 ISV_StepType_VWP_Population

表 4. ステップを定義するときのテンプレートの相互関係および条件 (続き)

順序	テンプレート	必須またはオプション
13	StepOutputTable.tag	以下のタイプのステップを定義している場合は必須。 ISV_StepType_Editioned_Append ISV_StepType_Full_Replace ISV_StepType_Uneditioned_Append 以下のタイプのステップには、StepOutputTable を使用できません。 ISV_StepType_VWP_Population
14	StepVWPOutputTable.tag	以下のタイプのステップを定義している場合はオプション。 ISV_StepType_VWP_Population
15	StepCascade.tag	ステップをカスケード関係にリンクするために必須
16	StepVWPProgramInstance.tag	ステップがデータウェアハウス・センター・プログラムを使用する場合に必須
17	VWPProgramInstanceParameter.tag	このステップが、パラメーターが渡されることを期待し、パラメーターを持っているデータウェアハウス・センター・プログラムを使用する場合に必須。

スタースキーマを定義している場合、表 5 に示されている順序で以下のテンプレートをタグ言語ファイルに追加します。

表 5. スタースキーマを定義するときのテンプレートの相互関係および条件

順序	テンプレート	必須またはオプション
9	StarSchema.tag	以下のタイプのスタースキーマを定義している場合は必須。
10	StarSchemaInputTable.tag	以下のタイプのスタースキーマを定義している場合は必須。
11	AgenttoProgram.tag	タグ言語ファイルに指定されたエージェント・サイトがデータウェアハウス・センター・コントロール・データベースにある既存のデータウェアハウス・センター・プログラムを参照している場合は、必須。

表 5. スタースキーマを定義するときのテンプレートの相互関係および条件 (続き)

順序	テンプレート	必須またはオプション
12	AgenttoDatabase.tag	タグ言語ファイルに指定されたエージェント・サイトがデータウェアハウス・センター・コントロール・データベースにある既存のソースまたはターゲット・データベースを参照している場合は、必須。

処理メッセージのロギング

交換プログラムは、ログ処理メッセージまたはトレース・ファイルを `VWS_LOGGING` 環境変数が指定するディレクトリーに書き込みます。データウェアハウス・センターはこのディレクトリーを、ログ・ファイルおよびトレース・ファイルのために使用します。

関連資料:

- 158 ページの『データウェアハウス・センターのプログラムから状況情報を戻す』

データウェアハウス・センターのタグ言語ファイル用のヘッダーの定義

前提条件:

タグ言語ファイルに含めることのできるオブジェクトを定義する前に、まずヘッダーを定義する必要があります。

制約事項:

以下の制約があります。

テンプレートのコピー: プログラムで、 `HeaderInfo.tag` テンプレート・ファイルをコピーして変更する必要があります。

値の置換: プログラムでデフォルトのセキュリティー・グループである `ISV_DEFAULTSECURITYGROUP` を用意する必要があります。

手順:

タグ言語ファイルのためのヘッダーを定義するには、該当するテンプレートをコピーしてください。

19 ページの図 1 は、タグ言語ファイルのヘッダー部分を構築するためにプログラムで使用できるロジックの疑似コードです。

```
Initialize native metadata environment.  
  For a C++ ISV application, include isv_defines.h.  
  For a Java ISV application, use ISV_Defines.java.  
Read a copy of the HeaderInfo.tag template (from the templates directory).  
Include the template without modifications.  
Write the output to a target file.
```

図 1. ヘッダーをタグ言語ファイルに追加するための疑似コード

ISV_Sample プログラムは、タグ言語ファイルのヘッダー部分の例を示しています。プログラムのソース・コードは、VWS_TEMPLATES 環境変数によって設定されたディレクトリーの Samples サブディレクトリーにあります。

データウェアハウス・センターのためのソースおよびターゲットの定義

データウェアハウス・センターまたはパートナー・アプリケーションがソースから読み取るようにしたい場合、それらのソースを定義します。同様に、データウェアハウス・センターまたはパートナー・アプリケーションがデータをターゲットに書き込むようにしたい場合、それらのターゲットを定義します。

制約事項:

以下の制約があります。

- ソースまたはターゲットがすでにウェアハウス・コントロール・データベース内になければなりません。
- データウェアハウス・センター・プログラムを使用するステップのみを使用する必要があります。

手順:

ソースおよびターゲットを定義するには、以下のように行います。

1. 適当なテンプレートをコピーします。
2. トークンを実際の値に置換します。

データウェアハウス・センターのためのソースおよびターゲットの定義

データウェアハウス・センターまたはパートナー・アプリケーションがソースから読み取るようにしたい場合、それらのソースを定義します。同様に、データウェアハウス・センターまたはパートナー・アプリケーションがデータをターゲットに書き込むようにしたい場合、それらのターゲットを定義します。

テンプレートのコピーのために、以下のタイプのソース・オブジェクトを定義できます。

- リレーショナル・データベース
- IMS データベース
- ファイル・システム
- ファイル

リレーショナル・データベースをターゲット・オブジェクトとして定義することもできます。

以下の表は、各タイプのソースおよびターゲット・オブジェクトを定義するために、プログラムがコピーして変更しなければならないテンプレートをリストしています。

表 6. リレーショナル・ソースおよびターゲット定義のためのテンプレート

ソースまたはターゲットの定義	テンプレートのコピー数	コピーするテンプレート	前提条件となるテンプレート
データベース	使用したいデータベースごとに 1 コピー	SourceDataBase.tag WarehouseDataBase.tag	HeaderInfo.tag AgentSite.tag (デフォルト・エージェントを使用していない場合)
表	データベースに定義したい表ごとに 1 コピー	Table.tag	SourceDatabase.tag WarehouseDataBase.tag
列	各表に定義したい列ごとに 1 コピー	Column.tag	Table.tag

テンプレート内に共通の値を指定することによって、表のテンプレートとデータベースのテンプレートとを関連付けます。同様に、テンプレート内に共通の値を指定することによって、列のテンプレートと表のテンプレートとを関連付けます。

データウェアハウス・センターのための値の置換

プログラムは、パートナー・メタデータ・ストアからデータベースまたはファイルを説明する値を取得しなければなりません。プログラムは取得した値でテンプレート内の適切なトークンを置換しなければなりません。

データベース

プログラムは、ソース・データベースまたはターゲット・データベースについての以下のメタデータを提供しなければなりません。

- 定義するソース・データベース、または定義するターゲット・データベース
- データベースが存在するマシン
- 定義する各データベース内の表
- 定義する各表内の列

ファイル

プログラムは、ソース・ファイルについての以下のメタデータを提供しなければなりません。

- ファイルを含むファイル・システム
- 定義するソース・ファイル、または定義するターゲット・ファイル
- ファイルが存在するマシン
- 定義する各ファイル内のフィールド

プログラム・ロジック

以下は、ソースまたはターゲットを定義するためのデータ・リソースを作成または更新するために、プログラムで使用できるロジックの疑似コードです。

```
For each source or target to be defined:
  Read a copy of the SourceDatabase.tag or WarehouseDatabase.tag template
  Search for and replace tokens with the metadata from your native metadata source
  (or defaults)
  Append the output to a target file

For each table, file, or segment that is to be defined:
  Read a copy of the Table.tag template
  Search for and replace tokens with the metadata from your native metadata source
  (or defaults)
  Append the output to a target file

For each column or field that the table contains:
  Read a copy of the Column.tag template
  Search for and replace tokens with the metadata from your native metadata source
  (or defaults)
  Append the output to a target file
End (for each column)
End (for each table)
End (for each source or target data source)
```

図2. ソースまたはターゲットを定義するデータ・リソースを作成または更新するための疑似コード：このロジックを作成または更新したいソースまたはターゲット定義ごとに使用します。

ISV_Sample プログラムは、ソースまたはターゲット定義のためのデータ・ソースを作成または更新する例を示しています。プログラムのソース・コードは、VWS_TEMPLATES 環境変数によって設定されたディレクトリーの Samples サブディレクトリーにあります。

関連資料:

- 81 ページの『データウェアハウス・センターのための DATABASE オブジェクト・メタデータ』
- 85 ページの『データウェアハウス・センターのための TABLES オブジェクト・メタデータ』
- 89 ページの『データウェアハウス・センター用の COLUMN オブジェクト・メタデータ』

データウェアハウス・センター・プログラムの定義

データウェアハウス・センターがパートナー・アプリケーションをスケジューリングして実行するようにしたい場合、最初にそのプログラムをデータウェアハウス・センター・プログラムとして定義しなければなりません。

タグ言語ファイルがデータウェアハウス・センター・プログラムを指す場合は、以下のオブジェクトを順序どおりに定義する必要があります。

1. データウェアハウス・センター・プログラムを含める 1 つ以上のプログラム・グループ。
2. データウェアハウス・センターにプログラムの基本定義を示す 1 つ以上のデータウェアハウス・センター・プログラム・テンプレート。

3. データウェアハウス・センターがプログラムに渡すデフォルトのパラメーターを提供する、1 つ以上のデータウェアハウス・センター・プログラム・テンプレートのパラメーター。

ステップのためにプログラム・パラメーターのインスタンスを定義することによって、特定のステップで使用されるパラメーターを変更できます。

データウェアハウス・センター・プログラムの定義

データウェアハウス・センターがパートナー・アプリケーションをスケジューリングして実行するようにしたい場合、最初にそのアプリケーションをデータウェアハウス・センター・プログラムとして定義しなければなりません。その後、それを 1 つ以上のステップで使用して、そのプログラムをスケジュールし実行することができます。

前提条件:

まず、以下のオブジェクトを順に定義してからでないと、タグ言語ファイルにデータウェアハウス・センター・プログラムを入れることはできません。

1. データウェアハウス・センター・プログラムを含める 1 つ以上のプログラム・グループ。
2. データウェアハウス・センターにプログラムの基本定義を示す 1 つ以上のデータウェアハウス・センター・プログラム・テンプレート。
3. データウェアハウス・センターがプログラムに渡すデフォルトのパラメーターを提供する、1 つ以上のデータウェアハウス・センター・プログラム・テンプレートのパラメーター。

手順:

データウェアハウス・センター・プログラムを定義するには、以下のように行います。

1. 適当なテンプレートをコピーします。
2. トークンを実際の値に置換します。

データウェアハウス・センターのテンプレートへのコピー

以下の表は、データウェアハウス・センター・プログラムを定義するために、プログラムがコピーして変更する必要があるテンプレートをリストしています。

表 7. データウェアハウス・センター・プログラムのテンプレート

定義	テンプレートの コピー数	コピーするテンプレート	前提条件となるテンプレート
データウェアハウス・センター・プログラム・グループ	定義するプログラム・グループごとに 1 コピー	VWPGGroup.tag	HeaderInfo.tag

表7. データウェアハウス・センター・プログラムのテンプレート (続き)

定義	テンプレートの		前提条件となるテンプレート
	コピー数	コピーするテンプレート	
データウェアハウス・センター・プログラム・テンプレート	プログラム・グループ内のデータウェアハウス・センター・プログラムごとに 1 コピー	VWPPProgramTemplate.tag	VWPPGroup.tag
データウェアハウス・センター・プログラムのパラメーター	データウェアハウス・センター・プログラムに渡されるパラメーターごとに 1 コピー	VWPPProgramTemplateParameter.tag	VWPPProgramTemplate.ag

テンプレート内に共通の値を指定することによって、データウェアハウス・センター・プログラム・グループのテンプレートとデータウェアハウス・センター・プログラムのテンプレートとを関連付けます。同様に、テンプレート内に共通の値を指定することによって、パラメーターのテンプレートとデータウェアハウス・センター・プログラムのテンプレートとを関連付けます。

データウェアハウス・センター・プログラムのロジック

プログラムでは、データウェアハウス・センターを説明する値をウェアハウス・コントロール・データベースから入手する必要があります。

- 定義するデータウェアハウス・センター・グループ。
- 定義するデータウェアハウス・センター・プログラム。
- 定義する各データウェアハウス・センター・プログラム内のパラメーター。

プログラムは取得した値でテンプレート内の適切なトークンを置換しなければなりません。

以下の疑似コードの例のロジックを使用すれば、データウェアハウス・センターによって管理および実行されるアプリケーションをプログラムで定義できます。

```

Read a copy of the SubjectArea.tag template
Search for and replace tokens with the metadata from your native metadata store
(or defaults)
Append the output to a target file
Read a copy of the process

For each step to be defined:
Read a copy of the Step.tag template
Search for and replace tokens with the metadata from your native metadata store
(or defaults)
Append the output to a target file
If the step is to execute your application:
Read a copy of the StepVWPPProgramInstance.tag template
Search for and replace tokens with the metadata from your native metadata store
(or defaults)
Append the output to a target file
For each parameter that your application needs:
Read a copy of the VWPPProgramInstanceParameter.tag template

```

Search for and replace tokens with the metadata from your native metadata store
(or defaults)
Append the output to a target file
End (for each parameter)

If the step is to be related to its VWP output target data:
Read a copy of the StepVWPOutputTable.tag template
Search for and replace tokens with the metadata from your native metadata store
(or defaults)
Append the output to a target file
End (step relation to its output)
End (if step to execute your application)

If the step is to be related to its input source data:
Read a copy of the StepInputTable.tag template
Search for and replace tokens with the metadata from your native metadata store
(or defaults)
Append the output to a target file
End (step relation to its source)
If the step is to be related to its output target data:
Read a copy of the StepOutputTable.tag template
Search for and replace tokens with the metadata from your native metadata store
(or defaults)
Append the output to a target file
End (step relation to its target)
End (for each step)

第 4 章 データウェアハウス・センターからのデータのエクスポ ート

データウェアハウス・センターに定義されているデータ・ソースまたはターゲットをパートナー・アプリケーションに処理させたい場合は、データウェアハウス・センターからメタデータをエクスポートします。

データウェアハウス・センターからメタデータをエクスポートするには、次の手順が関係します。

1. メタデータをエクスポートするオブジェクトを選択する。
2. メタデータをタグ言語ファイルにエクスポートする。

メタデータのエクスポートのためのオブジェクトの選択

データウェアハウス・センターに定義されたデータ・ソースまたはターゲットをパートナー・アプリケーションに操作させたい場合、メタデータをデータウェアハウス・センターからタグ言語ファイルまたは共通ウェアハウス・メタモデル XML ファイルにエクスポートします。

ほとんどのデータウェアハウス・センター・オブジェクトは、データウェアハウス・センターに特定のものであります。しかし、データベース、表、および列についてのメタデータを使用して、パートナー・アプリケーションのためのソースおよびターゲット・データベースを定義することができます。この機能を使用して、同じウェアハウスのデータを変換するパートナー・アプリケーションと、ソースおよびターゲット情報を共有することができます。

たとえば、あるパートナー・ツールはデータベースからターゲット・ファイルにデータをアンロードすると仮定します。別のパートナー・ツールで、そのファイルソース・ファイルとして使用し、そのファイルからデータを読み取るとともに、変換して別のデータ・ファイルに書き込むことができます。

3 番目のパートナー・ツールは、ファイルからデータを読み取って、ターゲット・データベースにロードするとします。データベースおよびファイルについてのメタデータをデータウェアハウス・センターからエクスポートする場合、すべてのパートナー・ツールが同じデータ定義を使用していることを保証することができます。

ソース・データベースを定義するには、1 つ以上のウェアハウス・ソースをエクスポートします (すべての表および列が自動的に組み込まれます)。ターゲット・データベースを定義するには、ウェアハウス・ターゲットをエクスポートします (すべての表および列が自動的に組み込まれます)。

オブジェクトをエクスポートするとき、データウェアハウス・センターはオブジェクトをファイルに書き込みます。オブジェクトは、タグ言語フォーマットまたは共通ウェアハウス・メタモデル・フォーマットでエクスポートできます。

以下の表は、論理データウェアハウス・センター・オブジェクトと論理オブジェクトを表すタグ言語オブジェクトとの間のマッピングを示しています。

表8. ソースおよびターゲット・データベース用の論理オブジェクト

データウェアハウス・センター論理オブジェクト	タグ言語ファイル内のオブジェクト	説明
ウェアハウス・ソース	DATABASE	ソース・データベースまたはファイル
ウェアハウス・ターゲット	DATABASE	ターゲット・データベースまたはファイル
表	TABLES	ソースまたはターゲット・データベース内の表、ファイル、またはセグメント
列	COLUMN	列または表内のフィールドまたはファイル内のフィールド

関連資料:

- 「データウェアハウス・センター 管理ガイド」の『データウェアハウス・センターと CWM XML 間でのオブジェクトとプロパティのメタデータ・マッピング』

タグ言語ファイルへのメタデータのエクスポート

データウェアハウス・センターのユーザー・インターフェースまたはコマンド・ウィンドウを使用して、メタデータをデータウェアハウス・センターからエクスポートすることができます。このトピックでは、コマンド・ウィンドウの使用方法を説明します。

前提条件:

メタデータをタグ言語ファイルにエクスポートする前に、まず、エクスポートするウェアハウス・ソースとウェアハウス・ターゲットのリストで .INP ファイルを作成する必要があります。たとえば、

```
<IR>
LOG_STAT_IR
LOG_STAT_REP
```

LOG_STAT_IR はウェアハウス・ソースで、LOG_STAT_REP がウェアハウス・ターゲットです。データウェアハウス・センターは LOG_STAT_IR および LOG_STAT_REP に関連した表および列を自動的にエクスポートします。

制約事項:

インポート形式およびエクスポート形式は、リリースによって異なります。以前のリリースからのエクスポート・ファイルを使用して、データウェアハウス・センターのあるリリースから別のリリースへの移行を行うことはできません。

手順:

タグ言語ファイルをエクスポートするには、コマンド・プロンプトに対して次のように入力してください。

```
iwh2exp2 INPfilename controlDBname userid password [PREFIX = schema][/B][/C][/D][/R][/S]
```

コマンドの用語を以下に示します。

INPfilename

.INP ファイルの絶対パスおよびファイル名。

データウェアハウス・センターはタグ言語ファイルをこのディレクトリーに書き込むため、このファイルを読み取り/書き込みディレクトリーに作成してください。データウェアハウス・センターはタグ言語ファイルに *INPfilename.TAG* という名前を付けます。

controlDBname

制御データベースの名前。

userID 制御データベースにアクセスするために必要なユーザー ID。

password

制御データベースにアクセスするために必要なパスワード。

[PREFIX = schema]

メタデータ表の表修飾子。

接頭部が指定されない場合、デフォルト値は *IWH* です。

[/B] 選択されていないプロセスからは、従属ステップをエクスポートしません。

[/C] 選択されているオブジェクトからのカスケード・ステップおよびカスケード・プロセスはエクスポートしません。選択されているプロセスおよびタスク・フローによって接続されているプロセスの中のステップから、ショートカットによって接続されているすべてのステップを除外します。

選択したプロセスとそのソースとターゲットだけをタグ・ファイルにエクスポートする場合は、*/B* と */C* を共に指定してください。

[/D] カスケード・ステップおよびカスケード・プロセスはエクスポートしませんが、選択されていないプロセスへのショートカットは含めます。メタデータをインポートする前に、ターゲット・システム上でショートカットまたはプロセス・タスク・フローのターゲット・ステップを定義してください。そうしないとエラーになります。

[/R] エクスポートされるメタデータからソース定義をエクスポートしません。メタデータをインポートする前に、ターゲット・システム上でソースを定義してください。そうしないとエラーになります。

[/S] 選択されたステップのスケジュールと、エクスポートされているメタデータをエクスポートします。

関連タスク:

- 「データウェアハウス・センター 管理ガイド」の『メタデータ・エクスポート機能』
- 「インフォメーション・カタログ・センター 管理ガイド」の『タグ言語ファイルのエクスポート』

- 「インフォメーション・カタログ・センター 管理ガイド」の『タグ言語ファイルのインポート』

第 2 部 メタデータのリファレンス

第 5 章 メタデータ・テンプレート

この章では、データウェアハウス・センターとインフォメーション・カタログ・センターが提供する各テンプレートについて詳しく説明します。各テンプレートのセクションには、そのテンプレートのトークンがリストしてあります。その表には、トークンで使用できる値と、値の長さが示してあります。

交換プログラムにトークンの値がない場合は、交換プログラムでそのトークンを定数 `ISV_DEFAULTVALUE` に設定する必要があります。ただし、必要なトークンには `ISV_DEFAULTVALUE` 以外の値を指定しなければなりません。

セキュリティー・グループに対するテンプレートはないので、プログラムで値 `ISV_DEFAULTSECURITYGROUP` を `*SecurityGroup` トークンのインスタンスに対して指定する必要があります。

テンプレートがデータウェアハウス・センターのパラメーターを設定していない場合は、データウェアハウス・センター定義は、そのパラメーターのデフォルト値になります。たとえば、データウェアハウスは、ソース・データベースの再試行カウントと再試行インターバルのパラメーターをそれらに対するデフォルト値に設定します。

表 9 には、データウェアハウス・センターに備わっているメタデータ・テンプレート、および各テンプレートについて解説するセクションがリストされています。

データウェアハウス・センターとともに提供されるメタデータ・テンプレート

以下の表は、データウェアハウス・センターとともに提供されるメタデータ・テンプレートと、各テンプレートについて説明するトピックをリストしています。

表 9. データウェアハウス・センターとともに提供されるメタデータ・テンプレート

テンプレート	説明
AgentSite.tag	エージェントがデータ・ソースまたはターゲット・ウェアハウスにアクセスする、またはデータウェアハウス・センター・プログラムが実行される、エージェント・サイトを定義します。
AgenttoDatabase.tag	エージェント・サイトを既存のソースまたはターゲット・データベースに関連付けます。
AgenttoProgram.tag	エージェント・サイトを既存のデータウェアハウス・センター・プログラムに関連付けます。
Column.tag	表、セグメント、またはファイル内の列またはフィールドを定義します。
Commit.tag	大規模なタグ言語ファイルを使用するときのパフォーマンスを改善します。
ForeignKey.tag	表に関する外部キー制約を定義します。
ForeignKeyAdditional.tag	複合外部キーを定義します。

表 9. データウェアハウス・センターとともに提供されるメタデータ・テンプレート (続き)

テンプレート	説明
HeaderInfo.tag	データウェアハウス・センター・インポート・ユーティリティの制御情報が入っています。
PrimaryKey.tag	表に関する主キーの制約を定義します。
PrimaryKeyAdditional.tag	複合主キーを定義します。
Process.tag	プロセスを定義します。
StarSchema.tag	スタースキーマを定義します。
StarSchemaInputTable.tag	表とスタースキーマとの間の関係を定義します。
Step.tag	ステップを定義します。
StepCascade.tag	ステップ間のカスケード関係を定義します。
StepInputTable.tag	ステップとそのソース表との間の関係を定義します。
StepOutputTable.tag	ステップとそのターゲットとの間の関係を定義します。
StepVWPOutputTable.tag	ステップとウェアハウス・ターゲットとの間の関係を定義します。
StepVWPPProgramInstance.tag	ステップによって使用される特定のテンプレートのインスタンスを定義します。
SourceDataBase.tag	ウェアハウス・ソースを定義します。
SubjectArea.tag	作成されているプロセスおよびステップを含むサブジェクト・エリアを定義します。
Table.tag	データウェアハウス・センターのアクセス先となる表またはファイルを定義します。
VWPGroup.tag	定義しているすべてのデータウェアハウス・センター・プログラムを入れるグループを定義します。
VWPPProgramInstanceParameter.tag	データウェアハウス・センターが特定のステップによって使用されるデータウェアハウス・センター・プログラムのインスタンスに渡すパラメーターを、追加または変更します。
VWPPProgramTemplate.tag	データウェアハウス・センター・プログラムを定義します。
VWPPProgramTemplateParameter.tag	データウェアハウス・センターがデータウェアハウス・センター・プログラムに渡すパラメーターを定義します。
WarehouseDataBase.tag	ウェアハウス・ターゲットを定義します。

データウェアハウス・センター用の AgentSite.tag テンプレート

AgentSite.tag テンプレートは、次のようなエージェント・サイトの定義に使用できません。

- エージェントがデータ・ソースまたはターゲット・ウェアハウスにアクセスするエージェント・サイト。

- データウェアハウス・センター・プログラムが実行されるエージェント・サイト。

以下のエージェント・サイト・タイプの 1 つを使用できます。

- ウェアハウス・コントロール・データベース内ですでに定義されているエージェント・サイト。

既存のエージェント・サイトを使用するためには、 **AgentSite* トークンのすべての出現をエージェント・サイト名に置き換えます。

- デフォルトのエージェント・サイト。

デフォルトのエージェント・サイトを使用するためには、 **AgentSite* トークンのすべての出現を `ISV_DEFAULTAGENTSITE` に置き換えます。

- `AgentSite.tag` テンプレートを使用して定義した新規のエージェント・サイト。

新規のエージェント・サイトを定義するには、 `AgentSite.tag` テンプレート内のトークンの値を定義します。 **AgentSite* トークンのすべての出現を、新規のエージェント・サイト名に置き換えます。

次の表は、テンプレートにあるそれぞれのトークンについての情報と例を示しています。

表 10. `AgentSite.tag` のトークン

トークン	説明	許容値
エンティティ・パラメーター		
<i>*AgentSite</i>	<p>新規のエージェント・サイトの名前、またはエージェントが新規でない場合はデフォルトのエージェント・サイトの名前。</p> <p>新規の名前を指定する場合、ウェアハウス・コントロール・データベース内でユニークの名前にしなければなりません。</p> <p>このトークンは必要ですが、デフォルトのエージェント・サイト <code>ISV_DEFAULTAGENTSITE</code> を指定することもできます。</p>	<p>最長 80 バイトのテキスト・ストリング。</p> <p>新規のエージェント・サイトを作成したくない場合、デフォルトのエージェント・サイトとして <code>ISV_DEFAULTAGENTSITE</code> を使用してください。</p>
<i>*AgentSiteContact</i>	このエージェントに責任を持つ人または組織の名前。	テキスト・ストリング。
<i>*AgentSiteDescription</i>	<p>エージェント・サイトについての簡略説明。</p> <p>このトークンはオプションです。</p>	最長 254 バイトのテキスト・ストリング。
<i>*AgentSiteNotes</i>	<p>エージェント・サイトについての詳細説明。</p> <p>このトークンはオプションです。</p>	最長 32700 バイトのテキスト・ストリング。

表 10. AgentSite.tag のトークン (続き)

トークン	説明	許容値
*AgentSiteOSType	エージェント・サイト上で実行するオペレーティング・システムのタイプ。 このトークンは必須です。	次のいずれかの値: ISV_windowsNT Windows NT® ISV_AIX AIX® ISV_as400 AS/400® ISV_Solaris SUN ISV_MVS MVS ISV_Linux Linux
*AgentSiteTCP/IPHostname	エージェント・サイトの TCP/IP ホスト名。 このトークンは必須です。	最長 200 バイトのテキスト・ストリング。
*AgentSiteUserid	その下でエージェントが実行されるユーザー ID。 このトークンは必須です。	最長 36 バイトのテキスト・ストリング。

表 11. AgentSite.tag トークンの値の例

トークン	値の例
*AgentSite	マイ・エージェント・サイト
*AgentSiteContact	DEPT W24A
*AgentSiteDescription	これはマイ・エージェント・サイトの説明です。
*AgentSiteNotes	これらはマイ・エージェント・サイトの注です。
*AgentSiteOSType	ISV_Solaris
*AgentSiteTCP/IPHostname	CHI11W71.stl.ibm.com
*AgentSiteUserid	VWADMIN

関連資料:

- 31 ページの『データウェアハウス・センターとともに提供されるメタデータ・テンプレート』

データウェアハウス・センター用のトークン Column.tag テンプレート

この Column.tag テンプレートは、表内の列、またはセグメントあるいはファイル内のフィールドを定義します。このテンプレートを使用して、ソースおよびターゲットの両方の列またはフィールドを定義できます。

この `Column.tag` テンプレートは、列またはフィールドと、その列またはフィールドが入っている表、セグメント、またはファイルとの間の関係を定義します。
`Table.tag` テンプレートを使用してソースまたはターゲットを定義した場合、このテンプレートを含めなければなりません。

次の表は、テンプレートにあるそれぞれのトークンについての情報を示しています。

表 12. `Column.tag` トークン

トークン	説明	許容値
エンティティ・パラメーター		
<code>*ColumnName</code>	列またはフィールドの名前。 この名前は、表またはフィールド内でユニークでなければなりません。 このトークンは必須です。	最長 80 バイトのテキスト・ストリング。
<code>*ColumnDescription</code>	列またはフィールドについての簡略説明。 このトークンはオプションです。	最長 254 バイトのテキスト・ストリング。
<code>*ColumnNotes</code>	列またはフィールドについての詳細説明。 このトークンはオプションです。	最長 32700 バイトのテキスト・ストリング。
<code>*ColumnOffsetFromZero</code>	ファイルの先頭からこのフィールドのデータが開始する位置までのバイト数で表したオフセット。	数値または 0。
<code>*ColumnOrdinalNumber</code>	列の位置順序。通常は <code>*ColumnPositionNumber</code> と同じです。	数値または 0。
<code>*ColumnUserActions</code>	この列またはフィールド上でユーザーが実行できるアクション。 このトークンはオプションです。	最長 254 バイトのテキスト・ストリング。
<code>*ColumnLength</code>	作成されている列またはフィールドの長さ。 このトークンは必須です。	数値。
<code>*ColumnPrecision</code>	10 進データ・タイプの列またはフィールドの、列またはフィールドの精度。 このトークンは必須です。	数値または 0。

表 12. Column.tag トークン (続き)

トークン	説明	許容値
*ColumnKeyPosition	この列がキーの一部である場合、キー内の列の位置。 このトークンは必須です。	数値。精度の値がない場合、0 を指定します。
*ColumnPositionNumber	行内での列の順位を示す、1 から始まる数値。 このトークンは必須です。	数値。
*ColumnAllowsNulls	列またはフィールドで NULL データが許されるかどうかを示すフラグ。 このトークンは必須です。	次のいずれかの値: ISV_NULLSYSYES この列は NULL データが許される。 ISV_NULLSNO この列では NULL データが許されない。
*ColumnDataIsText	列またはフィールドが文字タイプの場合、入れられるのがテキスト・データだけかどうかを示すフラグ。 このトークンは必須です。	次のいずれかの値: ISV_IStEXTYES この列にはテキスト・データだけが入ります。 ISV_IStEXTNO この列にはテキスト以外のデータも入ります。
*ColumnEditionType	列にデータウェアハウス・センターのエディション情報が含まれるかどうかを示します。	次のいずれかの値: ISV_ColumnIsEditionColumn この列はエディション列です。 ISV_ColumnIsNormal この列は通常の列です。

表 12. Column.tag トークン (続き)

トークン	説明	許容値
*ColumnNativeDataType	<p>データベース・マネージャーまたはファイル・システムに定義された、列またはフィールドのデータ・タイプ。</p> <p>このトークンは必須です。</p>	<p>次のいずれかの値:</p> <p>ISV_NATIVE_CHAR</p> <p>ISV_NATIVE_VARCHAR</p> <p>ISV_NATIVE_LONGVARCHAR</p> <p>ISV_NATIVE_VARCHAR2</p> <p>ISV_NATIVE_GRAPHIC</p> <p>ISV_NATIVE_VARGRAPHIC</p> <p>ISV_NATIVE_LONGVARGRAPHIC</p> <p>ISV_NATIVE_CLOB</p> <p>ISV_NATIVE_INT</p> <p>ISV_NATIVE_TINYINT</p> <p>ISV_NATIVE_BLOB</p> <p>ISV_NATIVE_SMALLINT</p> <p>ISV_NATIVE_INTEGER</p> <p>ISV_NATIVE_FLOAT</p> <p>ISV_NATIVE_SMALLFLOAT</p> <p>ISV_NATIVE_DOUBLE</p> <p>ISV_NATIVE_REAL</p> <p>ISV_NATIVE_DECIMAL</p> <p>ISV_NATIVE_SMALLMONEY</p> <p>ISV_NATIVE_MONEY</p> <p>ISV_NATIVE_NUMBER</p>

表 12. Column.tag トークン (続き)

トークン	説明	許容値
*ColumnNativeDataType (続き)	データベース・マネージャーまたはファイル・システムに定義された、列またはフィールドのデータ・タイプ。 このトークンは必須です。	次のいずれかの値: ISV_NATIVE_NUMERIC ISV_NATIVE_DATE ISV_NATIVE_TIME ISV_NATIVE_TIMESTAMP ISV_NATIVE_LONG ISV_NATIVE_RAW ISV_NATIVE_LONGRAW ISV_NATIVE_DATETIME ISV_NATIVE_SMALLDATETIME ISV_NATIVE_SYSNAME ISV_NATIVE_TEXT ISV_NATIVE_BINARY ISV_NATIVE_VARBINARY ISV_NATIVE_LONGVARBINARY ISV_NATIVE_BIT ISV_NATIVE_IMAGE ISV_NATIVE_SERIAL ISV_NATIVE_DBCLOB ISV_NATIVE_BIGINT ISV_NATIVE_DATETIMEYEARTOFRACTION
関係パラメーター		
*DatabaseName	ウェアハウス・ソースまたはウェアハウス・ターゲットのビジネス上の名前。 このトークンは必須です。	最長 40 バイトのテキスト・ストリング。
*TablePhysicalName	データベース・マネージャーまたはファイル・システムに定義された、列を含む表またはファイルの物理名。 このトークンは必須です。	最長 80 バイトのテキスト・ストリング。
*TableOwner	列を含む表の所有者、高レベル修飾子、コレクション、またはスキーマ。 このトークンは必須です。	最長 15 バイトのテキスト・ストリング。

表 13. Column.tag トークンの値の例

トークン	値の例
*ColumnName	Geography_code
*ColumnDescription	この列には地域コードが入ります。

表 13. *Column.tag* トークンの値の例 (続き)

トークン	値の例
* <i>ColumnNotes</i>	この列の正しい値は、地域リファレンス・マニュアルで見つけることができます。
* <i>ColumnOffsetFromZero</i>	0
* <i>ColumnOrdinalNumber</i>	0
* <i>ColumnUserActions</i>	ユーザーは単一列を直接表示することはできません。
* <i>ColumnLength</i>	10
* <i>ColumnPrecision</i>	0
* <i>ColumnKeyPosition</i>	0
* <i>ColumnAllowsNulls</i>	ISV_NULLSNO
* <i>ColumnDataIsText</i>	ISV_ISTEXTYES
* <i>ColumnNativeDataType</i>	ISV_NATIVE_CHAR
* <i>DatabasePhysicalName</i>	FINANCE
* <i>TableOwner</i>	DB2ADMIN
* <i>TablePhysicalName</i>	GEOGRAPHY

関連資料:

- 31 ページの『データウェアハウス・センターとともに提供されるメタデータ・テンプレート』

データウェアハウス・センター用のトークン *HeaderInfo.tag* テンプレート

このテンプレートは常に必要であり、タグ言語ファイルの先頭になければなりません。このテンプレートには、データウェアハウス・センター・インポート・ユーティリティの制御情報が入っています。置換するトークンはなく、テンプレートは変更なしで使用されます。

関連資料:

- 31 ページの『データウェアハウス・センターとともに提供されるメタデータ・テンプレート』

データウェアハウス・センター用のトークン *Process.tag* テンプレート

この *Process.tag* テンプレートは、ステップをグループ化するプロセスを定義するために使用します。各ステップは、1 つのプロセスだけに含まれていなければなりません。このプロセスはサブジェクト・エリアに関連付けられて、各パートナー・アプリケーションにはプロセスが常駐する少なくとも 1 つのサブジェクト・エリアがなければなりません。このテンプレートは、サブジェクト・エリアとパートナー・アプリケーションのセキュリティー・グループとの間、およびプロセスとサブジェクト・エリアとの間の関係を定義します。

パートナー・アプリケーションがデータウェアハウス・センターへのステップを定義しているとき、このテンプレートは必須です。

新規のプロセス・オブジェクトを作成する場合、*ProcessName トークンに指定する値は、ウェアハウス・コントロール・データベース内に定義されたすべてのプロセスに対してユニークでなければなりません。

次の表は、テンプレートにあるそれぞれのトークンについての情報と例を示しています。

表 14. Process.tag のトークン： このテンプレートには、関係パラメーターだけが含まれます。

トークン	説明	許容値
エンティティ・パラメーター		
*ProcessName	プロセスのユニーク名。	最長 80 バイトのテキスト・ストリング。
*ProcessDescription	プロセスに関連した説明。	最長 254 バイトのテキスト・ストリング。
*ProcessNotes	プロセスに関連した詳細説明。	最長 32,700 バイトのテキスト・ストリング。
*ProcessContact	このステップに関する質問または考慮事項についての連絡先となる個人またはグループの名前。	テキスト・ストリング。
*ProcessType	ソース・データが存在しない場合の処理オプション。	次のいずれかの値: ISV_ProcessType_Normal プロセスは通常のユーザー・プロセスです。
関係パラメーター		
*SubjectArea	作成中またはこのプロセスに追加中のプロセスおよびステップを含むことになるサブジェクト・エリアの名前。	最長 80 バイトのテキスト・ストリング。
*SecurityGroup	インポート中のすべてのオブジェクトを含むことになるセキュリティ・グループ。 このトークンは必要であり、デフォルトのセキュリティ・グループを指定しなければなりません。	デフォルトのセキュリティ・グループとして ISV_DEFAULTSECURITYGROUP 。

表 15. Process.tag トークンの値の例

トークン	値の例
*ProcessName	マーケティング・プロセス
*ProcessDescription	マーケティング組織により使用されるステップのコレクション
*ProcessNotes	マーケティング組織により使用されるスタースキーマを作成するステップ
*ProcessContact	マーケティング
*ProcessType	ISV_ProcessType_2
*SubjectArea	このパートナー・アプリケーション用に生成されるプロセスのグループ
*SecurityGroup	ISV_DEFAULTSECURITYGROUP

データウェアハウス・センター用のトークン StarSchema.tag テンプレート

この StarSchema.tag テンプレートを使用して、関連した表をグループ化する方法としてスタースキーマを定義できます。このテンプレートを使用して (さらに DB2 OLAP Integration Server で使用するために) 同じデータベース内の表を関連付けたり、複数のデータベースの関連する表を論理的にグループ化したりすることができます。

次の表は、テンプレートにあるそれぞれのトークンについての情報と例を示しています。

表 16. StarSchema.tag のトークン

トークン	説明	許容値
エンティティ・パラメーター		
*StarSchemaName	作成中または関連付け中のスタースキーマのユニーク名。	最長 80 バイトのテキスト・ストリング。
*StarSchemaDescription	スタースキーマに関連した説明。	最長 254 バイトのテキスト・ストリング。
*StarSchemaNotes	ステップに関連した詳細説明。	最長 32,700 バイトのテキスト・ストリング。
*StarSchemaContact	このステップに関する質問または考慮事項についての連絡先となる個人またはグループの名前。	テキスト・ストリング。
*StarSchemaDBName	作成中のデータベースのビジネス名。	テキスト・ストリング。

表 17. StarSchema.tag トークンの値の例

トークン	値の例
*StarSchemaName	マーケティング・スキーマ
*StarSchemaDescription	このスタースキーマは、マーケティング部の内部データベースを表します。
*StarSchemaNotes	マーケティング部で使用される表
*StarSchemaContact	マーケティング・グループ
*StarSchemaDBName	マーケティング

関連資料:

- 31 ページの『データウェアハウス・センターとともに提供されるメタデータ・テンプレート』

データウェアハウス・センター用の StarSchemaInputTable.tag テンプレート

このテンプレートを使用して、スタースキーマとその入力ソースとの間の関係を定義します。この関係はすべてのスタースキーマに必要です。

次の表は、テンプレートにあるそれぞれのトークンについての情報と例を示しています。

表 18. *StarSchemaInputTable.tag* トークン

トークン	説明	許容値
エンティティ・パラメーター		
<i>*StarSchemaName</i>	作成中または関連付け中のスター スキーマの名前。	テキスト・ストリング。
関係パラメーター		
<i>*DatabaseName</i>	作成中のデータベースのビジネス 名。	テキスト・ストリング。
<i>*TableOwner</i>	説明されている表の所有者、高レ ベル修飾子、コレクション、また はスキーマ。 この値は ODBC の規則に定義さ れている有効な修飾子でなければ なりません。	テキスト・ストリング。
<i>*TablePhysicalName</i>	ODBC に知られている物理表名 (システム DSN 名)。	テキスト・ストリング。

以下の表は、各トークンに指定するメタデータの種類を例示するために、各トークンの値の例を示しています。

表 19. *StarSchemaInputTable.tag* トークンの値の例

トークン	値の例
<i>*StarSchemaName</i>	金融スキーマ
<i>*DatabaseName</i>	金融ウェアハウス
<i>*TableOwner</i>	DB2ADMIN
<i>*TablePhysicalName</i>	DB2ADMIN.GEOGRAPHY

関連資料:

- 31 ページの『データウェアハウス・センターとともに提供されるメタデータ・テンプレート』

データウェアハウス・センター用の Step.tag テンプレート

この Step.tag テンプレートを使用してデータウェアハウス・センターが管理するステップを定義します。このテンプレートには、セキュリティー・グループ、プロセス、およびエージェントへの関係についての情報が含まれています。

このテンプレートは、ソースおよびターゲット・データとの間の関係を生成している、またはデータウェアハウス・センターが実行するプログラムを定義している、すべてのパートナー・アプリケーションが必要です。

新規のステップ・オブジェクトを作成する場合、*StepName トークンに指定する値は、ウェアハウス・コントロール・データベース内に定義されたすべてのステップに対してユニークでなければなりません。

次の表は、テンプレートにあるそれぞれのトークンについての情報と例を示しています。

表 20. Step.tag のトークン

トークン	説明	許容値
エンティティ・パラメーター		
*StepName	作成中または関連付け中のステップの名前。この名前はデータウェアハウス・センター内でユニークでなければなりません。	最長 80 バイトのテキスト・ストリング。
*StepDescription	ステップに関連した説明。	最長 254 バイトのテキスト・ストリング。
*StepNotes	ステップに関連した詳細説明。	最長 32,700 バイトのテキスト・ストリング。
*StepDataNotPresent	ソース・データが存在しない場合の処理オプション。	次のいずれかの値: ISV_StepDataNotPresent_OK データが存在しない場合、処理を続けます。 ISV_StepDataNotPresent_Warning データが存在しない場合、警告を発行して処理を続けます。 ISV_StepDataNotPresent_Error データが存在しない場合、エラー・メッセージを発行して処理を停止します。
*StepSelectStatement	SQL ステートメントは ISV_StepSelectStatementNo であれば発行されます。	SQL ストリング。
*StepContact	このステップに関する質問または考慮事項についての連絡先となる個人またはグループの名前。	テキスト・ストリング。

表 20. Step.tag のトークン (続き)

トークン	説明	許容値
*StepType	作成中のステップのタイプ。	次のいずれかの値: ISV_StepType_Editioned_Append ステップが実行されると、表内のデータは追加されます。 ISV_StepType_Full_Replace ステップが実行されると、表内のデータは置換されます。 ISV_StepType_Uneditioned_Append ステップが実行されると、表内のデータは追加されます。 ISV_StepType_VWP_Population 表内のデータはデータウェアハウス・センター・プログラムによって取り込まれます。
*StepSQLWarning	SQL 警告が生じた場合の処理オプション。	次のいずれかの値: ISV_StepSQLWarning_OK SQL 警告が生じた場合、処理を続けます。 ISV_StepSQLWarning_Warning SQL 警告が生じた場合、警告を発行して処理を続けます。 ISV_StepSQLWarning_Error SQL 警告が生じた場合、エラーを発行して処理を停止します。
*StepCommit	*StepCommitAfterNumberRows がステップのターゲット表に挿入された後、データウェアハウス・センターが断続的にコミットするかどうかを指定するフラグ。	次のいずれかの値: ISV_Step_Incremental_Commit_On データはターゲットにおいて断続的にコミットされます。 ISV_Step_Incremental_Commit_Off データはターゲットにおいて断続的にコミットされません。
*StepCommitAfterNumberRows	コミットの前に挿入される行数。	数値。
関係パラメーター		
*SecurityGroup	インポート中のすべてのオブジェクトを含むことになるセキュリティー・グループ。 このトークンは必要であり、デフォルトのセキュリティー・グループを指定しなければなりません。	デフォルトのセキュリティー・グループとして ISV_DEFAULTSECURITYGROUP。
*ProcessName	プロセスの名前。 このトークンは必須です。	最長 80 バイトのテキスト・ストリング。

表 20. Step.tag のトークン (続き)

トークン	説明	許容値
*AgentSite	<p>新規のエージェント・サイトの名前、またはエージェントが新規でない場合はデフォルトのエージェント・サイトの名前。</p> <p>新規の名前を指定する場合、データウェアハウス・センター・コントロール・データベース内でユニークの名前にしなければなりません。</p> <p>このトークンは必要ですが、デフォルトのエージェント・サイト ISV_DEFAULTAGENTSITE を指定することもできます。</p>	<p>最長 80 バイトのテキスト・ストリング。</p> <p>新規のエージェント・サイトを作成したくない場合、デフォルトのエージェント・サイトとして ISV_DEFAULTAGENTSITE を使用してください。</p>

表 21. Step.tag トークンの値の例

トークン	値の例
*StepName	ロケーションによる売り上げ
*StepDescription	このステップは、DB2 表内のロケーションごとに売り上げを作成するためのデータを抽出します。
*StepNotes	地域 7 の売り上げは、4 つのソース Oracle 表に由来します。
*StepDataNotPresent	ISV_StepDataNotPresent_Error
*StepSelectStatement	SELECT * FROM IWH.REVENUE_BY_LOCATION
*StepContact	Jason Smythe
*StepType	ISV_StepType_Full_Replace
*StepSQLWarning	ISV_StepSQLWarning_Warning
*StepCommit	ISV_Step_Incremental_Commit_On
*StepCommitAfterNumberRows	10000
*SecurityGroup	ISV_DEFAULTSECURITYGROUP
*ProcessName	マーケティング・プロセス
*AgentSite	マイ・エージェント・サイト

関連資料:

- 31 ページの『データウェアハウス・センターとともに提供されるメタデータ・テンプレート』

データウェアハウス・センター用の StepCascade.tag テンプレート

この StepCascade.tag テンプレートを使用して 2 つのステップ間の関係を定義し、指定されたステップが完了すると別のステップが開始するようにします。

このテンプレートが必要なのは、パートナー・アプリケーションが複数のステップをカスケード関係に定義している場合だけです。

次の表は、テンプレートにあるそれぞれの StepCascade.tag トークンについての情報と例を示しています。

表 22. StepCascade.tag のトークン

トークン	説明	許容値
エンティティ・パラメーター		
*StepName	関連付け中のステップの名前。	テキスト・ストリング。
*PostStepName	他のステップが完了すると開始されるステップの名前。	テキスト・ストリング。

表 23. StepCascade.tag トークンの値の例

トークン	値の例
*StepName	ロケーションによる売り上げ
*PostStepName	すべての地域の売り上げ

関連資料:

- 31 ページの『データウェアハウス・センターとともに提供されるメタデータ・テンプレート』

データウェアハウス・センター用の StepInputTable.tag テンプレート

このテンプレートを使用して、スタースキーマとその入力ソースとの間の関係を定義します。この関係はすべてのスタースキーマに必要です。

次の表は、テンプレートにあるそれぞれのトークンについての情報と例を示しています。

表 24. StepInputTable.tag のトークン

トークン	説明	許容値
エンティティ・パラメーター		
*StarSchemaName	作成中または関連付け中のスタースキーマの名前。	テキスト・ストリング。
関係パラメーター		
*DatabaseName	作成中のデータベースのビジネス名。	テキスト・ストリング。
*TableOwner	説明されている表の所有者、高レベル修飾子、コレクション、またはスキーマ。 この値は ODBC の規則に定義されている有効な修飾子でなければなりません。	テキスト・ストリング。
*TablePhysicalName	ODBC に知られている物理表名 (システム DSN 名)。	テキスト・ストリング。

以下の表は、各トークンに指定するメタデータの種類を例示するために、各トークンの値の例を示しています。

表 25. *StepInputTable.tag* トークンの値の例

トークン	値の例
*StarSchemaName	金融スキーマ
*DatabaseName	金融ウェアハウス
*TableOwner	DB2ADMIN
*TablePhysicalName	DB2ADMIN.GEOGRAPHY

関連資料:

- 31 ページの『データウェアハウス・センターとともに提供されるメタデータ・テンプレート』

データウェアハウス・センター用の *StepOutputTable.tag* テンプレート

この *StepOutputTable.tag* テンプレートを使用して、ステップとその出力ターゲットとの間の関係を定義します。

この関係は、*ISV_StepType_Editioned_Append*、*ISV_StepType_Full_Replace*、および *ISV_StepType_Uneditioned_Append* のタイプのステップでは必要です。

次の表は、テンプレートにあるそれぞれのトークンについての情報と例を示しています。

表 26. *StepOutputTable.tag* トークン

トークン	説明	許容値
エンティティ・パラメーター		
*StepName	作成中または関連付け中のステップの名前。	テキスト・ストリング。
関係パラメーター		
*DatabaseName	関連付け中のデータベースのビジネス名。	テキスト・ストリング。
*TableOwner	説明されている表の所有者、高レベル修飾子、コレクション、またはスキーマ。 この値は ODBC の規則に定義されている有効な修飾子でなければなりません。	テキスト・ストリング。
*TablePhysicalName	ODBC に知られている物理表名 (システム DSN 名)。	テキスト・ストリング。
*ProcessName	関連付け中のプロセスの名前。	テキスト・ストリング。

表 27. *StepOutputTable.tag* トークンの値の例

トークン	値の例
*StepName	製品による売り上げ

表 27. StepOutputTable.tag トークンの値の例 (続き)

トークン	値の例
*DatabaseName	金融ウェアハウス
*TableOwner	FINADMIN
*TablePhysicalName	INVENTORY
*ProcessName	マーケティング・プロセス

関連資料:

- 31 ページの『データウェアハウス・センターとともに提供されるメタデータ・テンプレート』

データウェアハウス・センター用の StepVWPOutputTable.tag テンプレート

このテンプレートを使用して、ISV_StepType_VWP_Population タイプのステップとその出力ターゲットとの間の関係をオプションで定義します。

次の表は、テンプレートにあるそれぞれのトークンについての情報と例を示しています。

表 28. StepVWPOutputTable.tag のトークン

トークン	説明	許容値
エンティティ・パラメーター		
*StepName	関連付け中のステップの名前。	テキスト・ストリング。
関係パラメーター		
*DatabaseName	作成中のデータベースのビジネス名。	テキスト・ストリング。
*TableOwner	説明されている表の所有者、高レベル修飾子、コレクション、またはスキーマ。 この値は ODBC の規則に定義されている有効な修飾子でなければなりません。	テキスト・ストリング。
*TablePhysicalName	ODBC に知られている物理表名 (システム DSN 名)。	テキスト・ストリング。
*ProcessName	作成中または関連付け中のプロセスの名前。	テキスト・ストリング。

表 29. StepVWPOutputTable.tag トークンの値の例

トークン	値の例
*StepName	製品による売り上げ
*DatabaseName	金融ウェアハウス
*TableOwner	FINADMIN
*TablePhysicalName	INVENTORY

表 29. StepVWPOutputTable.tag トークンの値の例 (続き)

トークン	値の例
*ProcessName	マーケティング・プロセス

関連資料:

- 31 ページの『データウェアハウス・センターとともに提供されるメタデータ・テンプレート』

データウェアハウス・センター用の StepVWPProgramInstance.tag テンプレート

このテンプレートを使用して、ウェアハウス・エージェントによって実行されるデータウェアハウス・センター・プログラムのインスタンスを定義します。このテンプレートはさらに、VWPTemplate と呼ばれるデータウェアハウス・センター・プログラム定義への関係、およびデータウェアハウス・センター・プログラムを使用するステップを定義します。このテンプレートは、データウェアハウス・センター・プログラムを使用するステップごとに必要です。

次の表は、テンプレートにあるそれぞれのトークンについての情報と例を示しています。

表 30. StepVWPProgramInstance.tag のトークン

トークン	説明	許容値
エンティティ・パラメーター		
*VWPProgramInstanceKey	このプログラムのインスタンスをユニークに識別するキー。このキーは、タグ言語ファイル内の他のすべてのキーに対してユニークでなければなりません。	数値。
<p>ヒント: VWPProgramInstance.tag テンプレートの処理を終了してから、キーの値を増加させてください。</p> <p>このトークンは必須です。</p>		
関係パラメーター		
*StepName	関連付け中のステップの名前。	テキスト・ストリング。
*VWPProgramTemplateName	作成中のデータウェアハウス・センター・プログラム・テンプレートのビジネス名。	テキスト・ストリング。

表 31. StepVWPProgramInstance.tag トークンの値の例

トークン	値の例
*VWPProgramInstanceKey	070001
*StepName	ロケーションによる売り上げ
*VWPProgramTemplateName	マイ ISV プログラム

関連資料:

- 31 ページの『データウェアハウス・センターとともに提供されるメタデータ・テンプレート』

データウェアハウス・センター用の AgenttoDatabase.tag テンプレート

AgenttoDatabase.tag テンプレートは、エージェント・サイトを既存のソースまたはターゲット・データベースに関連付けます。タグ言語ファイルに定義されているエージェント・サイトがデータウェアハウス・センター・コントロール・データベースにあるソースまたはターゲット・データベースを参照する場合、このテンプレートが必要です。

表 32. AgenttoDatabase.tag トークン

トークン	説明	許容値
関係パラメーター		
*DatabaseName	データベース名。この名前は、ウェアハウス・コントロール・データベース内でユニークでなければなりません。 このトークンは必須です。	最長 80 バイトのテキスト・ストリング。
*DatabasePhysicalName	ODBC に知られている、データベース・マネージャーに定義された物理データベース名。 このトークンは必須です。	最長 40 バイトのテキスト・ストリング。
*AgentSite	ソースまたはターゲットに使用するエージェント・サイト名。 このトークンは必須です。	最長 80 バイトのテキスト・ストリング。デフォルトのエージェント・サイトを使用するための ISV_DEFAULTAGENTSITE を指定してください。

表 33. AgenttoDatabase.tag トークンの値の例

トークン	値の例
*DatabaseName	金融ウェアハウス
*DatabasePhysicalName	金融
*AgentSite	マイ・エージェント・サイト名

関連資料:

- 31 ページの『データウェアハウス・センターとともに提供されるメタデータ・テンプレート』

データウェアハウス・センター用の AgenttoProgram.tag テンプレート

エージェント・サイトを既存のデータウェアハウス・センター・プログラムに関連付けるには、AgenttoProgram.tag テンプレートを使用してください。タグ言語ファイルに定義されているエージェント・サイトがデータウェアハウス・センター・コントロール・データベースにあるデータウェアハウス・センター・プログラムを参照する場合、このテンプレートが必要です。

表 34. AgenttoProgram.tag トークン

トークン	説明	許容値
関係パラメーター		
*VWPProgramTemplateName	データウェアハウス・センター・プログラム・テンプレートの名前。この名前は、ウェアハウス・コントロール・データベース内でユニークでなければなりません。 このトークンは必須です。	最長 80 バイトのテキスト・ストリング。
*AgentSite	ソースまたはターゲットに使用するエージェント・サイトの名前。 このトークンは必須です。	最長 80 バイトのテキスト・ストリング。 デフォルトのエージェント・サイトは、ISV_DEFAULTAGENTSITE を指定します。

表 35. AgenttoProgram.tag トークンの値の例

トークン	値の例
*VWPProgramTemplateName	マイ ISV プログラム名
*AgentSite	マイ・エージェント・サイト名

関連資料:

- 31 ページの『データウェアハウス・センターとともに提供されるメタデータ・テンプレート』

データウェアハウス・センター用の Commit.tag テンプレート

大規模なタグ言語ファイルの使用時のパフォーマンスを改善するには、このテンプレートを使用してください。ここで説明する任意のテンプレート・グループの間にコミット・テンプレートを挿入することができます。以下のグループにあるテンプレートの間にコミット・テンプレートを挿入することはできません。

- AgenttoDatabase.tag、AgenttoProgram.tag
- AgentSite.tag
- VWPGroup.tag
- VWPProgramTemplate.tag、VWPProgramTemplateParameter.tag
- SourceDatabase.tag
- WarehouseDatabase.tag

- Table.tag、Column.tag
- SubjectArea.tag
- Process.tag
- Step.tag、StepInputTable.tag、StepOutputTable.tag、StepVWPOutputTable.tag、StepVWPPProgramInstance.tag、VWPPProgramInstanceParameter.tag
- StepCascade.tag
- StarSchema.tag、StarSchemaInputTable.tag
- PrimaryKey.tag、PrimaryKeyAdditional.tag
- ForeignKey.tag、ForeignKeyAdditional.tag

たとえば、AgentSite.tag と VWPGroup.tag の間にコミット・テンプレートを挿入することはできませんが、VWPPProgramTemplate.tag と VWPPProgramTemplateParameter.tag の間には挿入できません。コミット・テンプレートが間違っていて使用されると、インポートでエラーが報告されることがあります。

コミット・テンプレートの使用はオプションです。

表 36. Commit.tag トークン

トークン	説明	許容値
関係パラメーター		
*CurrentCheckPointID++	0 から始まり、トークンに置換されるたびに増加する索引。 このトークンは必須です。	数値。

表 37. Commit.tag トークンの値の例

トークン	値の例
*CurrentCheckPointID++	1

関連資料:

- 31 ページの『データウェアハウス・センターとともに提供されるメタデータ・テンプレート』

データウェアハウス・センター用の ForeignKey.tag テンプレート

表に関する外部キー制約を定義するには、このテンプレートを使用します。この ForeignKey.tag テンプレートは、制約を定義する対象の表と列に対する関係を定義します。また、このテンプレートは、参照される主キーの表と列に対する関係も定義します。 ForeignKey.tag テンプレートを使用する前に、(PrimaryKey.tag テンプレートを使用して) 主キー制約を定義し、外部キー制約を定義する表と列を (Table.tag と Column.tag テンプレートを使用して) 定義する必要があります。

表 38. ForeignKey.tag トークン

トークン	説明	許容値
エンティティ・パラメーター		

表 38. ForeignKey.tag トークン (続き)

トークン	説明	許容値
*ConstraintName	<p>制約の名前。この名前は、表またはフィールド内でユニークでなければなりません。</p> <p>このトークンは必須です。</p>	最長 80 バイトのテキスト・ストリング。
*ForeignKeyColumnName	<p>外部キー制約を定義する、列の名前。</p>	最長 254 バイトのテキスト・ストリング。
*ForeignKeyID	<p>外部キーを一意的に識別するキー。このキーは、タグ言語ファイル内の他のすべてのキーに対してユニークでなければなりません。</p> <p>ヒント: ForeignKey.tag テンプレートの処理を終了させてから、このキーの値を増加させてください。</p> <p>このトークンは必須です。</p>	数値。
*MapID	<p>交換ファイル内の他のすべてのキーに対してユニークな、任意の数値。</p> <p>ヒント: ForeignKey.tag テンプレートの処理を終了させてから、このトークンの値を増加させてください。</p> <p>このトークンは必須です。</p>	数値。
*PrimaryColumnName	<p>参照列の列名。</p>	最長 80 バイトのテキスト・ストリング。
*ReferencedPrimaryKeyID	<p>主キーを一意的に識別するキー。このキーは、タグ言語ファイル内の他のすべてのキーに対してユニークでなければなりません。</p> <p>ヒント: ForeignKey.tag テンプレートの処理を終了させてから、このキーの値を増加させてください。</p> <p>このトークンは必須です。</p>	数値。
関係パラメーター		
*DatabaseName	<p>ウェアハウス・ソースまたはウェアハウス・ターゲットのビジネス上の名前。</p> <p>このトークンは必須です。</p>	最長 40 バイトのテキスト・ストリング。

表 38. ForeignKey.tag トークン (続き)

トークン	説明	許容値
<i>ForeignTablePhysicalName</i>	他の表内のキーを参照する外部キーが入っている、物理表のデータベース定義名。	最長 254 バイトのテキスト・ストリング。
<i>*PrimaryTablePhysicalName</i>	外部キーによって参照されるキーが入っている、物理表のデータベース定義名。	最長 80 バイトのテキスト・ストリング。
<i>*PrimaryTableOwner</i>	参照される主キー列が入っている表の、所有者、高位修飾子、コレクション、またはスキーマ。 このトークンは必須です。	最長 128 バイトのテキスト・ストリング。
<i>*ForeignTableOwner</i>	外部キー制約列が入っている表の所有者、高位修飾子、コレクション、またはスキーマ。 このトークンは必須です。	最長 128 バイトのテキスト・ストリング。

表 39. ForeignKey.tag トークンの値の例

トークン	値の例
<i>*ConstraintName</i>	部門
<i>*DatabaseName</i>	金融ウェアハウス
<i>*ForeignColumnKeyName</i>	Geography_code
<i>*ForeignKeyID</i>	07011
<i>*ForeignTablePhysicalName</i>	GEOGRAPHY
<i>*MapID</i>	02568
<i>*PrimaryColumnKeyName</i>	State_code
<i>*ReferencedPrimaryKeyID</i>	名前
<i>*PrimaryTablePhysicalName</i>	市
<i>*PrimaryTableOwner</i>	DB2ADMIN
<i>*ForeignTableOwner</i>	IWH

関連資料:

- 31 ページの『データウェアハウス・センターとともに提供されるメタデータ・テンプレート』
- 55 ページの『データウェアハウス・センター用の ForeignKeyAdditional.tag テンプレート』

データウェアハウス・センター用の ForeignKeyAdditional.tag テンプレート

このテンプレートを使用して、複合外部キーを定義します。

ForeignKeyAdditional.tag テンプレートを使用する前に、(ForeignKey.tag テンプレートを使用して) 最初の列についての制約を定義する必要があります。次に、追加するそれぞれの列に対してこのテンプレートを使用して、列を追加できます。

表 40. ForeignKeyAdditional.tag トークン

トークン	説明	許容値
エンティティ・パラメーター		
*ForeignColumnName	外部キー制約を定義する、列の名前。 このトークンは必須です。	最長 80 バイトのテキスト・ストリング。
*ForeignKeyID	外部キーを一意的に識別するキー。このキーは、タグ言語ファイル内の他のすべてのキーに対してユニークでなければなりません。 ヒント: ForeignKeyAdditional.tag テンプレートの処理を終了させてから、このキーの値を増加させてください。 このトークンは必須です。	数値。
*MapID	交換ファイル内の他のすべてのキーに対してユニークな、任意の数値。 ヒント: ForeignKeyAdditional.tag テンプレートの処理を終了させてから、このトークンの値を増加させてください。 このトークンは必須です。	数値。
*MapSeqNo	複合キーの一部として外部キー制約に追加された各追加列を示す番号。	2 から始めて大きくなっていくユニークな、連続番号。
*PrimaryColumnName	参照列の列名。	最長 80 バイトのテキスト・ストリング。
関係パラメーター		
*DatabaseName	ウェアハウス・ソースまたはウェアハウス・ターゲットのビジネス上の名前。 このトークンは必須です。	最長 40 バイトのテキスト・ストリング。
*ForeignTablePhysicalName	他の表内のキーによって参照されるキーが入っている、物理表のデータベース定義名。	最長 80 バイトのテキスト・ストリング。

表 40. *ForeignKeyAdditional.tag* トークン (続き)

トークン	説明	許容値
<i>*PrimaryTablePhysicalName</i>	外部キーによって参照されるキーが入っている、物理表のデータベース定義名。	最長 80 バイトのテキスト・ストリング。
<i>*PrimaryTableOwner</i>	参照される主キー列が入っている表の、所有者、高位修飾子、コレクション、またはスキーマ。 このトークンは必須です。	最長 128 バイトのテキスト・ストリング。
<i>*ForeignTableOwner</i>	外部キー制約名が入っている表の所有者、高位修飾子、コレクション、またはスキーマ。 このトークンは必須です。	最長 128 バイトのテキスト・ストリング。

表 41. *ForeignKeyAdditional.tag* トークンの値の例

トークン	値の例
<i>*DatabaseName</i>	金融ウェアハウス
<i>*ForeignColumnName</i>	Geography_code
<i>*ForeignKeyID</i>	07011
<i>*ForeignTablePhysicalName</i>	GEOGRAPHY
<i>*MapID</i>	22578
<i>*MapSeqNo</i>	2
<i>*PrimaryColumnName</i>	State_code
<i>*PrimaryTablePhysicalName</i>	市
<i>*PrimaryTableOwner</i>	DB2ADMIN
<i>*ForeignTableOwner</i>	IWH

関連資料:

- 31 ページの『データウェアハウス・センターとともに提供されるメタデータ・テンプレート』
- 52 ページの『データウェアハウス・センター用の *ForeignKey.tag* テンプレート』

データウェアハウス・センター用の *PrimaryKey.tag* テンプレート

このテンプレートを使用して、表についての主キー制約を定義します。また、このテンプレートは、制約を定義する表と列に対する関係を定義します。

PrimaryKey.tag テンプレートを使用する前に、主キー制約を定義する表と列を (*Table.tag* と *Column.tag* テンプレートを使用して) 定義する必要があります。

表 42. PrimaryKey.tag トークン

トークン	説明	許容値
エンティティ・パラメーター		
*ColumnName	列またはフィールドの名前。この名前は、表またはフィールド内でユニークでなければなりません。 このトークンは必須です。	最長 80 バイトのテキスト・ストリング。
*MapID	交換ファイル内の他のすべてのキーに対してユニークな、任意の数値。 ヒント: PrimaryKey.tag テンプレートの処理を終了させてから、このトークンの値を増加させてください。 このトークンは必須です。	数値。
*PrimaryKeyID	主キーを一意的に識別するキー。このキーは、タグ言語ファイル内の他のすべてのキーに対してユニークでなければなりません。 ヒント: PrimaryKey.tag テンプレートの処理を終了させてから、このキーの値を増加させてください。 このトークンは必須です。	数値。
関係パラメーター		
*DatabaseName	ウェアハウス・ソースまたはウェアハウス・ターゲットのビジネス上の名前。 このトークンは必須です。	最長 40 バイトのテキスト・ストリング。
*TableOwner	列を含む表の所有者、高レベル修飾子、コレクション、またはスキーマ。 このトークンは必須です。	最長 128 バイトのテキスト・ストリング。
*TablePhysicalName	データベース・マネージャーまたはファイル・システムに定義された、列を含む表またはファイルの物理名。 このトークンは必須です。	最長 80 バイトのテキスト・ストリング。

表 43. *PrimaryKey.tag* トークンの値の例

トークン	値の例
* <i>ColumnName</i>	Geography_code
* <i>DatabaseName</i>	金融ウェアハウス
* <i>MapID</i>	54627
* <i>PrimaryKeyID</i>	74622
* <i>TableOwner</i>	DB2ADMIN
* <i>TablePhysicalName</i>	地域

関連資料:

- 31 ページの『データウェアハウス・センターとともに提供されるメタデータ・テンプレート』
- 58 ページの『データウェアハウス・センター用の *PrimaryKeyAdditional.tag* テンプレート』

データウェアハウス・センター用の *PrimaryKeyAdditional.tag* テンプレート

このテンプレートを使用して、複合主キーを定義します。 *PrimaryKeyAdditional.tag* テンプレートを使用する前に、 *PrimaryKey.tag* テンプレートを使用して最初の列についての制約を定義する必要があります。その後、このテンプレートを使用して列を追加できます。また、このテンプレートは、追加の主キーを、 *PrimaryKey.tag* を使用して定義された最初の主キーに関連付けます。

表 44. *PrimaryKeyAdditional.tag* トークン

トークン	説明	許容値
エンティティ・パラメーター		
* <i>ColumnName</i>	列またはフィールドの名前。この名前は、表またはフィールド内でユニークでなければなりません。	最長 80 バイトのテキスト・ストリング。
	このトークンは必須です。	
* <i>FirstPrimaryKeyID</i>	主キーを一意的に識別するキー。このキーは、タグ言語ファイル内の他のすべてのキーに対してユニークでなければなりません。	数値。
	<p>ヒント: <i>PrimaryKeyAdditional.tag</i> テンプレートの処理を終了させてから、このキーの値を増加させてください。</p> <p>このトークンは必須です。</p>	

表 44. PrimaryKeyAdditional.tag トークン (続き)

トークン	説明	許容値
*MapID	交換ファイル内の他のすべてのキーに対してユニークな、任意の数値。 ヒント: PrimaryKeyAdditional.tag テンプレートの処理を終了させてから、このトークンの値を増加させてください。 このトークンは必須です。	数値。
*MapSeqNo	複合キーの一部として主キー制約に追加された各追加列を示す番号。 このトークンは必須です。	2 から始めて大きくなっていくユニークな、連続番号。
関係パラメーター		
*DatabaseName	ウェアハウス・ソースまたはウェアハウス・ターゲットのビジネス上の名前。 このトークンは必須です。	最長 40 バイトのテキスト・ストリング。
*TableOwner	列を含む表の所有者、高レベル修飾子、コレクション、またはスキーマ。 このトークンは必須です。	最長 15 バイトのテキスト・ストリング。
*TablePhysicalName	データベース・マネージャーまたはファイル・システムに定義された、列を含む表またはファイルの物理名。 このトークンは必須です。	最長 80 バイトのテキスト・ストリング。

表 45. PrimaryKeyAdditional.tag トークンの値の例

トークン	値の例
*ColumnName	Geography_code
*DatabaseName	金融ウェアハウス
*MapID	99542
*MapSeqNo	2
*FirstPrimaryKeyID	07801
*TableOwner	DB2ADMIN
*TablePhysicalName	GEOGRAPHY

関連資料:

- 31 ページの『データウェアハウス・センターとともに提供されるメタデータ・テンプレート』

- 56 ページの『データウェアハウス・センター用の PrimaryKey.tag テンプレート』

データウェアハウス・センター用の SourceDataBase.tag テンプレート

テンプレートを使用して、データウェアハウス・センターにインポートするソース・データベース、ファイル・システム、またはファイルを定義します。このテンプレートを使用して、リレーショナルの非 DB2 ソース・データベース、および DB2 ソース・データベースを定義できます。

このテンプレートはさらに、以下のオブジェクト間の関係も定義します。

- ソース・データベース
- ソース・データベースに使用するエージェント・サイト
- ソース・データベースを定義するセキュリティー・グループ

次の表は、テンプレートにあるそれぞれのトークンについての情報を示しています。

表 46. SourceDataBase.tag のトークン

トークン	説明	許容値
エンティティ・パラメーター		
*DatabaseName	データベースの名前。 この名前は、ウェアハウス・コントロール・データベース内でユニークでなければなりません。 このトークンは必須です。	最長 80 バイトのテキスト・ストリング。
*DatabaseDescription	データベースについての簡略説明。 このトークンはオプションです。	最長 254 バイトのテキスト・ストリング。
*DatabaseNotes	データベースについての詳細説明。 このトークンはオプションです。	最長 32700 バイトのテキスト・ストリング。
*DatabaseContact	このデータベースに関する情報の問い合わせ先。 このトークンはオプションです。	最長 64 バイトのテキスト・ストリング。
*DatabaseServerName	データベースが存在するサーバーの名前。 このトークンはフラット・ファイル LAN ファイルに必要です。その他の場合は、オプションです。	最長 64 バイトのテキスト・ストリング。
*DatabaseVersion	データベースのバージョン。	テキスト・ストリング。

表 46. SourceDataBase.tag のトークン (続き)

トークン	説明	許容値
*DatabasePhysicalName	ODBC に知られている、データベース・マネージャーに定義されたデータベースの物理データベース名。 このトークンは必須です。	最長 40 バイトのテキスト・ストリング。
*DatabaseType	データベース・ファミリーのタイプ。 このトークンは必須です。	次のいずれかの値: ISV_IR_DB2Family DB2 ファミリー ISV_IR_Oracle Oracle ISV_IR_Sybase Sybase ISV_IR_MSSQLServer Microsoft® SQL Server ISV_IR_Informix Informix ISV_IR_GenericODBC 汎用 ODBC ISV_IR_FFLan フラット・ファイル LAN ISV_IR_VSAM VSAM ISV_IR_IMS IMS
*DatabaseTypeExtended	AS/400 システムまたはファイルのタイプ。 このトークンは必須です。	次のいずれかの値: ISV_IR_DB2400CISC CISC 用の DB2 UDB (AS/400 版) ISV_IR_DB2400RISC RISC 用の DB2 UDB (AS/400 版) ISV_IR_FFLanLocalCmd ローカル・フラット・ファイル ISV_IR_FFLanFTPCopy リモート・システムから FTP を使用して送信されたローカル・フラット・ファイル
*DatabaseUserid	データベースにアクセスするためのユーザー ID。 このトークンはオプションです。	最長 36 バイトのテキスト・ストリング。
関係パラメーター		

表 46. SourceDataBase.tag のトークン (続き)

トークン	説明	許容値
*SecurityGroup	ソースまたはターゲット・データベースを作成するためのセキュリティ・グループ。 このトークンは必要であり、デフォルトのセキュリティ・グループを指定しなければなりません。	デフォルトのセキュリティ・グループとして ISV_DEFAULTSECURITYGROUP。
*AgentSite	ソースまたはターゲット・データベースに使用するエージェント・サイト。 このトークンは必要ですが、デフォルトのエージェント・サイトを指定することもできます。	最長 80 バイトのテキスト・ストリング。 デフォルトのエージェント・サイトは ISV_DEFAULTAGENTSITE です。

表 47. SourceDataBase.tag トークンの値の例

トークン	値の例
*DatabaseName	金融ウェアハウス
*DatabaseDescription	このデータベースには、金融情報が入りません。
*DatabaseNotes	これは、すべての地域が金融情報を保持しているウェアハウスです。
*DatabaseContact	Valerie Zieman
*DatabaseServerName	CHI11W71
*DatabaseVersion	V6.1.0
*DatabasePhysicalName	FINANCE
*DatabaseType	ISV_IR_DB2Family
*DatabaseTypeExtended	ISV_DEFAULTVALUE
*DatabaseUserid	DB2ADMIN
*SecurityGroup	ISV_DEFAULTSECURITYGROUP
*AgentSite	マイ・エージェント・サイト

関連資料:

- 31 ページの『データウェアハウス・センターとともに提供されるメタデータ・テンプレート』

データウェアハウス・センター用の SubjectArea.tag テンプレート

このテンプレートを使用して、作成するプロセスおよびステップを入れるためのサブジェクト・エリアを定義します。各タグ言語ファイルには、作成するプロセスとステップを入れるサブジェクト・エリアが少なくとも 1 つはなければなりません。このテンプレートは、プロセスおよびステップを定義する場合に必要です。

このテンプレートはさらに、サブジェクト・エリアとヘッダー・ファイルが指定するセキュリティー・グループとの関係も定義します。

次の表は、テンプレートにあるそれぞれのトークンについての情報と例を示しています。

表 48. *SubjectArea.tag* トークン

トークン	説明	許容値
エンティティ・パラメーター		
* <i>SubjectArea</i>	特定のサブジェクト・エリアに作成または追加されるすべてのプロセスとステップを入れるグループの名前。 この名前は、ウェアハウス・コントロール・データベース内でユニークでなければなりません。このトークンは必須です。	最長 80 バイトのテキスト・ストリング。
* <i>SubjectAreaContact</i>	このサブジェクト・エリアに責任を持つ人または組織の名前。	テキスト・ストリング。
* <i>SubjectAreaDescription</i>	プロセスおよびステップのグループについての簡略説明。 このトークンはオプションです。	最長 254 バイトのテキスト・ストリング。
* <i>SubjectAreaNotes</i>	プロセスおよびステップのグループについての詳細説明。 このトークンはオプションです。	最長 32700 バイトのテキスト・ストリング。
関係パラメーター		
* <i>SecurityGroup</i>	サブジェクト・エリアを作成するためのセキュリティー・グループ。 このトークンは必要であり、デフォルトのセキュリティー・グループを指定しなければなりません。	デフォルトのセキュリティー・グループとして ISV_DEFAULTSECURITYGROUP。
* <i>CurrentCheckPointID++</i>	0 から始まり、トークンに置換されるたびに増加する索引。 このトークンは必須です。	数値。

表 49. *SubjectArea.tag* トークンの値の例

トークン	値の例
* <i>SubjectArea</i>	パートナー・ツール用に生成されるプロセスおよびステップのグループ
* <i>SubjectAreaContact</i>	DEPT W24A

表 49. SubjectArea.tag トークンの値の例 (続き)

トークン	値の例
*SubjectAreaDescription	このサブジェクト・エリアには、パートナー・ツールによりデータウェアハウス・センター用に生成されるすべてのプロセスおよびステップが入ります。
*SubjectAreaNotes	このサブジェクト・エリアにあるプロセスおよびステップは、製品を評価するのに使用されます。
*SecurityGroup	ISV_DEFAULTSECURITYGROUP
*CurrentCheckPointID++	9

データウェアハウス・センター用の Table.tag テンプレート

このテンプレートを使用して、ソースとターゲット表の両方、およびデータウェアハウス・センターがアクセスするソース・ファイルとセグメントを定義します。このテンプレートを使用して、ソースとターゲット表、ファイル、およびセグメントを定義します。

このテンプレートは、ODBC データ・ソース内の表および DB2 ターゲット表をデータウェアハウス・センターが定義するために必要なすべてのメタデータを定義します。テンプレートはさらに、表とこの表を含むデータベースとの間の関係も定義します。

次の表は、テンプレートにあるそれぞれのトークンについての情報と例を示しています。

表 50. Table.tag のトークン

トークン	説明	許容値
エンティティ・パラメーター		
*BusinessName	ウェアハウス・ターゲットの記述名。データウェアハウス・センター内でユニーク。	長さ 80 文字以下のテキスト・ストリング。名前は 大文字小文字が区別されます。最初の文字は英数字 でなければなりません。
	このトークンはオプションです。	
*DecimalSymbol	ソース・ファイルの中で小数点として使用される記号を指定するトークン。 コンマを小数点とフィールド区切り文字の両方には使用しないでください。 このトークンはオプションです。デフォルトはピリオド (.) です。	次のいずれかの値: ISV_DecimalSymbolPeriod 小数点文字としてピリオド (.) が使用されます。 ISV_DecimalSymbolComma 小数点文字としてコンマ (,) が使用されます。

表 50. Table.tag のトークン (続き)

トークン	説明	許容値
*TableFullName	<p>リレーショナル表またはファイルの完全修飾名。</p> <p>表の場合、この名前は *TableOwner および *TablePhysicalName トークンの値を連結して、ピリオドで区切ったものです。</p> <p>ファイルの場合、*TableOwner はブランクのまま、 *TableFullName および *TablePhysicalName の値は同じにします。</p> <p>この名前は、ウェアハウス・コントロール・データベース内でユニークでなければなりません。</p> <p>このトークンは必須です。</p>	最長 80 バイトのテキスト・ストリング。
*TableDescription	<p>表についての簡略説明。</p> <p>このトークンはオプションです。</p>	最長 254 バイトのテキスト・ストリング。
*TableNotes	<p>表についての詳細説明。</p> <p>このトークンはオプションです。</p>	最長 32700 バイトのテキスト・ストリング。
*TableOwner	<p>表の所有者、高レベル修飾子、コレクション、またはスキーマ。</p> <p>所有者を指定することはできないファイルおよび IMS データベースを除いて、このトークンは必須です。</p>	最長 15 バイトのテキスト・ストリング。
*TablePhysicalName	<p>データベース・マネージャーまたはファイル・システムに定義された、物理表名。</p> <p>この名前が大文字小文字の混合であったり、スペースが入っている場合は、表名を二重引用符で囲む必要があります (たとえば、"MYTABLE")。</p> <p>このトークンは必須です。</p>	最長 80 バイトのテキスト・ストリング。

表 50. Table.tag のトークン (続き)

トークン	説明	許容値
*TableBinaryIfFile	<p>表がファイルを表す場合にファイルがバイナリー・データだけを含むかどうかを示すフラグ。</p> <p>このトークンはオプションです。</p>	<p>次のいずれかの値:</p> <p>ISV_DR_FILE_IS_BINARY ファイルはバイナリーです。</p> <p>ISV_DR_FILE_IS_NOT_BINARY ファイルは ASCII、または混合形式です。</p>
*TableFirstRowNamesIfFile	<p>表がファイルを表す場合に、ファイルの最初の行に列名が含まれるかどうかを示すフラグ。</p> <p>このトークンはオプションです。</p>	<p>次のいずれかの値:</p> <p>ISV_DR_ROW_CONTAINS_NAMES ファイルの最初の行は列名。</p> <p>ISV_DR_ROW_DOES_NOT_CONTAIN_NAMES ファイルの最初の行はデータ。</p>
*TableTypeIfFile	<p>表がファイルを表す場合に、ファイルのタイプ。</p> <p>このトークンはオプションです。</p>	<p>次のいずれかの値:</p> <p>ISV_DR_REL_TABLE 表はリレーショナル表です。</p> <p>ISV_DR_COMMA_DELIMITED ファイル内の列はコンマで区切られます。</p> <p>ISV_DR_FIXED_FORMAT ファイル内の列は固定形式です。</p> <p>ISV_DR_TAB_DELIMITED ファイル内の列はタブで区切られます。</p> <p>ISV_DR_CHAR_DELIMITED ファイル内の列は、*TableDelimiterIfFile の値で区切られます。</p>
*TableDelimiterIfFile	<p>ファイル・タイプが ISV_DR_CHAR_DELIMITED の場合に、複数のフィールドを分ける区切り文字の値。</p> <p>このトークンはオプションです。</p>	<p>長さ 1 バイトのテキスト・ストリング。</p>
*TableIsAView	<p>表がビューかどうかを示すトークン。</p>	<p>次のいずれかの値:</p> <p>ISV_TableIsAView 表はビューです。</p> <p>ISV_TableIsNotAView 表はビューではありません。</p>

表 50. Table.tag のトークン (続き)

トークン	説明	許容値
*TableIsADimensionTable	表がスタースキーマの一部で、ディメンション・データを含むかどうかを示すトークン。	次のいずれかの値: ISV_TableIsADimensionalTable 表はディメンション表です。 ISV_TableIsNotADimensionalTable 表はディメンション表ではありません。
*TableIsAnAlias	表が実際には他の表の別名であるかどうかを示すトークン。	次のいずれかの値: ISV_TableIsAnAlias この表は他の表の別名です。 ISV_TableIsNotAnAlias この表は他の表の別名ではありません。
*TableCreatedByDWC	データウェアハウス・センターがこの表を作成して管理するかどうかを示すトークン。	次のいずれかの値: ISV_TableIsToBeCreatedByDWC 表はデータウェアハウス・センターによって作成されます。 ISV_TableIsNotToBeCreatedByDWC 表はデータウェアハウス・センターによって作成されません。
*TableGrantedToPublic	表の作成時にデータウェアハウス・センターがこの表にパブリックのアクセスを認可するかどうかを示すトークン。これが有効なのは、データウェアハウス・センターが表を作成するときだけです。	次のいずれかの値: ISV_GrantTableAccessToPublic データウェアハウス・センターはこの表に PUBLIC アクセスを認可します。 ISV_DoNotGrantTableAccessToPublic データウェアハウス・センターはこの表に PUBLIC アクセスを認可しません。
*TableIsPersistent	表内のデータが、この表を使用する複数のステップの実行と実行の間に保持されるかどうかを示すトークン。表が持続しない場合、表内のデータは各使用の後に削除されます。	次のいずれかの値: ISV_TableIsPersistent 表は持続的なものと見なされます。 ISV_TableIsTransient 表は一時的なものと見なされます。
*TableMaximumEditions	表がエディションをサポートする場合、表が持つことのできるエディションの最大数。	数値。
*TableGenerateCreateStatement	データウェアハウス・センターが表作成ステートメントを生成するかどうかを示すトークン。	次のいずれかの値: ISV_GenerateCreateTableStmt データウェアハウス・センターは、CREATE TABLE ステートメントを生成することになります。 ISV_DoNotGenerateCreateTableStmt データウェアハウス・センターは、CREATE TABLE ステートメントを生成しないことになります。

表 50. Table.tag のトークン (続き)

トークン	説明	許容値
*TableIsAFactTable	表がスタースキーマの一部で、表にファクト情報が含まれるかどうかを示すトークン。	次のいずれかの値: ISV_TableIsAFactTable 表はファクト表です。 ISV_TableIsNotAFactTable 表はファクト表ではありません。
*TableCreateStatement	表を作成するための DDL。 ISV_DoNotGenerateCreateTableStmt が指定されている場合、このトークンだけを使用してください。	テキスト・ストリング。
関係パラメーター		
*DatabaseName	表を含むデータベースの名前。 この名前は、ウェアハウス・コントロール・データベース内でユニークでなければなりません。 このトークンは必須です。	最長 80 バイトのテキスト・ストリング。
*DatabasePhysicalName	表を含むデータベースの物理データベース名。 このトークンは必須です。	最長 40 バイトのテキスト・ストリング。

表 51. Table.tag トークンの値の例

トークン	値の例
*BusinessName	第 2 四半期
*DecimalSymbol	ISV_DecimalSymbolComma
*TableFullName	DB2ADMIN.GEOGRAPHY
*TableDescription	地域情報が入ります。
*TableNotes	この表には、飲料会社のサービスを受ける地域に関する全情報が入ります。
*TableOwner	DB2ADMIN
*TablePhysicalName	GEOGRAPHY
*TableBinaryIfFile	ISV_DEFAULTVALUE
*TableFirstRowNamesIfFile	ISV_DEFAULTVALUE
*TableTypeIfFile	ISV_DEFAULTVALUE
*TableDelimiterIfFile	ISV_DEFAULTVALUE
*TableIsAView	ISV_TableIsAView
*TableIsADimensionTable	ISV_TableIsNotADimensionTable
*TableIsAnAlias	ISV_TableIsAnAlias
*TableCreatedByDWC	ISV_TableIsToBeCreatedByDWC

表 51. Table.tag トークンの値の例 (続き)

トークン	値の例
*TableGrantedToPublic	ISV_GrantTableAccessToPublic
*TableIsPersistent	ISV_TableIsTransient
*TableMaximumEditions	12
*TableGenerateCreateStatement	ISV_GenerateCreateTableStmnt
*TableIsAFactTable	ISV_TableIsAFactTable
*TableCreateStatement	表 xyz を作成
*DatabaseName	金融ウェアハウス
*DatabasePhysicalName	FINANCE

関連資料:

- 31 ページの『データウェアハウス・センターとともに提供されるメタデータ・テンプレート』

データウェアハウス・センター用の VWPGroup.tag テンプレート

このテンプレートを使用して、定義中のデータウェアハウス・センター・プログラムを入れるグループを定義します。このテンプレートは、データウェアハウス・センター・プログラムを定義している場合には必要です。

次の表は、テンプレートにあるそれぞれのトークンについての情報と例を示しています。

表 52. VWPGroup.tag のトークン

トークン	説明	許容値
エンティティ・パラメーター		
*VWPGroup	作成中のすべてのデータウェアハウス・センター・プログラムを含めるプログラム・グループのユニーク名。 この名前は、ウェアハウス・コントロール・データベース内でユニークでなければなりません。 このトークンは必須です。	最長 80 バイトのテキスト・ストリング。
*VWPGroupDescription	データウェアハウス・センター・プログラムのグループについての簡略説明。 このトークンはオプションです。	最長 254 バイトのテキスト・ストリング。
*VWPGroupNotes	データウェアハウス・センター・プログラムのグループについての詳細説明。 このトークンはオプションです。	最長 32700 バイトのテキスト・ストリング。

表 53. VWPGroup.tag トークンの値の例

トークン	値の例
*VWPGroup	パートナー・ツール用のプログラムのグループ
*VWPGroupDescription	このグループには、パートナー・ツール用にデータウェアハウス・センターにより使用されるすべてのプログラムが入ります。
*VWPGroupNotes	これらのプログラムは、販売とロケーションの関係を判別するのに使用できます。

関連資料:

- 31 ページの『データウェアハウス・センターとともに提供されるメタデータ・テンプレート』

データウェアハウス・センター用の VWPProgramInstanceParameter.tag テンプレート

このテンプレートを使用して、データウェアハウス・センターが特定のステップのためのデータウェアハウス・センター・プログラムのインスタンスに渡すパラメーターを、追加または変更します。たとえば、ホスト名パラメーターのデフォルト値は VWPProgramTemplateParameter.tag ファイルで設定します。このテンプレートを使用して、この特定のステップが実行されるときにデータウェアハウス・センター・プログラムに渡される値を変更します。

データウェアハウス・センター・プログラムがパラメーターを渡す先としてデータウェアハウス・センターを必要とする場合、このテンプレートは必須です。このテンプレートを各パラメーターに含めることによって、データウェアハウス・センターが複数のパラメーターをプログラムに渡すように指定することができます。

このテンプレートはさらに、パラメーターとそのプログラム・インスタンスとの間の関係も定義します。

次の表は、テンプレートにあるそれぞれのトークンについての情報と例を示しています。

表 54. VWPProgramInstanceParameter.tag のトークン

トークン	説明	許容値
エンティティ・パラメーター		
*VWPProgramInstanceParameterName	データウェアハウス・センター・プログラムに渡すパラメーターのユニーク名または説明。	最長 80 バイトのテキスト・ストリング。
	このトークンは必須です。	
*VWPProgramInstanceParameterOrder	パラメーター・リスト内でのパラメーターの順位を示す、0 から始まる数値。	数値。
	このトークンは必須です。	

表 54. VWPPProgramInstanceParameter.tag のトークン (続き)

トークン	説明	許容値
*VWPPProgramInstanceParameterData	<p>パラメーターの値としてデータウェアハウス・センター・プログラムに渡されるデータ。</p> <p>このトークンは必須です。</p>	<p>長さが 240 バイトまでのテキスト・ストリングまたは数値。</p>
*VWPPProgramInstanceParameterKey	<p>このプログラム・パラメーターのインスタンスをユニークに識別するキー。このキーは、交換ファイル内の他のすべてのパラメーター・キーに対してユニークでなければなりません。</p> <p>ヒント : VWPPProgramInstanceParameter.tag テンプレートの処理を終了してから、キーの値を増加させてください。</p> <p>このトークンは必須です。</p>	<p>最長 10 バイトのテキスト値。</p>
*VWPPProgramInstanceParameterType	<p>このパラメーターに含まれる値のタイプ。たとえば、文字、数値、またはパスワード・データ。</p>	<p>次のいずれかの値:</p> <p>ISV_ParameterTypeNone パラメーター・タイプが不明であるか、または該当しません。</p> <p>ISV_ParameterTypeCharacter パラメーター・タイプは文字です。</p> <p>ISV_ParameterTypeNumeric パラメーター・タイプは数値です。</p> <p>ISV_ParameterTypePassword パラメーター・タイプはパスワードです。</p>
関係パラメーター		
*VWPPProgramInstanceKey	<p>このプログラムのインスタンスをユニークに識別するキー。このキーは、交換ファイル内の他のすべてのキーに対してユニークでなければなりません。</p> <p>ヒント: VWPPProgramInstance.tag テンプレートの処理を終了してから、キーの値を増加させてください。</p> <p>このトークンは必須です。</p>	<p>最長 10 バイトのテキスト値。</p>

表 55. VWPPProgramInstanceParameter.tag トークンの値の例

トークン	値の例
*VWPPProgramInstanceParameterName	DB2 UDB ユーザー ID
*VWPPProgramInstanceKey	070000
*VWPPProgramInstanceParameterOrder++	1
*VWPPProgramInstanceParameterData	my_userid
*VWPPProgramInstanceParameterKey	012994
*VWPPProgramInstanceParameterType	ISV_ParameterTypeNumeric
*VWPPProgramInstanceKey	070001

関連資料:

- 31 ページの『データウェアハウス・センターとともに提供されるメタデータ・テンプレート』

データウェアハウス・センター用の VWPPProgramTemplate.tag テンプレート

このテンプレートを使用して、データウェアハウス・センター・プログラムを定義します。ウェアハウス・プログラムがデータウェアハウス・センター・コントロール・データベースにすでに存在するのでなければ、タグ言語ファイルがデータウェアハウス・センター・プログラムを参照する場合にこのテンプレートは必要です。

このテンプレートはさらに、ウェアハウス・プログラム定義とプログラムが属するデータウェアハウス・センター・プログラム・グループとの間の関係を定義します。

次の表は、テンプレートにあるそれぞれのトークンについての情報と例を示しています。

表 56. VWPPProgramTemplate.tag のトークン

トークン	説明	許容値
エンティティ・パラメーター		
*VWPPProgramTemplateName	データウェアハウス・センター・プログラム・テンプレートの名前。 この名前は、ウェアハウス・コントロール・データベース内でユニークでなければなりません。 このトークンは必須です。	最長 80 バイトのテキスト・ストリング。

表 56. *VWPPProgramTemplate.tag* のトークン (続き)

トークン	説明	許容値
<i>*VWPPProgramTemplateDescription</i>	<p>データウェアハウス・センター・プログラムおよびその機能についての簡略説明。</p> <p>このトークンはオプションです。</p>	最長 254 バイトのテキスト・ストリング。
<i>*VWPPProgramTemplateNotes</i>	<p>データウェアハウス・センター・プログラムおよびその機能についての詳細説明。</p> <p>このトークンはオプションです。</p>	最長 32700 バイトのテキスト・ストリング。
<i>*VWPPProgramTemplateExecutableName</i>	<p>データウェアハウス・センターの実行時に実行するデータウェアハウス・センター・プログラムの完全修飾プログラム名。</p> <p>データウェアハウス・センター・プログラムがシステム・パスにインストールされている場合、ウェアハウス・プログラム名が完全修飾である必要はありません。</p> <p>このトークンは必須です。</p>	最長 240 バイトのテキスト・ストリング。
<i>*VWPPProgramTemplateType</i>	<p>プログラムのタイプ。</p> <p>このトークンは必須です。</p>	<p>次のいずれかの値:</p> <p>ISV_PROGRAMTYPEPCOMMAND データウェアハウス・センター・プログラムはコマンド・ファイルです。</p> <p>ISV_PROGRAMTYPEDLL データウェアハウス・センター・プログラムはダイナミック・リンク・ライブラリー (DLL) からロードされるか、またはロード・モジュールです。</p> <p>ISV_PROGRAMTYPEEXECUTABLE データウェアハウス・センター・プログラムは実行可能ファイルです。</p>

表 56. VWPPProgramTemplate.tag のトークン (続き)

トークン	説明	許容値
*VWPPProgramTemplateName	<p>*VWPPProgramTemplateType の値が ISV_PROGRAMTYPEDLL である場合にデータウェアハウス・センターが呼び出す DLL 内の入り口点の名前。</p> <p>*VWPPProgramTemplateType の値が ISV_PROGRAMTYPEDLL である場合に、このトークンは必要です。</p>	最長 80 バイトのテキスト・ストリング。
関係パラメーター		
*VWPPGroup	<p>データウェアハウス・センター・プログラムを含めるグループの名前。</p> <p>このトークンは必須です。</p>	最長 80 バイトのテキスト・ストリング。
*AgentSite	<p>ソースまたはターゲットに使用するエージェント・サイト。</p> <p>このトークンは必須です。</p>	<p>最長 80 バイトのテキスト・ストリング。</p> <p>デフォルトのエージェント・サイトは、ISV_DEFAULTAGENTSITE を指定します。</p>

表 57. VWPPProgramTemplate.tag トークンの値の例

トークン	値の例
*VWPPProgramTemplateName	マイ ISV プログラム
*VWPPProgramTemplateDescription	このプログラムは、ODBC データベースからデータをエクスポートします。
*VWPPProgramTemplateNotes	このプログラムは、ODBC データベースからデータをエクスポートし、処理し、別のデータベースに移します。
*VWPPProgramTemplateExecutableName	c:\ISV\BIN\MYPROG.EXE
*VWPPProgramTemplateType	ISV_PROGRAMTYPEPEEXECUTABLE
*VWPPProgramTemplateFunctionName	My_Prog_Func_Name
*VWPPGroup	パートナー・ツール用のプログラムのグループ

関連資料:

- 31 ページの『データウェアハウス・センターとともに提供されるメタデータ・テンプレート』
- 70 ページの『データウェアハウス・センター用の VWPPProgramInstanceParameter.tag テンプレート』
- 75 ページの『データウェアハウス・センター用の VWPPProgramTemplateParameter.tag テンプレート』

データウェアハウス・センター用の VWPProgramTemplateParameter.tag テンプレート

このテンプレートを使用して、データウェアハウス・センターがデータウェアハウス・センター・プログラムに渡すパラメーターを定義します。

データウェアハウス・センター・プログラムがパラメーターを渡す先としてデータウェアハウス・センターを必要とする場合、このテンプレートは必須です。このテンプレートを各パラメーターに含めることによって、複数のパラメーターをデータウェアハウス・センター・プログラムに渡すように指定することができます。

このテンプレートは VWPProgramTemplate.tag ファイルと共に使用します。このテンプレートは、パラメーターとそのデータウェアハウス・センター・プログラム定義 (VWPProgramTemplate.tag) との関係を定義します。

次の表は、テンプレートにあるそれぞれのトークンについての情報と例を示しています。

表 58. VWPProgramTemplateParameter.tag のトークン

トークン	説明	許容値
エンティティ・パラメーター		
*VWPProgramTemplateParameterName	データウェアハウス・センター・プログラムに渡すパラメーターの名前または説明。 その名前は、データウェアハウス・センター・プログラム内でユニークでなければなりません。 このトークンは必須です。	最長 80 バイトのテキスト・ストリング。
*VWPProgramTemplateParameterOrder	パラメーター・リスト内でのパラメーターの順位を示す、0 から始まる数値。 このトークンは必須です。	数値。
*VWPProgramTemplateParameterData	パラメーターの値としてデータウェアハウス・センター・プログラムに渡されるデータ。 このトークンは必須です。	長さが 240 バイトまでのテキスト・ストリングまたは数値。

表 58. *VWPPProgramTemplateParameter.tag* のトークン (続き)

トークン	説明	許容値
<i>*VWPPProgramTemplateParameterKey</i>	このプログラム・パラメーターのテンプレートをユニークに識別するキー。このキーは、交換ファイル内の他のすべてのキーに対してユニークでなければなりません。 ヒント : <i>VWPPProgramTemplateParameter.tag</i> テンプレートの処理を終了してから、キーの値を増加させてください。 このトークンは必須です。	数値。
<i>*VWPPProgramInstanceParameterType</i>	このパラメーターに含まれる値のタイプ。たとえば、文字、数値、またはパスワード・データ。	次のいずれかの値: ISV_ParameterTypeNone パラメーター・タイプが不明であるか、または該当しません。 ISV_ParameterTypeCharacter パラメーター・タイプは文字です。 ISV_ParameterTypeNumeric パラメーター・タイプは数値です。 ISV_ParameterTypePassword パラメーター・タイプはパスワードです。
関係パラメーター		
<i>*VWPPProgramTemplateName</i>	このパラメーターを使用するデータウェアハウス・センター・プログラムの名前。 このトークンは必須です。	最長 80 バイトのテキスト・ストリング。

表 59. *VWPPProgramTemplateParameter.tag* トークンの値の例

トークン	値の例
<i>*VWPPProgramTemplateName</i>	DB2 UDB ユーザー ID
<i>*VWPPProgramTemplateParameterOrder</i>	1
<i>*VWPPProgramInstanceKey</i>	070000
<i>*VWPPProgramTemplateParameterData</i>	my_userid
<i>*VWPPProgramTemplateParameterKey</i>	012994
<i>*VWPPProgramInstanceParameterType</i>	ISV_ParameterTypePassword
<i>*VWPPProgramTemplateName</i>	マイ ISV プログラム

関連資料:

- 31 ページの『データウェアハウス・センターとともに提供されるメタデータ・テンプレート』
- 70 ページの『データウェアハウス・センター用の VWPProgramInstanceParameter.tag テンプレート』
- 72 ページの『データウェアハウス・センター用の VWPProgramTemplate.tag テンプレート』

データウェアハウス・センター用の WarehouseDataBase.tag テンプレート

このテンプレートを使用して、データウェアハウス・センターにインポートするターゲット・ウェアハウス・データベースを定義します。

このテンプレートはさらに、以下のオブジェクト間の関係も定義します。

- ターゲット・ウェアハウス・データベース
- ターゲット・ウェアハウス・データベースに使用するエージェント・サイト
- ターゲット・ウェアハウス・データベースを定義するセキュリティー・グループ

次の表は、テンプレートにあるそれぞれのトークンについての情報と例を示しています。

表 60. WarehouseDataBase.tag のトークン

トークン	説明	許容値
エンティティ・パラメーター		
*DatabaseName	データベースのユニーク名。 この名前は、ウェアハウス・コントロール・データベース内でユニークでなければなりません。 このトークンは必須です。	最長 80 バイトのテキスト・ストリング。
*DatabaseDescription	データベースについての簡略説明。 このトークンはオプションです。	最長 254 バイトのテキスト・ストリング。
*DatabaseNotes	データベースについての詳細説明。 このトークンはオプションです。	最長 32700 バイトのテキスト・ストリング。
*DatabaseContact	このデータベースに関する情報の問い合わせ先。 このトークンはオプションです。	最長 64 バイトのテキスト・ストリング。

表 60. WarehouseDataBase.tag のトークン (続き)

トークン	説明	許容値
*DatabaseServerName	データベースが存在するサーバーの名前。 このトークンはオプションです。	最長 64 バイトのテキスト・ストリング。
*DatabaseVersion	データベースのバージョン。	テキスト・ストリング。
*DatabasePhysicalName	データベース・マネージャーに定義されたデータベースの物理データベース名。 このトークンは必須です。	最長 40 バイトのテキスト・ストリング。
*DatabaseType	データベース・ファミリーのタイプ。 このトークンは必須です。	次のいずれかの値: ISV_IR_DB2Family DB2 ファミリー ISV_IR_GenericODBC 汎用 ODBC ISV_IR_FFJan フラット・ファイル LAN
*DatabaseTypeExtended	AS/400 システムまたはファイルのタイプ。 このトークンは必須です。	次のいずれかの値: ISV_IR_DB2400CISC CISC 用の DB2 UDB (AS/400 版) ISV_IR_DB2400RISC RISC 用の DB2 UDB (AS/400 版) ISV_IR_FFJanLocalCmd ローカル・フラット・ファイル
*DatabaseUserid	データベースにアクセスするためのユーザー ID。 このトークンはオプションです。	最長 36 バイトのテキスト・ストリング。
関係パラメーター		
*SecurityGroup	ソースまたはターゲット・データベースを作成するためのセキュリティ・グループ。 このトークンは必要ですが、デフォルトのセキュリティ・グループを指定することもできます。	最長 80 バイトのテキスト・ストリング。 デフォルトのセキュリティ・グループは、ISV_DEFAULTSECURITYGROUP を指定します。
*AgentSite	ソースまたはターゲットに使用するエージェント・サイト。 このトークンは必須です。	最長 80 バイトのテキスト・ストリング。 デフォルトのエージェント・サイトは、ISV_DEFAULTAGENTSITE を指定します。

表 61. WarehouseDataBase.tag トークンの値の例

トークン	値の例
*DatabaseName	金融ウェアハウス
*DatabaseDescription	このデータベースには、金融情報が入り ます。
*DatabaseNotes	これは、すべての地域が金融情報を保持して いるウェアハウスです。
*DatabaseContact	Valerie Zieman
*DatabaseServerName	CHI11W71
*DatabaseVersion	V6.1.0
*DatabasePhysicalName	FINANCE
*DatabaseType	DB2 ファミリー
*DatabaseTypeExtended	ISV_DEFAULTVALUE
*DatabaseUserid	DB2ADMIN
*SecurityGroup	ISV_DEFAULTSECURITYGROUP
*AgentSite	マイ・エージェント・サイト

関連資料:

- 31 ページの『データウェアハウス・センターとともに提供されるメタデータ・テンプレート』

第 6 章 データウェアハウス・センターのメタデータ

この章では、ソース・データベースとターゲット・データベースを記述するデータウェアハウス・センターのメタデータについて説明します。データベースに関する情報を共有するために、他のアプリケーションでこのメタデータをエクスポートすることができます。

表 62 は、タグ言語ファイル内の各オブジェクトとデータウェアハウス・センター内の対応する論理オブジェクトとの間のマッピングを示しています。

表 62. ソースおよびターゲット・データベース用の論理オブジェクト

タグ言語ファイル内のオブジェクト	データウェアハウス・センターの論理オブジェクト
DATABASE	ウェアハウス・ソースまたはウェアハウス・ターゲット
TABLE	表、ファイル、または IMS セグメント
COLUMN	列またはフィールド

データウェアハウス・センターは、また、データベース、表、および列の間のリレーションシップも定義します。各オブジェクトに関するセクションでは、パートナー・アプリケーションにとって役立つ、オブジェクトが参加する関係をリストしています。

データウェアハウス・センターのための DATABASE オブジェクト・メタデータ

DATABASE オブジェクトには、ソース・データベース/ターゲット・データベース、ファイル・システム、またはファイルに関するメタデータが含まれます。

次の表は、DATABASE オブジェクトのプロパティ、関係、および例を示しています。

表 63. DATABASE オブジェクトのプロパティ

タグ言語のプロパティ名	説明	許容値
NAME	ソースのビジネス名。	最長 80 バイトのテキスト・ストリング。
DBNAME	データベース・マネージャーに定義された物理データベース名。 総称 ODBC データベース、Sybase データベース、IMS データベース、およびファイル・システムの場合、この値は NULL です。	最長 40 バイトのテキスト・ストリング。
SHRTDESC	ソースの簡略説明。	最長 200 バイトのテキスト・ストリング。

表 63. DATABASE オブジェクトのプロパティ (続き)

タグ言語の プロパティ名	説明	許容値
LONGDESC	ソースの詳細説明。	最長 32700 バイトのテキスト・ストリング。
DBTYPE	データベースまたはファイルのファミリー。	次のいずれかの値: 1 DB2 ファミリー 20 Oracle 30 Sybase 40 Microsoft SQL Server 50 Informix 60 汎用 ODBC 70 フラット・ファイル LAN 80 VSAM 90 IMS
DBETYPE	あるファミリー内でのデータベースまたはファイルのタイプ。	次のいずれかの値: 1 DB2/2 3 DB2 MVS 4 AS/400 CISC 5 AS/400 RISC 6 DB2/6000 8 DB2 HP 9 DB2 SUN 11 DB2 NT 12 DB2 VM 13 DB2 SINIX 14 DB2 SCO 15 DB2 VSE 16 DB2 ESE 18 DB2 ファミリー 19 DataJoiner 20 Oracle 30 Sybase 40 Microsoft SQL Server 50 Informix 60 ユーザー定義の ODBC

表 63. DATABASE オブジェクトのプロパティ (続き)

タグ言語の プロパティ名	説明	許容値
DBETYPE (続き)	あるファミリー内でのデータベースまたはファイルのタイプ。	次のいずれかの値: 70 フラット・ファイル LAN ローカル・コマンド 71 フラット・ファイル LAN FTP コピー 80 VSAM 90 IMS
ISWH	このソースがウェアハウス・ターゲットであるか、ウェアハウス・ソースであるかを示すフラグ。	次のいずれかの値: Y このソースは、ウェアハウス・ターゲットを定義します。 N このソースはウェアハウス・ソースです。
USERID	データウェアハウス・センターがソースへの接続に使用するユーザー ID。	最長 36 バイトのテキスト・ストリング。
CONTACT	ソースについて責任がある担当者の名前。	最長 64 バイトのテキスト・ストリング。
USEODBC	ユーザー提供の接続ストリングを使用するか、ストリングを生成するかを指定するフラグ。ファイルの場合、N を使用します。	次のいずれかの値: Y ユーザー定義の接続ストリングを使用する。 N 接続ストリングを生成する。
ODBCSTR	USEODBC が Y に設定されている場合、ユーザー定義の ODBC 接続ストリング。それ以外の場合、このプロパティは NULL です。	最長 254 バイトのテキスト・ストリング。
PREACCMD	ソースがローカル・フラット・ファイル LAN ソースの場合、リモート・ファイルにアクセスするために実行するコマンド。	最長 64 バイトのテキスト・ストリング。
POSTACMD	ソースがローカル・フラット・ファイル LAN ソースの場合、リモート・ファイルにアクセスした後で実行するコマンド。	最長 64 バイトのテキスト・ストリング。
RETRYCNT	エラーの際に、このソースからのデータの抽出を試行する回数。	数値。
RETRYINT	データの抽出を試行する時間の間隔。	数値。
VERSION	使用中の DB2 のバージョン。	最長 128 バイトのテキスト・ストリング。
DBMSSERV	ODBC 接続用のデータベース・インスタンス/サブシステム/サーバー名。	最長 128 バイトのテキスト・ストリング。
DFLTDEL	システム 390 データベースのデフォルトの文字ストリング区切り文字。	最長 1 バイトのテキスト・ストリング。

次の図は、ターゲット・ウェアハウス・データベースを定義する DATABASE オブジェクトの例を示します。

```

:COMMENT. Begin DATABASE Instance
:COMMENT.
:ACTION.OBJINST(MERGE)
:OBJECT.TYPE(DATABASE)
:INSTANCE.
  NAME(iwhtar)
  DBNAME(IWHTAR)
  DBTYPE(1)
  DBETYPE(11)
  ISWH(Y)
  USERID(marlow)
  USEODBC(N)
  CODEPAGE(437)
  RETRYCNT(3)
  RETRYINT(30)

```

次の図は、ソース・ファイルを定義する DATABASE オブジェクトの例を示します。

```

:ACTION.OBJINST(MERGE)
:OBJECT.TYPE(DATABASE)
:INSTANCE.
  NAME(TBC Operations)
  SHRTDESC(The Beverage Company operational data sources)
  DBTYPE(70)
  DBETYPE(70)
  ISWH(N)
  LOCATION(Thirsty City)
  USERID(XXXXXXXX)
  USEODBC(N)
  CODEPAGE(437)
  RETRYCNT(0)
  RETRYINT(0)

```

次の図は、DATABASE オブジェクトと TABLES オブジェクトの間の関係の例を示します。

```

:COMMENT. Relation: DATABASE to TABLES
:COMMENT.
:ACTION.RELATION(ADD)
:RELTYPE.TYPE(CONTAIN) SOURCETYPE(DATABASE) TARGETTYPE(TABLES)
:INSTANCE.
  SOURCEKEY(NAME(TBC Operations) DBNAME() )
  TARGETKEY(DBNAME(TBC Operations) OWNER() TABLES(d:\iwhtdemo\outcusti.txt) )

```

次の表は、DATABASE オブジェクトが参加し、パートナー・アプリケーションに役立つ関係を示しています。「ソース」欄と「ターゲット」欄では、関係のソース・オブジェクトまたはターゲット・オブジェクトが関係に参加できる回数が見られています。

表 64. DATABASE オブジェクトが参加する関係

ソース	ソースのタグ言語 オブジェクト・		ターゲット	ターゲットのタグ言語 オブジェクト・タイプ	
	タイプ	関係のタイプ		説明	
1	DATABASE	CONTAIN	M	TABLES	データベースまたはファイル・システムに含まれる表またはファイル。

関連資料:

- 85 ページの『データウェアハウス・センターのための TABLES オブジェクト・メタデータ』
- 89 ページの『データウェアハウス・センター用の COLUMN オブジェクト・メタデータ』

データウェアハウス・センターのための TABLES オブジェクト・メタデータ

TABLES オブジェクトには、ウェアハウス・ソース表、セグメント、またはファイル、あるいはターゲット表に関するメタデータが入っています。このオブジェクトは、DATABASE オブジェクトに関連付けられます。

次の表は、TABLES オブジェクトのプロパティ、関係、および例を示しています。

表 65. TABLES オブジェクトのプロパティ

タグ言語の プロパティ名	説明	許容値
NAME	表、ファイル、または IMS セグメントの名前。 表名には、IWH.TABLE1 のように、高位修飾子、スキーマ、またはコレクションが含まれます。 データベース名と表名の組み合わせはユニークです。 このプロパティは、ファイルの完全修飾パスとファイル名です。	最長 80 バイトのテキスト・ストリング。
SHRTDESC	ファイルまたはセグメントの簡略説明。	最長 200 バイトのテキスト・ストリング。
LONGDESC	表についての詳細説明。	最長 32700 バイトのテキスト・ストリング。
DBNAME	この表またはファイルを含むソースのビジネス名。	最長 80 バイトのテキスト・ストリング。
OWNER	表の所有者、高位修飾子、またはコレクション。 ファイルまたは IMS セグメントの場合、このプロパティは NULL です。	最長 15 バイトのテキスト・ストリング。
TABLES	データベース・マネージャーまたはファイル・システムに定義された物理表、ファイル、またはセグメント名。 ファイルおよび IMS セグメントの場合、この値は NAME の値と同じです。	最長 80 バイトのテキスト・ストリング。

表 65. TABLES オブジェクトのプロパティ (続き)

タグ言語のプロパティ名	説明	許容値
TBLISBIN	フラット・ファイル LAN ファイルのファイル転送モードを指定するフラグ。	次のいずれかの値: Y ファイル転送モードはバイナリ。 N ファイル転送モードは ASCII。
TBLNAME\$P	DB2 表スペースの名前。	最長 90 バイトのテキスト・ストリング。
TBLFTYPE	ファイルの場合、ファイルのタイプ。	次のいずれかの値: 1 固定 2 コンマ 3 タブ 4 文字
TBLLINAM	ファイルの最初の行に列名が含まれるかどうかを指定するフラグ。	次のいずれかの値: Y ファイルの最初の行は列名。 N ファイルの最初の行はデータ。
CHARDELM	ファイルの場合、文字区切り文字 (ファイル・タイプが文字の場合)。	1 バイトのテキスト・ストリング。
CREATYPE	データウェアハウス・センターで表を定義するのに使用された方式。	次のいずれかの値: 1 表は手作業で定義された。 2 表定義はデータベース・マネージャーからインポートされた。 3 表定義はインフォメーション・カタログ・センターからインポートされた。 4 表は、あるステップがテスト・モードにプロモートされるときに、そのステップ用にデータウェアハウス・センターによって作成された。
TABALIAS	表に別名があるかどうかを指定するフラグ。	次のいずれかの値: Y 表には別名がある。 N 表には別名がない。
IWHCRTAR	ターゲット表がデータウェアハウス・センターによって作成されるかどうかを指定するフラグ。	次のいずれかの値: Y ターゲット表はデータウェアハウス・センターによって作成される。 N ターゲット表はデータウェアハウス・センターによって作成されない。

表 65. TABLES オブジェクトのプロパティ (続き)

タグ言語の プロパティ名	説明	許容値
IWHGRANT	表について GRANT TO PUBLIC が使用可能にされるかどうかを指定するフラグ。	次のいずれかの値: Y 表について GRANT TO PUBLIC が使用可能にされる。 N 表について GRANT TO PUBLIC が使用可能にされない。
IWHDRATN	ウェアハウス・ターゲットの期間 (一時または永続)。	次のいずれかの値: Y 表は永続。 N 表は一時。
IWHMAXED	表のエディションの最大数。	数値。
IWHCREGN	作成ステートメントが自動的に生成されるかどうかを指定するフラグ。	次のいずれかの値: Y 作成ステートメントは自動的に生成される。 N 作成ステートメントは自動的に生成されない。
IWHCRERU	表の作成ステートメント。	最長 32,700 バイトのテキスト・ストリング。
IDSFACT	表がファクト表として使用されるかどうかを指定するフラグ。	次のいずれかの値: Y 表はファクト表として使用される。 N 表はファクト表として使用されない。
CDSSHEMA	レプリケーション用の表スキーマ。	最長 128 バイトのテキスト・ストリング。
CDTABNAM	レプリケーション用の表名。	最長 128 バイトのテキスト・ストリング。
BEFORIMG	レプリケーションの変更前イメージの接頭部。	最長 4 バイトのテキスト・ストリング。
IDSREPL	表がレプリケーションに使用されるかどうかを指定するフラグ。	次のいずれかの値: Y 表はレプリケーションに使用される。 N 表はレプリケーションに使用されない。
NAMINDEX	DB2 表名の索引。	最長 90 バイトのテキスト・ストリング。
PARTTBSP	表がパーティション表スペースにあるかどうかを指定するフラグ。	次のいずれかの値: Y 表はパーティション表スペースにある。 N 表はパーティション表スペースにない。
DBNAM390	システム 390 データベース名。	最長 8 バイトのテキスト・ストリング。

次の図は、リレーショナル表用の TABLES オブジェクトの例を示しています。

```

:COMMENT. Begin TABLES Instance
:COMMENT.
:ACTION.OBJINST(MERGE)
:OBJECT.TYPE(TABLES)
:INSTANCE.
    NAME(IWH.ATOMICED)
    DBNAME(iwhtar)
    OWNER(IWH)
    TABLES(ATOMICED)
    TBLISBIN(N)
    TBLFTYPE(0)
    TBLLINAM(N)
    CREATYPE(4)
:COMMENT.
:COMMENT. End TABLES Instance

```

次の図は、ファイル用の TABLES オブジェクトの例を示しています。

```

:COMMENT. Begin TABLES Instance
:COMMENT.
:ACTION.OBJINST(MERGE)
:OBJECT.TYPE(TABLES)
:INSTANCE.
    NAME(d:¥iwhdemo¥outcusti.txt)
    SHRTDESC(File containing operational data for Institutions Customers)
    DBNAME(TBC Operations)
    OWNER()
    TABLES(d:¥iwhdemo¥outcusti.txt)
    TBLISBIN(Y)
    TBLFTYPE(3)
    TBLLINAM(N)
    CREATYPE(1)
:COMMENT.
:COMMENT. End TABLES Instance

```

次の図は、TABLES オブジェクトと DATABASE オブジェクトの間の関係の例を示しています。

```

:COMMENT. Relation: DATABASE to TABLES
:COMMENT.
:ACTION.RELATION(ADD)
:RELTYPE.TYPE(CONTAIN) SOURCETYPE(DATABASE) TARGETTYPE(TABLES)
:INSTANCE.
    SOURCEKEY(NAME(TBC Operations) DBNAME() )
    TARGETKEY(DBNAME(TBC Operations) OWNER() TABLES(d:¥iwhdemo¥outcusti.txt) )

```

次の図は、TABLES オブジェクトと COLUMN オブジェクトの間の関係の例を示しています。

```

:COMMENT. Relation: TABLES to COLUMN
:COMMENT.
:ACTION.RELATION(ADD)
:RELTYPE.TYPE(CONTAIN) SOURCETYPE(TABLES) TARGETTYPE(COLUMN)
:INSTANCE.
    SOURCEKEY(DBNAME(TBC Operations) OWNER() TABLES(d:¥iwhdemo¥outcusti.txt) )
    TARGETKEY(DBNAME(TBC Operations) OWNER() TABLES(d:¥iwhdemo¥outcusti.txt)
    COLUMNS(Zipcode) )

```

次の表は、TABLES オブジェクトが参加し、パートナー・アプリケーションに役立つ関係をリストしています。「ソース」欄と「ターゲット」欄では、関係のソース・オブジェクトまたはターゲット・オブジェクトが関係に参加できる回数が見られています。

表 66. TABLES オブジェクトが参加する関係

ソース	ソースのタグ言語オブジェクト・タイプ	関係のタイプ	ターゲット	ターゲットのタグ言語オブジェクト・タイプ	説明
1	DATABASE	CONTAIN	M	TABLES	この表またはファイルが関連付けられるデータベースまたはファイル・システム。
1	TABLE	CONTAIN	M	COLUMN	この表に関連付けられる列。

関連資料:

- 81 ページの『データウェアハウス・センターのための DATABASE オブジェクト・メタデータ』
- 89 ページの『データウェアハウス・センター用の COLUMN オブジェクト・メタデータ』

データウェアハウス・センター用の COLUMN オブジェクト・メタデータ

COLUMN オブジェクトには、ソース表、ターゲット表、またはファイル内の列またはフィールドに関するメタデータが含まれます。このオブジェクトは、TABLES オブジェクトに関連付けられます。

次の表は、COLUMN オブジェクトのプロパティ、関係、および例を示しています。

表 67. COLUMN オブジェクトのプロパティ

タグ言語のプロパティ名	説明	許容値
NAME	列またはフィールドの名前。 データベース名、表名、および列名の組み合わせはユニークです。	最長 80 バイトのテキスト・ストリング。
SHRTDESC	列またはフィールドについての簡略説明。	最長 200 バイトのテキスト・ストリング。
LONGDESC	列またはフィールドについての詳細説明。	最長 32700 バイトのテキスト・ストリング。

表 67. COLUMN オブジェクトのプロパティ (続き)

タグ言語の プロパティ名	説明	許容値
DATATYPE	データベース・マネージャー・データ・タイプからマップされる ODBC データ・タイプ。 データウェアハウス・センターは、ネイティブ・データ・タイプからデータ・タイプを導出します。 VSAM データベース内の表に GRAPHIC データ・タイプ列を追加することはできません。	次のいずれかの値: CHAR NUMERIC DECIMAL INTEGER SMALLINT FLOAT DOUBLE DATE TIME TIMESTAMP VARCHAR LONG_VARCHAR GRAPHIC VARGRAPHIC LONG_VARGRAPHIC BLOB CLOB DBCLOB TINYINT BIT REAL BIGINT
LENGTH	列またはフィールドの長さ。	数値。
SCALE	10 進データ・タイプの列またはフィールドの、列またはフィールドの精度。	数値。
POSNO	表またはファイルの行における列またはフィールドの索引 (1 から始まる)。	数値。
NULLS	列またはフィールドで NULL データが許されるかどうかを示すフラグ。	次のいずれかの値: Y この列は NULL データが許される。 N この列では NULL データが許されない。
ISTEXT	列またはフィールド・データがバイナリー・データか、テキスト・データかを指定するフラグ。	次のいずれかの値: Y 列データはバイナリー・データ。 N 列データはテキスト・データ。
DBNAME	この表またはファイルを含むソースまたはターゲットのビジネス名。	最長 80 バイトのテキスト・ストリング。
OWNER	表の所有者、高位修飾子、またはコレクション。 ファイルまたは IMS セグメントの場合、このプロパティは NULL です。	最長 15 バイトのテキスト・ストリング。

表 67. COLUMN オブジェクトのプロパティ (続き)

タグ言語の プロパティ名	説明	許容値
TABLES	データベース・マネージャーまたはファイル・システムに定義された物理表、ファイル、またはセグメント名。 ファイルおよび IMS セグメントの場合、この値は NAME の値と同じです。	最長 80 バイトのテキスト・ストリング。
NATIVEDT	列またはフィールドのネイティブ・データ・タイプ。	データベース・マネージャーに定義された列のデータ・タイプ。 データ・タイプは、40 バイトまでのテキスト・ストリングです。 多くの場合、このプロパティの値は DATATYPE の値と一致します。 データベース・マネージャー・データ・タイプの ODBC データ・タイプへのマッピングについては、データウェアハウス・センターのオンライン・ヘルプを参照してください。
ORDINAL	列またはフィールドの序数。	数値。
OFFSET	固定長ファイルにおけるフィールドのオフセット。	数値。
COLTYPE	DPROPR 用の列タイプ。	次のいずれかの値: A 変更後イメージ列 B 変更前イメージ列

次の図は、COLUMN オブジェクトの例を示しています。

```
:ACTION.OBJINST(MERGE)
:OBJECT.TYPE(COLUMN)
:INSTANCE.
  NAME(CORR_COEF)
  SHRTDESC(Correlation Coefficient)
  DATATYPE(DOUBLE)
  LENGTH(0)
  SCALE(0)
  POSNO(4)
  NULLS(Y)
  ISTEXT(N)
  DBNAME(TRANSFORMER_TARGET)
  OWNER(IWH)
  TABLES(TR_CORRELATION_06)
  COLUMNS(CORR_COEFF)
  NATIVEDT(DOUBLE)
  TRANSNAM(Correlation Coefficient(r))
```

次の図は、COLUMN オブジェクトと TABLES オブジェクトの間の関係の例を示します。

```
:COMMENT. Relation: TABLES to COLUMN
:COMMENT.
:ACTION.RELATION(ADD)
:RELTYPE.TYPE(CONTAIN) SOURCETYPE(TABLES) TARGETTYPE(COLUMN)
```

```

:INSTANCE.
SOURCEKEY(DBNAME(TBC Operations) OWNER() TABLES(d:¥iwhdemo¥outcusti.txt) )
TARGETKEY(DBNAME(TBC Operations) OWNER() TABLES(d:¥iwhdemo¥outcusti.txt)
COLUMNS(Zipcode) )

```

次の表は、COLUMN オブジェクトが参加する関係を示しています。この関係は、パートナー・アプリケーションにとって有用です。「ソース」欄と「ターゲット」欄では、関係のソース・オブジェクトまたはターゲット・オブジェクトが関係に参加できる回数が見られています。

表 68. COLUMN オブジェクトが参加する関係

ソース	ソースのタグ言語オブジェクト・タイプ	関係のタイプ	ターゲット	ターゲットのタグ言語オブジェクト・タイプ	説明
1	TABLES	CONTAIN	M	COLUMN	この列が関連付けられる表。

関連資料:

- 81 ページの『データウェアハウス・センターのための DATABASE オブジェクト・メタデータ』
- 85 ページの『データウェアハウス・センターのための TABLES オブジェクト・メタデータ』

第 7 章 インフォメーション・カタログ・マネージャーのオブジェクト・タイプ

この章では、インフォメーション・カタログ・マネージャーのオブジェクト・タイプについて詳しく説明します。

すべてのインフォメーション・カタログ・センター・オブジェクトのデフォルトのプロパティ

インフォメーション・カタログ・センターでは、あらゆるオブジェクトについてデフォルト・プロパティのセットが用意されています。インフォメーション・カタログ・センターで用意されているプロパティは必須です。また、独自のプロパティを定義して、それを必須またはオプションとすることができます。次の表は、デフォルトのプロパティを示しています。

表 69. デフォルト・プロパティ

プロパティ名	データ・タイプ	サイズ	プロパティ短縮名	値フラグ
名前	VARCHAR	200	NAME	R
所有者	VARCHAR	30	ICM\$OWNER	S
作成ユーザー	VARCHAR	30		S
作成時刻	TIMESTAMP			S
最終更新ユーザー	VARCHAR	30		S
最終更新時刻	TIMESTAMP			S
作成アプリケーション	BIGINT			S
アプリケーション読み取りユーザー	BIGINT			S
アプリケーション更新ユーザー	BIGINT			S

注: S = インフォメーション・カタログ・センター生成、R = 必須

インフォメーション・カタログ・センター用の拡張可能オブジェクト・タイプのガイドライン

1. オブジェクト・タイプが拡張可能なのは、それを変更することができる場合です。
2. どのオブジェクトでも、オブジェクト定義の一部にユニーク ID、UI が含まれていなければなりません。UI は、インポート・プロセス中に、ターゲット・インフォメーション・カタログ内の類似した ID との比較に使用されます。

事前定義オブジェクト記述: アプリケーション・データ

アプリケーション・データは一部の MDIS メタデータの交換のためにインフォメーション・カタログ・センターによって使用されます。このオブジェクト・タイプのオブジェクトがインフォメーション・カタログ内に見られることがありますが、このオブジェクト・タイプはオブジェクトの作成には使用しません。

このオブジェクトのインフォメーション・カタログ・センター短縮名は、APPLDATA です。

次の表は、アプリケーション・データ・オブジェクトのプロパティについての情報を示しています。

表 70. アプリケーション・データ・オブジェクトのプロパティ

プロパティ名	データ・タイプ	サイズ	プロパティ短縮名	値フラグ	UI 順序
名前	VARCHAR	200	NAME	R	
簡略説明	VARCHAR	250	SHRTDESC	O	
詳細説明	LONG VARCHAR	32700	LONGDESC	O	
ソース・オブジェクト ID	CHAR	16	FLGID	R	1
アプリケーション・データ・フィールド 0	LONG VARCHAR	32700	APPLDAT0	O	
アプリケーション・データ・フィールド 1	LONG VARCHAR	32700	APPLDAT1	O	
アプリケーション・データ・フィールド 2	LONG VARCHAR	32700	APPLDAT2	O	
アプリケーション・データ・フィールド 3	LONG VARCHAR	32700	APPLDAT3	O	
アプリケーション・データ・フィールド 4	LONG VARCHAR	32700	APPLDAT4	O	
アプリケーション・データ・フィールド 5	LONG VARCHAR	32700	APPLDAT5	O	

表 70. アプリケーション・データ・オブジェクトのプロパティ (続き)

プロパティ名	データ・タイプ	サイズ	プロパティ短縮名	値フラグ	UI 順序
アプリケーション・データ・フィールド 6	LONG VARCHAR	32700	APPLDAT6	O	
アプリケーション・データ・フィールド 7	LONG VARCHAR	32700	APPLDAT7	O	
アプリケーション・データ・フィールド 8	LONG VARCHAR	32700	APPLDAT8	O	
アプリケーション・データ・フィールド 9	LONG VARCHAR	32700	APPLDAT9	O	
ソース定義の作成のタイム・スタンプ	CHAR	26	CRTTIME	O	
ソース定義の最終変更のタイム・スタンプ	CHAR	26	SRCDATCF	O	

注: S = インフォメーション・カタログ・センター生成、R = 必要、O = オプション

関連資料:

- 93 ページの『すべてのインフォメーション・カタログ・センター・オブジェクトのデフォルトのプロパティ』
- 93 ページの『インフォメーション・カタログ・センター用の拡張可能オブジェクト・タイプのガイドライン』
- 「インフォメーション・カタログ・センター 管理ガイド」の『インフォメーション・カタログ・センターの定義済みオブジェクト・タイプ』

事前定義オブジェクト記述: 属性

属性オブジェクトは、インフォメーション・カタログ・オブジェクトのプロパティを記述します。このオブジェクトのインフォメーション・カタログ・センター短縮名は、ATTRIBUT です。

次の表は、属性オブジェクトのプロパティについての情報を示しています。

表 71. 属性オブジェクトのプロパティ

プロパティ名	データ・タイプ	サイズ	プロパティの短縮名	値フラグ *	UI 順序
名前	VARCHAR	200	NAME	R	1
簡略説明	VARCHAR	250	SHRTDESC	O	
詳細説明	LONG VARCHAR	32700	LONGDESC	O	
アクション	VARCHAR	254	ACTIONS	O	
詳細の問い合わせ先	VARCHAR	80	RESPNSBL	O	
データにアクセスするための URL	VARCHAR	254	URL	O	
メンバーのデータ・タイプ	CHAR	30	DATATYPE	O	
モデル名	VARCHAR	80	MODLNAME	R	2
エンティティ名	VARCHAR	80	ENTYNAME	R	3

注: * S = インフォメーション・カタログ・センター生成、R = 必要、O = オプション

関連資料:

- 93 ページの『すべてのインフォメーション・カタログ・センター・オブジェクトのデフォルトのプロパティ』
- 93 ページの『インフォメーション・カタログ・センター用の拡張可能オブジェクト・タイプのガイドライン』
- 「インフォメーション・カタログ・センター 管理ガイド」の『インフォメーション・カタログ・センターの定義済みオブジェクト・タイプ』

事前定義オブジェクト記述: オーディオ・クリップ

オーディオ・クリップ・オブジェクトは、音声情報が入っているファイルを表します。これらのオブジェクトでは、電子的な (AUD ファイル)、またはメディアに記録された (たとえば、CD、テープ) 音声情報を表すことができます。

このオブジェクトのインフォメーション・カタログ・センター短縮名は、AUDIO です。

次の表は、オーディオ・クリップ・オブジェクトのプロパティについての情報を示しています。

表 72. オーディオ・クリップ・オブジェクトのプロパティ

プロパティ名	データ・タイプ	サイズ	プロパティ短縮名	値フラグ	UI 順序
名前	VARCHAR	200	NAME	R	
簡略説明	VARCHAR	250	SHRTDESC	O	

表 72. オーディオ・クリップ・オブジェクトのプロパティ (続き)

プロパティ名	データ・タイプ	サイズ	プロパティ短縮名	値フラグ	UI 順序
詳細説明	LONG VARCHAR	32700	LONGDESC	O	
アクション	VARCHAR	254	ACTIONS	O	
オーディオ・クリップのファイル名	VARCHAR	254	FILENAME	R	1
オーディオ・クリップのクラスまたはタイプ	VARCHAR	80	TYPE	R	2
データにアクセスするための URL	VARCHAR	254	URL	O	

注: S = インフォメーション・カタログ・センター生成、R = 必要、O = オプション

関連資料:

- 93 ページの『すべてのインフォメーション・カタログ・センター・オブジェクトのデフォルトのプロパティ』
- 93 ページの『インフォメーション・カタログ・センター用の拡張可能オブジェクト・タイプのガイドライン』
- 「インフォメーション・カタログ・センター 管理ガイド」の『インフォメーション・カタログ・センターの定義済みオブジェクト・タイプ』

事前定義オブジェクト記述: ビジネス・サブジェクト・エリア

ビジネス・サブジェクト・エリアは、オブジェクトの論理的なグループ分けを表します。

このオブジェクトのインフォメーション・カタログ・センター短縮名は、INFOGRPS です。

次の表は、ビジネス・サブジェクト・エリア・オブジェクトのプロパティについての情報を示しています。

表 73. ビジネス・サブジェクト・エリア・オブジェクトのプロパティ

プロパティ名	データ・タイプ	サイズ	プロパティ短縮名	値フラグ	UI 順序
名前	VARCHAR	200	NAME	R	1
簡略説明	VARCHAR	250	SHRTDESC	O	
詳細説明	LONG VARCHAR	32700	LONGDESC	O	
アクション	VARCHAR	254	ACTIONS	O	

表 73. ビジネス・サブジェクト・エリア・オブジェクトのプロパティ (続き)

プロパティ名	データ・タイプ	サイズ	プロパティ短縮名	値フラグ	UI 順序
データ・リフレッシュの頻度	CHAR	26	FRESHDAT	O	
ファイル名	VARCHAR	254	FILENAME	O	
データにアクセスするための URL	VARCHAR	254	URL	O	
詳細の問い合わせ先	VARCHAR	80	CONTACT	O	

注: S = インフォメーション・カタログ・センター生成、R = 必要、O = オプション

関連資料:

- 93 ページの『すべてのインフォメーション・カタログ・センター・オブジェクトのデフォルトのプロパティ』
- 93 ページの『インフォメーション・カタログ・センター用の拡張可能オブジェクト・タイプのガイドライン』
- 「インフォメーション・カタログ・センター 管理ガイド」の『インフォメーション・カタログ・センターの定義済みオブジェクト・タイプ』

事前定義オブジェクト記述: 図表

図表オブジェクトは、印刷された、または電子的な図表を表します。

このオブジェクトのインフォメーション・カタログ・センター短縮名は、CHARTS です。

次の表は、図表オブジェクトのプロパティについての情報を示しています。

表 74. 図表オブジェクトのプロパティ

プロパティ名	データ・タイプ	サイズ	プロパティ短縮名	値フラグ	UI 順序
名前	VARCHAR	200	NAME	R	
簡略説明	VARCHAR	250	SHRTDESC	O	
詳細説明	LONG VARCHAR	32700	LONGDESC	O	
アクション	VARCHAR	254	ACTIONS	O	
図表の表題	VARCHAR	254	TITLE	O	
図表の発行日付	CHAR	26	RPRTDATE	O	
図表の表示形式	VARCHAR	80	RPRTFRMT	O	
図表の表示要件	VARCHAR	254	DPPRESNT	O	

表 74. 図表オブジェクトのプロパティ (続き)

プロパティ名	データ・タイプ	サイズ	プロパティ短縮名	値フラグ	UI 順序
図表の所有者	VARCHAR	80	OWNER	O	
図表のファイル名	VARCHAR	254	FILENAME	R	1
図表のクラスまたはタイプ	VARCHAR	80	TYPE	R	2
データにアクセスするための URL	VARCHAR	254	URL	O	

注: S = インフォメーション・カタログ・センター生成、R = 必要、O = オプション

関連資料:

- 93 ページの『すべてのインフォメーション・カタログ・センター・オブジェクトのデフォルトのプロパティ』
- 93 ページの『インフォメーション・カタログ・センター用の拡張可能オブジェクト・タイプのガイドライン』
- 「インフォメーション・カタログ・センター 管理ガイド」の『インフォメーション・カタログ・センターの定義済みオブジェクト・タイプ』

事前定義オブジェクト記述: 列またはフィールド

列またはフィールド・オブジェクトは、リレーショナル表内の列、ファイル内のフィールド、または IMS セグメント内のフィールドを表します。

このオブジェクトのインフォメーション・カタログ・センター短縮名は、COLUMN です。

次の表は、列またはフィールド・オブジェクトのプロパティについての情報を示しています。

表 75. 列またはフィールド・オブジェクト・タイプのプロパティ: このオブジェクトの MDIS 名は Element (エレメント) です。

プロパティ名	データ・タイプ	サイズ	プロパティ短縮名	値フラグ	UI 順序	MDIS 名へのマップ
名前	VARCHAR	200	NAME	R		ElementLongName
簡略説明	VARCHAR	250	SHRTDESC	O		BriefDescription
詳細説明	LONG VARCHAR	32700	LONGDESC	O		LongDescription
アクション	VARCHAR	254	ACTIONS	O		ApplicationData
カタログ注釈	VARCHAR	254	REMARKS	O		ApplicationData
詳細の問い合わせ先	VARCHAR	80	RESPNSBL	O		ContactName
最後にリフレッシュされた列またはフィールド	CHAR	26	FRESHDAT	O		ElementLastRefreshDate

表 75. 列またはフィールド・オブジェクト・タイプのプロパティ (続き): このオブジェクトの MDIS 名は Element (エレメント) です。

プロパティ名	データ・ タイプ	サイズ	プロパティ 短縮名	値フラグ	UUI 順序	MDIS 名へのマップ
列またはフィールドのデータ・ タイプ	CHAR	30	DATATYPE	O		ElementDataType
列またはフィールドの長さ	CHAR	20	LENGTH	O		ElementLength
列またはフィールドの位取り	CHAR	5	SCALE	O		ApplicationData
列またはフィールドの精度	CHAR	5	PRECDIG	O		ElementPrecision
列またはフィールドが NULL 可能	CHAR	1	NULLS	O		ElementNulls
列またはフィールドの序数	CHAR	5	ORDINAL	O		ElementOrdinality
列またはフィールドの位置	CHAR	5	POSNO	O		ElementPosition
列またはフィールドの始まりから のバイト・オフセット	CHAR	10	STARTPOS	O		ApplicationData
列またはフィールドがキーの一部	CHAR	1	ISKEY	O		ApplicationData
列またはフィールドがユニーク・キー	CHAR	1	UNIQKEY	O		ApplicationData
キーの中での列またはフィールドの位置	CHAR	5	KEYPOSNO	O		ElementKeyPosition
データベースの ホスト・サーバー名	VARCHAR	80	SERVER	O		ServerName
データベースまたはサブシステム名	VARCHAR	80	DBNAME	R	1	DatabaseName
表の所有者	VARCHAR	80	OWNER	R	2	OwnerName
表名	VARCHAR	80	TABLES	R	3	RecordName
列またはフィールド名	VARCHAR	254	COLUMNS	R	4	ElementName
ファイル名	VARCHAR	254	FILENAME	R	5	ApplicationData
データにアクセスするための URL	VARCHAR	254	URL	O		ApplicationData

表 75. 列またはフィールド・オブジェクト・タイプのプロパティ (続き): このオブジェクトの MDIS 名は Element (エレメント) です。

プロパティ名	データ・ タイプ	サイズ	プロパティ 短縮名	値フラグ	UUI 順序	MDIS 名へのマップ
含むディメンション	VARCHAR	80	DIMENSION	O		DimensionName
データは変更前 イメージ、変更 後イメージ、ま たは計算	CHAR	50	COLIMAGE	O		ApplicationData
列にデータを取 り込むために使 用されるソース 列、フィールド 名、または式	VARCHAR	254	COLEXPR	O		ApplicationData
NULL 値を表す ために使用され るストリング	VARCHAR	30	IDSNREP	O		ApplicationData
日付のレゾリュ ーション	CHAR	1	IDSRES	O		ApplicationData
データがテキス ト	CHAR	1	ISTEXT	O		ApplicationData
ソース定義の作 成のタイム・ス タンプ	CHAR	26	CRTTIME	O		DateCreated、TimeCreated
ソース定義の最 終変更のタイ ム・スタンプ	CHAR	26	SRCDATCF	O		DateUpdated、TimeUpdated
拡張属性	LONG VARCHAR	32700	EXATTRIB	O		

注: S = インフォメーション・カタログ・センター生成、R = 必要、O = オプション

関連資料:

- 93 ページの『すべてのインフォメーション・カタログ・センター・オブジェクトのデフォルトのプロパティ』
- 93 ページの『インフォメーション・カタログ・センター用の拡張可能オブジェクト・タイプのガイドライン』
- 「インフォメーション・カタログ・センター 管理ガイド」の『インフォメーション・カタログ・センターの定義済みオブジェクト・タイプ』

事前定義オブジェクト記述: コメント

コメント・オブジェクトは、インフォメーション・カタログの作成時に作成されま
す。

コメント・オブジェクトは、インフォメーション・カタログ内の他のオブジェクトにコメントを付けるために使用されます。このオブジェクトのインフォメーション・カタログ・センター短縮名は、COMMENTS です。

次の表は、コメント・オブジェクトのプロパティについての情報を示しています。

表 76. コメント・オブジェクトのプロパティ

プロパティ名	データ・タイプ	サイズ	プロパティの短縮名	値フラグ	UUI 順序
名前	VARCHAR	200	NAME	R	1
作成者	CHAR	8	CREATOR	R	2
作成のタイムスタンプ	TIMESTAMP	26	CREATSTP	R	3
状況	CHAR	80	STATUS	O	
アクション	VARCHAR	250	ACTIONS	O	
エクストラ情報	VARCHAR	80	EXTRA	O	
詳細説明	LONG VARCHAR	32700	LONGDESC	O	

注: S = インフォメーション・カタログ・センター生成、R = 必要、O = オプション

関連資料:

- 93 ページの『すべてのインフォメーション・カタログ・センター・オブジェクトのデフォルトのプロパティ』
- 93 ページの『インフォメーション・カタログ・センター用の拡張可能オブジェクト・タイプのガイドライン』
- 「インフォメーション・カタログ・センター 管理ガイド」の『インフォメーション・カタログ・センターの定義済みオブジェクト・タイプ』

事前定義オブジェクト記述: データベース

データベース・オブジェクトは、リレーショナル・データベースを表します。

このオブジェクトのインフォメーション・カタログ・センター短縮名は、DATABASE です。

次の表は、データベース・オブジェクトのプロパティについての情報を示しています。

表 77. データベース・オブジェクトのプロパティ: このオブジェクトの MDIS 名は Database (データベース) です。

プロパティ名	データ・タイプ	サイズ	プロパティ短縮名	値フラグ	UUI 順序	MDIS 名へのマップ
名前	VARCHAR	200	NAME	R		DatabaseLongName
簡略説明	VARCHAR	250	SHRTDESC	O		BriefDescription

表 77. データベース・オブジェクトのプロパティ (続き): このオブジェクトの MDIS 名は Database (データベース) です。

プロパティ名	データ・ タイプ	サイズ	プロパティ 短縮名	値フラグ	UI 順序	MDIS 名へのマップ
詳細説明	LONG VARCHAR	32700	LONGDESC	O		LongDescription
アクション	VARCHAR	254	ACTIONS	O		ApplicationData
詳細の問い合わせ先	VARCHAR	80	RESPNSBL	O		ContactName
データベースの所有者	VARCHAR	80	OWNER	O		OwnerName
データベースの ホスト・サーバ 名	VARCHAR	80	SERVER	R	1	ServerName
データベースの サーバー・タイ プ	VARCHAR	80	SRVRTYPE	O		ServerType
データベースま たはサブシステ ム名	VARCHAR	80	DBNAME	R	2	DatabaseName
データベースの タイプ	VARCHAR	80	DBTYPE	R	3	DatabaseType
データベースの 拡張タイプ	VARCHAR	40	DBETYPE	O		DatabaseExtendedType
データベースの 状況	VARCHAR	80	DBSTAT	O		DatabaseStatus
データベースの ロケーション	VARCHAR	80	LOCATION	O		ApplicationData
データにアクセ スするための URL	VARCHAR	254	URL	O		ApplicationData
システム・コー ド・ページ	VARCHAR	10	CODEPAGE	O		ApplicationData
エージェント・ タイプ	VARCHAR	80	AGENTTYPE	O		ApplicationData
1 ソース定義の作 成のタイム・ス タンプ	CHAR	26	CRTTIME	O		DateCreated、TimeCreated
1 ソース定義の最 終変更のタイ ム・スタンプ	CHAR	26	SRCDATCF	O		DateUpdated、TimeUpdated
1 拡張属性	LONG VARCHAR	32700	EXATTRIB			

注: S = インフォメーション・カタログ・センター生成、R = 必要、O = オプション

関連資料:

- 93 ページの『すべてのインフォメーション・カタログ・センター・オブジェクトのデフォルトのプロパティ』
- 93 ページの『インフォメーション・カタログ・センター用の拡張可能オブジェクト・タイプのガイドライン』
- 「インフォメーション・カタログ・センター 管理ガイド」の『インフォメーション・カタログ・センターの定義済みオブジェクト・タイプ』

事前定義オブジェクト記述: マルチディメンション・データベース内のディメンション

マルチディメンション・データベース・オブジェクト内でのディメンションは、マルチディメンション・データベース内でのディメンションを表します。ディメンションはメンバーから構成されます。

このオブジェクトのインフォメーション・カタログ・センター短縮名は、DIMENSION です。

次の表は、マルチディメンション・データベース・オブジェクト内でのディメンションのプロパティについての情報を示しています。

表 78. マルチディメンション・データベース内のディメンション・オブジェクトのプロパティ: このオブジェクトの MDIS 名は Dimension (ディメンション) です。

プロパティ名	データ・タイプ	サイズ	プロパティ短縮名	値フラグ	UI 順序	MDIS 名へのマップ
名前	VARCHAR	200	NAME	R		DimensionLongName
簡略説明	VARCHAR	250	SHRTDESC	O		BriefDescription
詳細説明	LONG VARCHAR	32700	LONGDESC	O		LongDescription
アクション	VARCHAR	254	ACTIONS	O		ApplicationData
詳細の問い合わせ先	VARCHAR	80	RESPNSBL	O		ContactName
最後にリフレッシュされたデータベース	CHAR	26	FRESHDAT	O		ApplicationData
データベースのホスト・サーバー名	VARCHAR	80	SERVER	R	1	ServerName
データベースまたはサブシステム名	VARCHAR	80	DBNAME	R	2	DatabaseName
使用中のアプリケーション名	VARCHAR	80	APPLNAME	R	3	ApplicationData
ディメンションの所有者	VARCHAR	80	OWNER	O		OwnerName
ディメンション名	VARCHAR	80	DIMENSION	R	4	DimensionName

表 78. マルチディメンション・データベース内のディメンション・オブジェクトのプロパティ (続き): このオブジェクトの MDIS 名は Dimension (ディメンション) です。

プロパティ名	データ・タイプ	サイズ	プロパティ短縮名	値フラグ	UUI 順序	MDIS 名へのマップ
ディメンションのクラスまたはタイプ	VARCHAR	80	TYPE	O		DimensionType
合計メンバー数	CHAR	10	TOTALCNT	O		DimensionCount
レベル数	CHAR	10	LEVELCNT	O		DimensionLevelCount
アプリケーション・ユニークの情報	VARCHAR	512	APPLDATA	O		ApplicationData
データにアクセスするための URL	VARCHAR	254	URL	O		ApplicationData
ソース定義の作成のタイム・スタンプ	CHAR	26	CRTTIME	O		DateCreated、TimeCreated
ソース定義の最終変更のタイム・スタンプ	CHAR	26	SRCDATCF	O		DateUpdated、TimeUpdated
属性のディメンション	LONG VARCHAR	32700	DIMATTR	O		

注: S = インフォメーション・カタログ・センター生成、R = 必要、O = オプション

関連資料:

- 93 ページの『すべてのインフォメーション・カタログ・センター・オブジェクトのデフォルトのプロパティ』
- 93 ページの『インフォメーション・カタログ・センター用の拡張可能オブジェクト・タイプのガイドライン』
- 「インフォメーション・カタログ・センター 管理ガイド」の『インフォメーション・カタログ・センターの定義済みオブジェクト・タイプ』

事前定義オブジェクト記述: 文書

文書オブジェクトは、資料または技術文書を表します。これらの資料は、印刷または電子形式で、ローカルに、あるいはライブラリー内で見つけることができます。

このオブジェクトのインフォメーション・カタログ・センター短縮名は、DOCS です。

次の表は、文書オブジェクトのプロパティについての情報を示しています。

表 79. 文書オブジェクトのプロパティ

プロパティ名	データ・タイプ	サイズ	プロパティ短縮名	値フラグ	UUI 順序
名前	VARCHAR	200	NAME	R	
簡略説明	VARCHAR	250	SHRTDESC	O	
詳細説明	LONG VARCHAR	32700	LONGDESC	O	
アクション	VARCHAR	254	ACTIONS	O	
文書の作成者	VARCHAR	80	AUTHOR	R	1
文書のロケーション	VARCHAR	254	LOCATION	R	2
文書のファイル名	VARCHAR	254	FILENAME	R	3
データにアクセスするための URL	VARCHAR	254	URL	O	

注: S = インフォメーション・カタログ・センター生成、R = 必要、O = オプション

関連資料:

- 93 ページの『すべてのインフォメーション・カタログ・センター・オブジェクトのデフォルトのプロパティ』
- 93 ページの『インフォメーション・カタログ・センター用の拡張可能オブジェクト・タイプのガイドライン』
- 「インフォメーション・カタログ・センター 管理ガイド」の『インフォメーション・カタログ・センターの定義済みオブジェクト・タイプ』

事前定義オブジェクト記述: DWC プロセス

DWC プロセス・オブジェクトは、データウェアハウス・センターでのプロセスを表します。

このオブジェクトのインフォメーション・カタログ・センター短縮名は、DWCPROC です。

次の表は、ビジネス・サブジェクト・エリア・オブジェクトのプロパティについての情報を示しています。

表 80. DWC プロセス・オブジェクトのプロパティ

プロパティ名	データ・タイプ	サイズ	プロパティ短縮名	値フラグ	UUI 順序
名前	VARCHAR	80	NAME	R	1
簡略説明	VARCHAR	250	SHRTDESC	O	
詳細説明	LONG VARCHAR	32700	LONGDESC	O	
アクション	VARCHAR	254	ACTIONS	O	

表 80. DWC プロセス・オブジェクトのプロパティ (続き)

プロパティ名	データ・タイプ	サイズ	プロパティ短縮名	値フラグ	UUI 順序
詳細の問い合わせ先	VARCHAR	80	RESPNSBL	O	
データにアクセスするための URL	VARCHAR	254	URL	O	
ソース定義の最終変更のタイム・スタンプ	CHAR	26	SRCDATCF	O	

注: S = インフォメーション・カタログ・センター生成、R = 必要、O = オプション

関連資料:

- 93 ページの『すべてのインフォメーション・カタログ・センター・オブジェクトのデフォルトのプロパティ』
- 93 ページの『インフォメーション・カタログ・センター用の拡張可能オブジェクト・タイプのガイドライン』
- 「インフォメーション・カタログ・センター 管理ガイド」の『インフォメーション・カタログ・センターの定義済みオブジェクト・タイプ』

事前定義オブジェクト記述: ファイル

ファイル・オブジェクトは、ファイル・システム内のファイルを表します。

このオブジェクトのインフォメーション・カタログ・センター短縮名は、FILE です。

次の表は、ファイル・オブジェクトのプロパティについての情報を示しています。

表 81. ファイル・オブジェクトのプロパティ: このオブジェクトの MDIS 名は Record (レコード) です。

プロパティ名	データ・タイプ	サイズ	プロパティ短縮名	値フラグ	UUI 順序	MDIS 名へのマップ
名前	VARCHAR	200	NAME	R		RecordLongName
簡略説明	VARCHAR	250	SHRTDESC	O		BriefDescription
詳細説明	LONG VARCHAR	32700	LONGDESC	O		LongDescription
アクション	VARCHAR	254	ACTIONS	O		ApplicationData
詳細の問い合わせ先	VARCHAR	80	RESPNSBL	O		ContactName
データベースのホスト・サーバー名	VARCHAR	80	SERVER	R	1	ServerName

表 8I. ファイル・オブジェクトのプロパティ (続き): このオブジェクトの MDIS 名は Record (レコード) です。

プロパティ名	データ・タイプ	サイズ	プロパティ短縮名	値フラグ	UUI 順序	MDIS 名へのマップ
データベースまたはサブシステム名	VARCHAR	80	DBNAME	R	2	DatabaseName
ファイルの所有者	VARCHAR	80	OWNER	R	3	OwnerName
ファイルのパスまたはディレクトリー	VARCHAR	254	FILEPATH	R	4	ApplicationData
ファイルのファイル名	VARCHAR	254	FILENAME	R	5	RecordName
最後にリフレッシュされたファイル・データ	CHAR	26	FRESHDAT	O		RecordLastRefreshDate
トランスフォーメーション・プログラムの最後の実行	CHAR	26	LASTRUN	O		ApplicationData
トランスフォーメーション・プログラムの実行頻度	VARCHAR	80	RUNFREQ	O		RecordUpdateFrequency
トランスフォーメーション・プログラムのタイプ	VARCHAR	32	SOURCE	O		ApplicationData
ファイルの部分または完全コピー/更新	CHAR	1	COPYCOMP	O		ApplicationData
コピーまたは更新されたデータが整合状態にある	CHAR	1	CONSIST	O		ApplicationData
トランスフォーメーション・プログラムの最後の変更	CHAR	26	PGMGEND	O		ApplicationData
トランスフォーメーション・プログラムの最後のコンパイル	CHAR	26	PGMCOMP	O		ApplicationData

表 81. ファイル・オブジェクトのプロパティ (続き): このオブジェクトの MDIS 名は Record (レコード) です。

プロパティ名	データ・タイプ	サイズ	プロパティ短縮名	値フラグ	UUI 順序	MDIS 名へのマップ
ファイルのクラスまたはタイプ	VARCHAR	80	TYPE	O		RecordType
データにアクセスするための URL	VARCHAR	254	URL	O		ApplicationData
ソース定義の作成のタイム・スタンプ	CHAR	26	CRTTIME	O		DateCreated、TimeCreated
ソース定義の最終変更のタイム・スタンプ	CHAR	26	SRCDATCF	O		DateUpdated、TimeUpdated

注: S = インフォメーション・カタログ・センター生成、R = 必要、O = オプション

関連資料:

- 93 ページの『すべてのインフォメーション・カタログ・センター・オブジェクトのデフォルトのプロパティ』
- 93 ページの『インフォメーション・カタログ・センター用の拡張可能オブジェクト・タイプのガイドライン』
- 「インフォメーション・カタログ・センター 管理ガイド」の『インフォメーション・カタログ・センターの定義済みオブジェクト・タイプ』

事前定義オブジェクト記述: 用語集項目

用語集項目オブジェクトは、インフォメーション・カタログで使用される用語の定義を表します。

このオブジェクトのインフォメーション・カタログ・センター短縮名は、GLOSSARY です。

次の表は、用語集項目オブジェクトのプロパティについての情報を示しています。

表 82. 用語集項目オブジェクトのプロパティ

プロパティ名	データ・タイプ	サイズ	プロパティ短縮名	値フラグ	UUI 順序
名前	VARCHAR	200	NAME	R	1
簡略説明	VARCHAR	250	SHRTDESC	O	
詳細説明	LONG VARCHAR	32700	LONGDESC	O	
アクション	VARCHAR	254	ACTIONS	O	
キーワード	VARCHAR	254	KEYWORD	O	

表 82. 用語集項目オブジェクトのプロパティ (続き)

プロパティ名	データ・タイプ	サイズ	プロパティ短縮名	値フラグ	UI 順序
用語集定義のコンテキスト	CHAR	32	CONTEXT	O	
用語集定義を含むファイル名	VARCHAR	254	FILENAME	O	
用語集のクラスまたはタイプ	VARCHAR	80	TYPE	O	
データにアクセスするための URL	VARCHAR	254	URL	O	

注: S = インフォメーション・カタログ・センター生成、R = 必要、O = オプション

関連資料:

- 93 ページの『すべてのインフォメーション・カタログ・センター・オブジェクトのデフォルトのプロパティ』
- 93 ページの『インフォメーション・カタログ・センター用の拡張可能オブジェクト・タイプのガイドライン』
- 「インフォメーション・カタログ・センター 管理ガイド」の『インフォメーション・カタログ・センターの定義済みオブジェクト・タイプ』

事前定義オブジェクト記述: イメージまたはグラフィックス

イメージまたはグラフィックス・オブジェクトは、ビットマップのような GRAPHIC イメージを表します。

このオブジェクトのインフォメーション・カタログ・センター短縮名は、IMAGES です。

次の表は、イメージまたはグラフィックス・オブジェクトのプロパティについての情報を示しています。

表 83. イメージまたはグラフィックス・オブジェクトのプロパティ

プロパティ名	データ・タイプ	サイズ	プロパティ短縮名	値フラグ	UI 順序
名前	VARCHAR	200	NAME	R	
簡略説明	VARCHAR	250	SHRTDESC	O	
詳細説明	LONG VARCHAR	32700	LONGDESC	O	
アクション	VARCHAR	254	ACTIONS	O	
イメージのファイル名	VARCHAR	254	FILENAME	R	1

表 83. イメージまたはグラフィックス・オブジェクトのプロパティ (続き)

プロパティ名	データ・タイプ	サイズ	プロパティ短縮名	値フラグ	UUI 順序
イメージのクラスまたはタイプ	VARCHAR	80	TYPE	R	2
データにアクセスするための URL	VARCHAR	254	URL	O	

注: S = インフォメーション・カタログ・センター生成、R = 必要、O = オプション

関連資料:

- 93 ページの『すべてのインフォメーション・カタログ・センター・オブジェクトのデフォルトのプロパティ』
- 93 ページの『インフォメーション・カタログ・センター用の拡張可能オブジェクト・タイプのガイドライン』
- 「インフォメーション・カタログ・センター 管理ガイド」の『インフォメーション・カタログ・センターの定義済みオブジェクト・タイプ』

事前定義オブジェクト記述: IMS データベース定義 (DBD)

IMS データベース定義 (DBD) オブジェクトは、IMS データベース定義を表します。

このオブジェクトのインフォメーション・カタログ・センター短縮名は、IMSDBD です。

次の表は、IMS データベース定義 (DBD) オブジェクトのプロパティについての情報を示しています。

表 84. IMS データベース定義 (DBD) オブジェクトのプロパティ: このオブジェクトの MDIS 名は Database (データベース) です。

プロパティ名	データ・タイプ	サイズ	プロパティ短縮名	値フラグ	UUI 順序	MDIS 名へのマップ
名前	VARCHAR	200	NAME	R		DatabaseLongName
簡略説明	VARCHAR	250	SHRTDESC	O		BriefDescription
詳細説明	LONG VARCHAR	32700	LONGDESC	O		LongDescription
アクション	VARCHAR	254	ACTIONS	O		ApplicationData
最後にリフレッシュされたデータベース	CHAR	26	FRESHDAT	O		ApplicationData
詳細の問い合わせ先	VARCHAR	80	RESPNSBL	O		ContactName
データベースの所有者	VARCHAR	80	OWNER	O		OwnerName

表 84. IMS データベース定義 (DBD) オブジェクトのプロパティ (続き): このオブジェクトの MDIS 名は Database (データベース) です。

プロパティ名	データ・タイプ	サイズ	プロパティ短縮名	値フラグ	UUI 順序	MDIS 名へのマップ
データベースのホスト・サーバー名	VARCHAR	80	SERVER	R	1	ServerName
データベースのサーバー・タイプ	VARCHAR	80	SRVRTYPE	O		ServerType
データベースまたはサブシステム名	VARCHAR	80	DBNAME	R	2	DatabaseName
データベースのタイプ	VARCHAR	80	DBTYPE	R	3	DatabaseType
データベースの拡張タイプ	VARCHAR	40	DBETYPE	O		ApplicationData
データベースの状況	VARCHAR	80	DBSTAT	O		DatabaseStatus
IMS のアクセス方式	VARCHAR	80	IMSACC	O		ApplicationData
オペレーティング・システムのアクセス方式	VARCHAR	80	OSACC	O		ApplicationData
共有索引名	VARCHAR	320	SHRINDEX	O		ApplicationData
データにアクセスするための URL	VARCHAR	254	URL	O		ApplicationData
1 ソース定義の作成のタイム・スタンプ	CHAR	26	CRTTIME	O		DateCreated、TimeCreated
1 ソース定義の最終変更のタイム・スタンプ	CHAR	26	SRCDATCF	O		DateUpdated、TimeUpdated

注: S = インフォメーション・カタログ・センター生成、R = 必要、O = オプション

関連資料:

- 93 ページの『すべてのインフォメーション・カタログ・センター・オブジェクトのデフォルトのプロパティ』
- 93 ページの『インフォメーション・カタログ・センター用の拡張可能オブジェクト・タイプのガイドライン』
- 「インフォメーション・カタログ・センター 管理ガイド」の『インフォメーション・カタログ・センターの定義済みオブジェクト・タイプ』

事前定義オブジェクト記述: IMS プログラム制御ブロック (PCB)

IMS プログラム制御ブロック・オブジェクトは、IMS プログラム制御ブロックを表します。

このオブジェクトのインフォメーション・カタログ・センター短縮名は、IMSPCBです。

次の表は、IMS プログラム制御ブロック (PCB) オブジェクトのプロパティに関する情報を示しています。

表 85. IMS プログラム制御ブロック (PCB) オブジェクトのプロパティ: このオブジェクトの MDIS 名は Subschema (サブスキーマ) です。

プロパティ名	データ・ タイプ	サイズ	製品ショート・ ネーム	値フラグ	UUI 順序	MDIS 名へのマップ
名前	VARCHAR	200	NAME	R		SubschemaLongName
簡略説明	VARCHAR	250	SHRTDESC	O		BriefDescription
詳細説明	LONG VARCHAR	32700	LONGDESC	O		LongDescription
アクション	VARCHAR	254	ACTIONS	O		ApplicationData
詳細の問い合わせ先	VARCHAR	80	RESPNSBL	O		ContactName
データベースの ホスト・サーバ 名	VARCHAR	80	SERVER	R	1	ServerName
データベースま たはサブシステ ム名	VARCHAR	80	DBNAME	R	2	DatabaseName
PCB 名	VARCHAR	80	PCBNAME	R	3	SubschemaName
PCB の所有者	VARCHAR	80	OWNER	O		OwnerName
データにアクセ スするための URL	VARCHAR	254	URL	O		ApplicationData
ソース定義の作 成のタイム・ス タンプ	CHAR	26	CRTTIME	O		DateCreated、TimeCreated
ソース定義の最 終変更のタイ ム・スタンプ	CHAR	26	SRCDATCF	O		DateUpdated、TimeUpdated

注: S = インフォメーション・カタログ・センター生成、R = 必要、O = オプション

関連資料:

- 93 ページの『すべてのインフォメーション・カタログ・センター・オブジェクトのデフォルトのプロパティ』
- 93 ページの『インフォメーション・カタログ・センター用の拡張可能オブジェクト・タイプのガイドライン』

- ・ 「インフォメーション・カタログ・センター 管理ガイド」の『インフォメーション・カタログ・センターの定義済みオブジェクト・タイプ』

事前定義オブジェクト記述: IMS プログラム仕様ブロック (PSB)

IMS 事前定義プログラム・ブロック・オブジェクトは、IMS プログラム仕様ブロックを表します。

このオブジェクトのインフォメーション・カタログ・センター短縮名は、PSB です。

表 86. IMS プログラム仕様ブロック (PSB) オブジェクトのプロパティ: このオブジェクトの MDIS 名は Subschema (サブスキーマ) です。

プロパティ名	データ・ タイプ	サイズ	プロパティ・ 短縮名	値フラグ	UI 順序	MDIS 名へのマップ
名前	VARCHAR	200	NAME	R		DatabaseLongName
簡略説明	VARCHAR	250	SHRTDESC	O		BriefDescription
詳細説明	LONG VARCHAR	32700	LONGDESC	O		LongDescription
アクション	VARCHAR	254	ACTIONS	O		ApplicationData
詳細の問い合わせ先	VARCHAR	80	RESPNSBL	O		ContactName
データベースの ホスト・サーバ 名	VARCHAR	80	SERVER	R	1	ServerName
データベースの サーバー・タイ プ	VARCHAR	80	SRVRTYPE	O		ServerType
データベースの タイプ	VARCHAR	80	DBTYPE	R	3	DatabaseType
データベースの 拡張タイプ	VARCHAR	40	DBETYPE	O		ApplicationData
データベースの 状況	VARCHAR	80	DBSTAT	O		DatabaseStatus
PSB 名	VARCHAR	80	PSBNAME	R	2	DatabaseName
PSB の所有者	VARCHAR	80	OWNER	O		OwnerName
データにアクセ スするための URL	VARCHAR	254	URL	O		ApplicationData
ソース定義の作 成のタイム・ス タンプ	CHAR	26	CRTTIME	O		DateCreated、TimeCreated
ソース定義の最 終変更のタイ ム・スタンプ	CHAR	26	SRCDATCF	O		DateUpdated、TimeUpdated

注: S = インフォメーション・カタログ・センター生成、R = 必要、O = オプション

関連資料:

- 93 ページの『すべてのインフォメーション・カタログ・センター・オブジェクトのデフォルトのプロパティ』
- 93 ページの『インフォメーション・カタログ・センター用の拡張可能オブジェクト・タイプのガイドライン』
- 「インフォメーション・カタログ・センター 管理ガイド」の『インフォメーション・カタログ・センターの定義済みオブジェクト・タイプ』

事前定義オブジェクト記述: IMS セグメント

IMS セグメント・オブジェクトは、IMS セグメントを表します。

このオブジェクトのインフォメーション・カタログ・センター短縮名は、IMSSEG です。

次の表は、IMS セグメント・オブジェクトのプロパティについての情報を示しています。

表 87. IMS セグメント・オブジェクトのプロパティ: このオブジェクトの MDIS 名は Record (レコード) です。

プロパティ名	データ・ タイプ	サイズ	プロパティ・ 短縮名	値フラグ	UI 順序	MDIS 名へのマップ
名前	VARCHAR	200	NAME	R		RecordLongName
簡略説明	VARCHAR	250	SHRTDESC	O		BriefDescription
詳細説明	LONG VARCHAR	32700	LONGDESC	O		LongDescription
アクション	VARCHAR	254	ACTIONS	O		ApplicationData
最後にリフレッシュされたセグメント	CHAR	26	FRESHDAT	O		RecordLastRefreshDate
詳細の問い合わせ先	VARCHAR	80	RESPNSBL	O		ContactName
データベースの ホスト・サーバー名	VARCHAR	80	SERVER	O		ServerName
データベースまたはサブシステム名	VARCHAR	80	DBNAME	R	1	DatabaseName
セグメント名	VARCHAR	80	SEGNAME	R	2	RecordName
セグメントの所有者	VARCHAR	80	OWNER	O		OwnerName
セグメント・タイプ	VARCHAR	80	TYPE	O		RecordType
セグメントの最大長	CHAR	5	MAXLEN	O		ApplicationData
セグメントの最小長	CHAR	5	MINLEN	O		ApplicationData

表 87. IMS セグメント・オブジェクトのプロパティ (続き): このオブジェクトの MDIS 名は Record (レコード) です。

プロパティ名	データ・ タイプ	サイズ	プロパティ 短縮名	値フラグ	UUI 順序	MDIS 名へのマップ
実際の論理子セグメントのソース	CHAR	20	PSEGSRC	O		ApplicationData
論理親の連結キーのソース	CHAR	20	LPCKSRC	O		ApplicationData
トランスフォーメーション・プログラムの最後の実行	CHAR	26	LASTRUN	O		ApplicationData
トランスフォーメーション・プログラムの実行頻度	VARCHAR	80	RUNFREQ	O		RecordUpdateFrequency
データにアクセスするための URL	VARCHAR	254	URL	O		ApplicationData
ソース定義の作成のタイム・スタンプ	CHAR	26	CRTTIME	O		DateCreated、TimeCreated
ソース定義の最終変更のタイム・スタンプ	CHAR	26	SRCDATCF	O		DateUpdated、TimeUpdated

注: S = インフォメーション・カタログ・センター生成、R = 必要、O = オプション

関連資料:

- 93 ページの『すべてのインフォメーション・カタログ・センター・オブジェクトのデフォルトのプロパティ』
- 93 ページの『インフォメーション・カタログ・センター用の拡張可能オブジェクト・タイプのガイドライン』
- 「インフォメーション・カタログ・センター 管理ガイド」の『インフォメーション・カタログ・センターの定義済みオブジェクト・タイプ』

事前定義オブジェクト記述: インターネット文書

インターネット文書オブジェクトは、Web サイトや、インターネット上のその他の文書を表します。

このオブジェクトのインフォメーション・カタログ・センター短縮名は、INTERNET です。

次の表は、インターネット文書オブジェクトのプロパティについての情報を示しています。

表 88. インターネット文書オブジェクトのプロパティ

プロパティ名	データ・タイプ	サイズ	プロパティ短縮名	値フラグ	UII 順序
名前	VARCHAR	200	NAME	R	
簡略説明	VARCHAR	250	SHRTDESC	O	
詳細説明	LONG VARCHAR	32700	LONGDESC	O	
アクション	VARCHAR	254	ACTIONS	O	
データにアクセスするための URL	VARCHAR	254	URL	R	1
ローカル・ファイル名	VARCHAR	254	FILENAME	R	2
インターネット文書のクラスまたはタイプ	VARCHAR	80	TYPE	O	

注: S = インフォメーション・カタログ・センター生成、R = 必要、O = オプション

関連資料:

- 93 ページの『すべてのインフォメーション・カタログ・センター・オブジェクトのデフォルトのプロパティ』
- 93 ページの『インフォメーション・カタログ・センター用の拡張可能オブジェクト・タイプのガイドライン』
- 「インフォメーション・カタログ・センター 管理ガイド」の『インフォメーション・カタログ・センターの定義済みオブジェクト・タイプ』

事前定義オブジェクト記述: Lotus Approach 照会

組織のデータに対して使用可能な Lotus Approach 照会を表します。

このオブジェクトのインフォメーション・カタログ・センター短縮名は、APPROACH です。

次の表は、Lotus Approach 照会オブジェクトのプロパティについての情報を示しています。

表 89. Lotus Approach 照会オブジェクトのプロパティ

プロパティ名	データ・タイプ	サイズ	プロパティ短縮名	値フラグ	UII 順序
資料名	VARCHAR	200	NAME	R	
簡略説明	VARCHAR	250	SHRTDESC	O	
詳細説明	LONG VARCHAR	32700	LONGDESC	O	
アクション	VARCHAR	254	ACTIONS	O	

表 89. Lotus Approach 照会オブジェクトのプロパティ (続き)

プロパティ名	データ・タイプ	サイズ	プロパティ短縮名	値フラグ	UUI 順序
Approach オブジェクトのファイル名	VARCHAR	254	FILENAME	R	1
データにアクセスするための URL	VARCHAR	254	URL	O	

注: S = インフォメーション・カタログ・センター生成、R = 必要、O = オプション

関連資料:

- 93 ページの『すべてのインフォメーション・カタログ・センター・オブジェクトのデフォルトのプロパティ』
- 93 ページの『インフォメーション・カタログ・センター用の拡張可能オブジェクト・タイプのガイドライン』
- 「インフォメーション・カタログ・センター 管理ガイド」の『インフォメーション・カタログ・センターの定義済みオブジェクト・タイプ』

事前定義オブジェクト記述: マルチディメンション・データベース

マルチディメンション・データベース・オブジェクトは、マルチディメンション・データベースを表します。

このオブジェクトのインフォメーション・カタログ・センター短縮名は、OLAPMODL です。

次の表は、マルチディメンション・データベース・オブジェクトのプロパティについての情報を示しています。

表 90. マルチディメンション・データベース・オブジェクトのプロパティ: このオブジェクトの MDIS 名は Database (データベース) です。

プロパティ名	データ・タイプ	サイズ	プロパティ短縮名	値フラグ	UUI 順序	MDIS 名へのマップ
名前	VARCHAR	200	NAME	R		DatabaseLongName
簡略説明	VARCHAR	250	SHRTDESC	O		BriefDescription
詳細説明	LONG VARCHAR	32700	LONGDESC	O		LongDescription
アクション	VARCHAR	254	ACTIONS	O		ApplicationData
詳細の問い合わせ先	VARCHAR	80	RESPNSBL	O		ContactName
最後にリフレッシュされたデータベース	CHAR	26	FRESHDAT	O		ApplicationData
データベースの所有者	VARCHAR	80	OWNER	O		OwnerName

表 90. マルチディメンション・データベース・オブジェクトのプロパティ (続き): このオブジェクトの MDIS 名は Database (データベース) です。

プロパティ名	データ・ タイプ	サイズ	プロパティ 短縮名	値フラグ	UI 順序	MDIS 名へのマップ
データベースの ホスト・サーバ 一名	VARCHAR	80	SERVER	R	1	ServerName
データベースの サーバー・タイ プ	VARCHAR	80	SRVRTYPE	O		ServerType
データベースま たはサブシステ ム名	VARCHAR	80	DBNAME	R	2	DatabaseName
データベースの タイプ	VARCHAR	80	DBTYPE	O		DatabaseType
データベースの 拡張タイプ	VARCHAR	20	DBETYPE	O		ApplicationData
データベースの 状況	VARCHAR	80	DBSTAT	O		DatabaseStatus
使用中のアプリ ケーション名	VARCHAR	80	APPLNAME	R	3	ApplicationData
アプリケーション・ユニークの 情報	VARCHAR	512	APPLDATA	O		ApplicationData
データにアクセ スするための URL	VARCHAR	254	URL	O		ApplicationData
ソース定義の作 成のタイム・ス タンプ	CHAR	26	CRTTIME	O		DateCreated、TimeCreated
ソース定義の最 終変更のタイ ム・スタンプ	CHAR	26	SRCDATCF	O		DateUpdated、TimeUpdated

注: S = インフォメーション・カタログ・センター生成、R = 必要、O = オプション

関連資料:

- 93 ページの『すべてのインフォメーション・カタログ・センター・オブジェクトのデフォルトのプロパティ』
- 93 ページの『インフォメーション・カタログ・センター用の拡張可能オブジェクト・タイプのガイドライン』
- 「インフォメーション・カタログ・センター 管理ガイド」の『インフォメーション・カタログ・センターの定義済みオブジェクト・タイプ』

事前定義オブジェクト記述: インフォメーション・カタログ・ニュース

インフォメーション・カタログ・ニュース・オブジェクトには、インフォメーション・カタログに対する変更情報が入っています。

このオブジェクトのインフォメーション・カタログ・センター短縮名は、DGNEWSです。

次の表は、インフォメーション・カタログ・ニュース・オブジェクトのプロパティについての情報を示しています。

表 91. インフォメーション・カタログ・センター・ニュース・オブジェクトのプロパティ

プロパティ名	データ・タイプ	サイズ	プロパティ短縮名	値フラグ	UI 順序
名前	VARCHAR	200	NAME	R	1
簡略説明	VARCHAR	250	SHRTDESC	O	
詳細説明	LONG VARCHAR	32700	LONGDESC	O	
アクション	VARCHAR	254	ACTIONS	O	
ニュース項目の日付	CHAR	26	NEWSDATE	R	
ニュース・クリップ	VARCHAR	254	ABSTRACT	R	
全ニュース項目	LONG VARCHAR	32700	NEWSITEM	O	
データにアクセスするための URL	VARCHAR	254	URL	O	

注: S = インフォメーション・カタログ・センター生成、R = 必要、O = オプション

事前定義オブジェクト記述: オンライン・ニュース・サービス

オンライン・ニュース・サービス・オブジェクトは、オンラインでアクセスできるニュースおよび情報サービスを表します。

このオブジェクトのインフォメーション・カタログ・センター短縮名は、OLNEWSです。

次の表は、オンライン・ニュース・サービス・オブジェクトのプロパティについての情報を示しています。

表 92. オンライン・ニュース・サービス・オブジェクトのプロパティ

プロパティ名	データ・タイプ	サイズ	プロパティ短縮名	値フラグ	UI 順序
名前	VARCHAR	200	NAME	R	1
簡略説明	VARCHAR	250	SHRTDESC	O	
詳細説明	LONG VARCHAR	32700	LONGDESC	O	
アクション	VARCHAR	254	ACTIONS	O	
サービス名	VARCHAR	254	SERVNAME	R	

表 92. オンライン・ニュース・サービス・オブジェクトのプロパティ (続き)

プロパティ名	データ・タイプ	サイズ	プロパティ短縮名	値フラグ	UI 順序
データにアクセスするための URL	VARCHAR	254	URL	O	

注: S = インフォメーション・カタログ・センター生成、R = 必要、O = オプション

事前定義オブジェクト記述: オンライン資料

オンライン資料オブジェクトは、オンライン・サービスによってアクセスできる資料やその他の文書を表します。

このオブジェクトのインフォメーション・カタログ・センター短縮名は、OLPUBS です。

次の表は、オンライン資料オブジェクトのプロパティについての情報を示しています。

表 93. オンライン資料オブジェクトのプロパティ

プロパティ名	データ・タイプ	サイズ	プロパティ短縮名	値フラグ	UI 順序
名前	VARCHAR	200	NAME	R	1
簡略説明	VARCHAR	250	SHRTDESC	O	
詳細説明	LONG VARCHAR	32700	LONGDESC	O	
アクション	VARCHAR	254	ACTIONS	O	
サービス名	VARCHAR	254	SERVNAME	R	
データにアクセスするための URL	VARCHAR	254	URL	O	

注: S = インフォメーション・カタログ・センター生成、R = 必要、O = オプション

関連資料:

- 93 ページの『すべてのインフォメーション・カタログ・センター・オブジェクトのデフォルトのプロパティ』
- 93 ページの『インフォメーション・カタログ・センター用の拡張可能オブジェクト・タイプのガイドライン』
- 「インフォメーション・カタログ・センター 管理ガイド」の『インフォメーション・カタログ・センターの定義済みオブジェクト・タイプ』

事前定義オブジェクト記述: 連絡先

連絡先オブジェクトは、インフォメーション・カタログ内のオブジェクトについて責任がある人またはグループを識別します。

このオブジェクトのインフォメーション・カタログ・センター短縮名は、CONTACT
です。

次の表は、連絡先オブジェクトのプロパティについての情報を示しています。

表 94. 連絡先オブジェクトのプロパティ

プロパティ名	データ・タイプ	サイズ	プロパティ短縮名	値フラグ	UI 順序
名前	VARCHAR	200	NAME	R	1
簡略説明	VARCHAR	250	SHRTDESC	O	
詳細説明	LONG VARCHAR	32700	LONGDESC	O	
アクション	VARCHAR	254	ACTIONS	O	
連絡先の責任	VARCHAR	254	RESPONSE	R	2
連絡先の電話番号	CHAR	15	PHONE	R	
連絡先の電子メール・アドレス	VARCHAR	254	EMAIL	R	
連絡先のピクチャー・ファイル名	VARCHAR	254	FILENAME	O	
データにアクセスするための URL	VARCHAR	254	URL	O	

注: S = インフォメーション・カタログ・センター生成、R = 必要、O = オプション

関連資料:

- 93 ページの『すべてのインフォメーション・カタログ・センター・オブジェクトのデフォルトのプロパティ』
- 93 ページの『インフォメーション・カタログ・センター用の拡張可能オブジェクト・タイプのガイドライン』
- 「インフォメーション・カタログ・センター 管理ガイド」の『インフォメーション・カタログ・センターの定義済みオブジェクト・タイプ』

事前定義オブジェクト記述: プレゼンテーション

プレゼンテーション・オブジェクトは、印刷された、または電子的なプレゼンテーションを表します。これらのプレゼンテーションには、製品、カスタマー、品質、および状況のプレゼンテーションが含まれます。

このオブジェクトのインフォメーション・カタログ・センター短縮名は、PRESENTです。

次の表は、プレゼンテーション・オブジェクトのプロパティについての情報を示しています。

表 95. プレゼンテーション・オブジェクトのプロパティ

プロパティ名	データ・タイプ	サイズ	プロパティ短縮名	値フラグ	UI 順序
名前	VARCHAR	200	NAME	R	
簡略説明	VARCHAR	250	SHRTDESC	O	
詳細説明	LONG VARCHAR	32700	LONGDESC	O	
アクション	VARCHAR	254	ACTIONS	O	
プレゼンテーションのファイル名	VARCHAR	254	FILENAME	R	1
プレゼンテーションのクラスまたはタイプ	VARCHAR	80	TYPE	O	
プレゼンテーション・スクリプト	VARCHAR	254	SCRIPTFN	O	
データにアクセスするための URL	VARCHAR	254	URL	O	

注: S = インフォメーション・カタログ・センター生成、R = 必要、O = オプション

関連資料:

- 93 ページの『すべてのインフォメーション・カタログ・センター・オブジェクトのデフォルトのプロパティ』

- 93 ページの『インフォメーション・カタログ・センター用の拡張可能オブジェクト・タイプのガイドライン』
- 「インフォメーション・カタログ・センター 管理ガイド」の『インフォメーション・カタログ・センターの定義済みオブジェクト・タイプ』

事前定義オブジェクト記述: インフォメーション・カタログ・オブジェクトから呼び出すことができるプログラム

インフォメーション・カタログ・オブジェクトから呼び出すことのできるプログラムは、インフォメーション・カタログの作成時に作成されます。

このオブジェクトは、特定のオブジェクトを処理することができるアプリケーションを定義するために使用されます。

このオブジェクトのインフォメーション・カタログ・センター短縮名は、PROGRAMS です。

次の表は、インフォメーション・カタログ・センター・オブジェクトから呼び出すことができるプログラム・オブジェクトのプロパティについての情報を示しています。

表 96. 「インフォメーション・カタログ・センター・オブジェクトから呼び出すことができるプログラム」オブジェクトのプロパティ

プロパティ名	データ・タイプ	サイズ	プロパティの短縮名	値フラグ	UI 順序
名前	VARCHAR	200	NAME	R	1
このプログラムが適用されるプラットフォーム	VARCHAR	48	PLATFORM	R	2
実行可能ファイル名	VARCHAR	70	EXECUTABLE	R	4
処理されるオブジェクト・タイプ	VARCHAR	200	OBJECTTYPE	R	3
パラメーター・リスト	VARCHAR	1800	PARMLIST	O	
簡略説明	VARCHAR	250	SHRTDESC	O	

注: S = インフォメーション・カタログ・センター生成、R = 必要、O = オプション

関連資料:

- 93 ページの『すべてのインフォメーション・カタログ・センター・オブジェクトのデフォルトのプロパティ』
- 93 ページの『インフォメーション・カタログ・センター用の拡張可能オブジェクト・タイプのガイドライン』
- 「インフォメーション・カタログ・センター 管理ガイド」の『インフォメーション・カタログ・センターの定義済みオブジェクト・タイプ』

事前定義オブジェクト記述: レコード

レコード・オブジェクトは、ファイル・オブジェクト・タイプ、またはリレーショナル表あるいはビューのオブジェクト・タイプに直接はマップされない MDIS レコード・オブジェクトを表します。レコードはエレメントから構成されます。

このオブジェクトのインフォメーション・カタログ・センター短縮名は、RECORD です。

次の表は、レコード・オブジェクトのプロパティについての情報を示しています。

表 97. レコード・オブジェクトのプロパティ: このオブジェクトの MDIS 名は Record (レコード) です。

プロパティ名	データ・タイプ	サイズ	プロパティ短縮名	値フラグ	UI 順序	MDIS 名へのマップ
名前	VARCHAR	200	NAME	R		RecordLongName
簡略説明	VARCHAR	250	SHRTDESC	O		BriefDescription
詳細説明	LONG VARCHAR	32700	LONGDESC	O		LongDescription
アクション	VARCHAR	254	ACTIONS	O		ApplicationData
詳細の問い合わせ先	VARCHAR	80	RESPNSBL	O		ContactName
データベースのホスト・サーバー名	VARCHAR	80	SERVER	R	1	ServerName
データベースまたはサブシステム名	VARCHAR	80	DBNAME	R	2	DatabaseName
レコードの所有者	VARCHAR	80	OWNER	R	3	OwnerName
レコード名	VARCHAR	80	RECNAME	R	4	RecordName
最後にリフレッシュされたレコード・データ	CHAR	26	FRESHDAT	O		RecordLastRefreshDate
トランスフォーメーション・プログラムの最後の実行	CHAR	26	LASTRUN	O		ApplicationData
トランスフォーメーション・プログラムの実行頻度	VARCHAR	80	RUNFREQ	O		RecordUpdateFrequency
レコード・タイプ	VARCHAR	80	TYPE	O		RecordType
データにアクセスするための URL	VARCHAR	254	URL	O		ApplicationData

表 97. レコード・オブジェクトのプロパティ (続き): このオブジェクトの MDIS 名は Record (レコード) です。

プロパティ名	データ・ タイプ	サイズ	プロパティ・ 短縮名	値フラグ	UUI 順序	MDIS 名へのマップ
ソース定義の作成のタイム・スタンプ	CHAR	26	CRTTIME	O		DateCreated、TimeCreated
ソース定義の最終変更のタイム・スタンプ	CHAR	26	SRCDATCF	O		DateUpdated、TimeUpdated

注: S = インフォメーション・カタログ・センター生成、R = 必要、O = オプション

関連資料:

- 93 ページの『すべてのインフォメーション・カタログ・センター・オブジェクトのデフォルトのプロパティ』
- 93 ページの『インフォメーション・カタログ・センター用の拡張可能オブジェクト・タイプのガイドライン』
- 「インフォメーション・カタログ・センター 管理ガイド」の『インフォメーション・カタログ・センターの定義済みオブジェクト・タイプ』

事前定義オブジェクト記述: リレーショナル表とビュー

リレーショナル表およびビュー・オブジェクトは、リレーショナル・データベースの表またはビューを表しています。

このオブジェクトのインフォメーション・カタログ・センター短縮名は、TABLES です。

次の表は、リレーショナル表およびビュー・オブジェクトのプロパティに関する情報を示しています。

表 98. リレーショナル表およびビュー・オブジェクトのプロパティ: このオブジェクトの MDIS 名は Record (レコード) です。

プロパティ名	データ・ タイプ	サイズ	プロパティ・ 短縮名	値フラグ	UUI 順序	MDIS 名へのマップ
名前	VARCHAR	200	NAME	R		RecordLongName
簡略説明	VARCHAR	250	SHRTDESC	O		BriefDescription
詳細説明	LONG VARCHAR	32700	LONGDESC	O		LongDescription
アクション	VARCHAR	254	ACTIONS	O		ApplicationData
カタログ注釈	VARCHAR	254	REMARKS	O		ApplicationData
詳細の問い合わせ先	VARCHAR	80	RESPNSBL	O		ContactName
データベースの ホスト・サーバー名	VARCHAR	80	SERVER	O		ServerName
ローカル・データベース別名	CHAR	8	DBALIAS	O		ApplicationData

表 98. リレーショナル表およびビュー・オブジェクトのプロパティ (続き): このオブジェクトの MDIS 名は Record (レコード) です。

プロパティ名	データ・ タイプ	サイズ	プロパティ 短縮名	値フラグ	UUI 順序	MDIS 名へのマップ
データベースまたはサブシステム名	VARCHAR	80	DBNAME	R	1	DatabaseName
表の所有者	VARCHAR	80	OWNER	R	2	OwnerName
表名	VARCHAR	80	TABLES	R	3	RecordName
基本表の所有者名	CHAR	30	SRCOWNER	O		ApplicationData
基本表の名前	CHAR	128	SRCTBNAM	O		ApplicationData
最後にリフレッシュされた表データ	CHAR	26	FRESHDAT	O		RecordLastRefreshDate
トランスフォーメーション・プログラムの実行モード	CHAR	30	RUNMODE	O		ApplicationData
トランスフォーメーション・プログラムの最後の実行	CHAR	26	LASTRUN	O		ApplicationData
トランスフォーメーション・プログラムの実行頻度	VARCHAR	80	RUNFREQ	O		RecordUpdateFrequency
トランスフォーメーション・プログラムのタイプ	VARCHAR	32	SOURCE	O		ApplicationData
表の部分または完全コピー/更新	CHAR	1	COPYCOMP	O		ApplicationData
コピー/更新されたデータが整合状態にある	CHAR	1	CONSIST	O		ApplicationData
カタログのリフレッシュ/更新頻度	VARCHAR	80	REFRESH	O		ApplicationData
トランスフォーメーション・プログラムの最後の変更	CHAR	26	PGMGEND	O		ApplicationData
トランスフォーメーション・プログラムの最後のコンパイル	CHAR	26	PGMCOMP	O		ApplicationData

表 98. リレーショナル表およびビュー・オブジェクトのプロパティ (続き): このオブジェクトの MDIS 名は Record (レコード) です。

プロパティ名	データ・ タイプ	サイズ	プロパティ 短縮名	値フラグ	UUI 順序	MDIS 名へのマップ
表タイプ	VARCHAR	80	TYPE	O		RecordType
定義がビューを 表す	CHAR	1	TABLVIEW	O		ApplicationData
表の内部名	CHAR	18	IDSINAME	O		ApplicationData
表がディメンシ ョン表として使 用される	CHAR	1	IDSIDIM	O		ApplicationData
データにアクセ スするための URL	VARCHAR	254	URL	O		ApplicationData
ソース定義の作 成のタイム・ス タンプ	CHAR	26	CRTTIME	O		DateCreated、TimeCreated
ソース定義の最 終変更のタイ ム・スタンプ	CHAR	26	SRCDATCF	O		DateUpdated、TimeUpdated
拡張属性	LONG VARCHAR	32700	EXATTRB	O		

注: S = インフォメーション・カタログ・センター生成、R = 必要、O = オプション

関連資料:

- 93 ページの『すべてのインフォメーション・カタログ・センター・オブジェクトのデフォルトのプロパティ』
- 93 ページの『インフォメーション・カタログ・センター用の拡張可能オブジェクト・タイプのガイドライン』
- 「インフォメーション・カタログ・センター 管理ガイド」の『インフォメーション・カタログ・センターの定義済みオブジェクト・タイプ』

事前定義オブジェクト記述: スプレッドシート

スプレッドシート・オブジェクトは、デスクトップ・スプレッドシート (たとえば、Lotus 1-2-3 または Microsoft Excel のスプレッドシート) を表します。

このオブジェクトのインフォメーション・カタログ・センター短縮名は、SSHEETS です。

次の表は、スプレッドシート・オブジェクトのプロパティについての情報を示しています。

表 99. スプレッドシート・オブジェクトのプロパティ

プロパティ名	データ・ タイプ	サイズ	プロパティ 短縮名	値フラグ	UUI 順序
名前	VARCHAR	200	NAME	R	

表 99. スプレッドシート・オブジェクトのプロパティ (続き)

プロパティ名	データ・タイプ	サイズ	プロパティ短縮名	値フラグ	UUI 順序
簡略説明	VARCHAR	250	SHRTDESC	O	
詳細説明	LONG VARCHAR	32700	LONGDESC	O	
アクション	VARCHAR	254	ACTIONS	O	
スプレッドシートのクラスまたはタイプ	VARCHAR	80	TYPE	O	
スプレッドシートのファイル名	VARCHAR	254	FILENAME	R	1
スプレッドシートのビットマップ <キャプチャー> ファイル名	VARCHAR	254	BITMAP	O	
データにアクセスするための URL	VARCHAR	254	URL	O	

注: S = インフォメーション・カタログ・センター生成、R = 必要、O = オプション

関連資料:

- 93 ページの『すべてのインフォメーション・カタログ・センター・オブジェクトのデフォルトのプロパティ』
- 93 ページの『インフォメーション・カタログ・センター用の拡張可能オブジェクト・タイプのガイドライン』
- 「インフォメーション・カタログ・センター 管理ガイド」の『インフォメーション・カタログ・センターの定義済みオブジェクト・タイプ』

事前定義オブジェクト記述: スタースキーマ

スタースキーマ・オブジェクトは、リレーショナル・データを表します。

このオブジェクトのインフォメーション・カタログ・センター短縮名は、STARSCHM です。

次の表は、ビジネス・サブジェクト・エリア・オブジェクトのプロパティについての情報を示しています。

表 100. スタースキーマ・オブジェクトのプロパティ

プロパティ名	データ・タイプ	サイズ	プロパティ短縮名	値フラグ	UUI 順序
名前	VARCHAR	200	NAME	R	1
簡略説明	VARCHAR	250	SHRTDESC	O	

表 100. スキーマ・オブジェクトのプロパティ (続き)

プロパティ名	データ・タイプ	サイズ	プロパティ短縮名	値フラグ	UI 順序
詳細説明	LONG VARCHAR	32700	LONGDESC	O	
アクション	VARCHAR	254	ACTIONS	O	
詳細の問い合わせ先	VARCHAR	80	RESPNSBL	O	
データにアクセスするための URL	VARCHAR	254	URL	O	
ソース定義の最終変更のタイム・スタンプ	CHAR	26	SRCDATCF	O	

注: S = インフォメーション・カタログ・センター生成、R = 必要、O = オプション

関連資料:

- 93 ページの『すべてのインフォメーション・カタログ・センター・オブジェクトのデフォルトのプロパティ』
- 93 ページの『インフォメーション・カタログ・センター用の拡張可能オブジェクト・タイプのガイドライン』
- 「インフォメーション・カタログ・センター 管理ガイド」の『インフォメーション・カタログ・センターの定義済みオブジェクト・タイプ』

事前定義オブジェクト記述: サブスキーマ

サブスキーマ・オブジェクトは、データベース内でのレコードの論理的なグループ分けを表します。

このオブジェクトのインフォメーション・カタログ・センター短縮名は、SUBSCHEM です。

次の表は、サブスキーマ・オブジェクトのプロパティについての情報を示しています。

表 101. サブスキーマ・オブジェクトのプロパティ: このオブジェクトの MDIS 名は Subschema (サブスキーマ) です。

プロパティ名	データ・タイプ	サイズ	プロパティ短縮名	値フラグ	UI 順序	MDIS 名へのマップ
名前	VARCHAR	200	NAME	R		SubschemaLongName
簡略説明	VARCHAR	250	SHRTDESC	O		BriefDescription
詳細説明	LONG VARCHAR	32700	LONGDESC	O		LongDescription
アクション	VARCHAR	254	ACTIONS	O		ApplicationData
詳細の問い合わせ先	VARCHAR	80	RESPNSBL	O		ContactName

表 101. サブスキーマ・オブジェクトのプロパティ (続き): このオブジェクトの MDIS 名は Subschema (サブスキーマ) です。

プロパティ名	データ・タイプ	サイズ	プロパティ短縮名	値フラグ	UUI 順序	MDIS 名へのマップ
データベースのホスト・サーバー名	VARCHAR	80	SERVER	R	1	ServerName
データベースまたはサブシステム名	VARCHAR	80	DBNAME	R	2	DatabaseName
サブスキーマの所有者	VARCHAR	80	OWNER	O		OwnerName
サブスキーマ名	VARCHAR	80	SSNAME	R	3	SubschemaName
データにアクセスするための URL	VARCHAR	254	URL	O		ApplicationData
ソース定義の作成のタイム・スタンプ	CHAR	26	CRTTIME	O		DateCreated、TimeCreated
ソース定義の最終変更のタイム・スタンプ	CHAR	26	SRCDATCF	O		DateUpdated、TimeUpdated

注: S = インフォメーション・カタログ・センター生成、R = 必要、O = オプション

関連資料:

- 93 ページの『すべてのインフォメーション・カタログ・センター・オブジェクトのデフォルトのプロパティ』
- 93 ページの『インフォメーション・カタログ・センター用の拡張可能オブジェクト・タイプのガイドライン』
- 「インフォメーション・カタログ・センター 管理ガイド」の『インフォメーション・カタログ・センターの定義済みオブジェクト・タイプ』

事前定義オブジェクト記述: テキスト・ベースのレポート

テキスト・ベース・レポート・オブジェクトは、印刷された、または電子的なレポートを表します。

このオブジェクトのインフォメーション・カタログ・センター短縮名は、REPORT です。

次の表は、テキスト・ベース・レポート・オブジェクトのプロパティについての情報を示しています。

表 102. テキスト・ベース・レポート・オブジェクトのプロパティ

プロパティ名	データ・タイプ	サイズ	プロパティ短縮名	値フラグ	UI 順序
名前	VARCHAR	200	NAME	R	
簡略説明	VARCHAR	250	SHRTDESC	O	
詳細説明	LONG VARCHAR	32700	LONGDESC	O	
アクション	VARCHAR	254	ACTIONS	O	
レポートの表題	VARCHAR	254	TITLE	R	
レポートの発行日付	CHAR	26	RPRTDATE	O	
レポートの表示形式	VARCHAR	80	RPRTFRMT	O	
レポートの表示要件	VARCHAR	254	DPPRESNT	O	
レポートの所有者	VARCHAR	80	OWNER	O	
レポートのファイル名	VARCHAR	254	FILENAME	R	1
レポートのクラスまたはタイプ	VARCHAR	80	TYPE	R	2
データにアクセスするための URL	VARCHAR	254	URL	O	

注: S = インフォメーション・カタログ・センター生成、R = 必要、O = オプション

関連資料:

- 93 ページの『すべてのインフォメーション・カタログ・センター・オブジェクトのデフォルトのプロパティ』
- 93 ページの『インフォメーション・カタログ・センター用の拡張可能オブジェクト・タイプのガイドライン』
- 「インフォメーション・カタログ・センター 管理ガイド」の『インフォメーション・カタログ・センターの定義済みオブジェクト・タイプ』

事前定義オブジェクト記述: トランスフォーメーション

トランスフォーメーション・オブジェクトは、ターゲット・リレーショナル・データベース内の列にデータを取り込むために使用される式またはロジックを表します。トランスフォーメーション・オブジェクトは、ソース操作データをターゲット列に変換するために使用される式、またはソース・フィールドとターゲット列の 1 対 1 のマッピングを示します。

このオブジェクトのインフォメーション・カタログ・センター短縮名は、FILTER です。

次の表は、トランスフォーメーション・オブジェクトのプロパティについての情報を示しています。

表 103. トランスフォーメーション・オブジェクトのプロパティ： このオブジェクトの MDIS 名は Relationship (関係) です。

プロパティ名	データ・ タイプ	サイズ	プロパティ 短縮名	値フラグ	UUI 順序	MDIS 名へのマップ
名前	VARCHAR	200	NAME	R	3	RelationshipLongName
簡略説明	VARCHAR	250	SHRTDESC	O		BriefDescription
詳細説明	LONG VARCHAR	32700	LONGDESC	O		LongDescription
アクション	VARCHAR	254	ACTIONS	O		ApplicationData
詳細の問い合わせ先	VARCHAR	80	RESPNSBL			ContactName
トランスフォーメーション・プログラム名	VARCHAR	80	FPNAME	R	1	ApplicationData
トランスフォーメーション ID	VARCHAR	254	FIDENT	R	2	RelationshipName
トランスフォーメーションのクラスまたはタイプ	VARCHAR	80	TYPE	R	4	RelationshipType
ソース列ワールド名、式、またはパラメーター	LONG VARCHAR	32700	FEXPRESS	O		RelationshipExpression
データベースのホスト・サーバー名	VARCHAR	80	SERVER	O		ServerName
トランスフォーメーションの所有者	VARCHAR	80	OWNER	O		OwnerName
ソースのシーケンス	CHAR	5	SRCSEQ	O		SourceSequenceOrder
トランスフォーメーションの序数	CHAR	5	ORDINAL	O		RelationshipOrdinality
トランスフォーメーションの両方向性	CHAR	1	DIRECT	O		RelationshipBidirectional
データにアクセスするための URL	VARCHAR	254	URL	O		ApplicationData
ソース定義の作成のタイム・スタンプ	CHAR	26	CRTTIME	O		DateCreated、TimeCreated

表 103. トランスフォーメーション・オブジェクトのプロパティ (続き): このオブジェクトの MDIS 名は Relationship (関係) です。

プロパティ名	データ・ タイプ	サイズ	プロパティ 短縮名	値フラグ	UUI 順序	MDIS 名へのマップ
ソース定義の最終変更のタイムスタンプ	CHAR	26	SRCDATCF	O		DateUpdated、TimeUpdated

注: S = インフォメーション・カタログ・センター生成、R = 必要、O = オプション

関連資料:

- 93 ページの『すべてのインフォメーション・カタログ・センター・オブジェクトのデフォルトのプロパティ』
- 93 ページの『インフォメーション・カタログ・センター用の拡張可能オブジェクト・タイプのガイドライン』
- 「インフォメーション・カタログ・センター 管理ガイド」の『インフォメーション・カタログ・センターの定義済みオブジェクト・タイプ』

事前定義オブジェクト記述: ビデオ・クリップ

ビデオ・クリップ・オブジェクトは、ビデオ情報が入っているファイルを表します。これらのオブジェクトでは、電子的な (AVI ファイル)、またはメディアに記録された (たとえば、ビデオ・テープまたはレーザー・ディスク) ビデオ情報を表すことができます。

このオブジェクトのインフォメーション・カタログ・センター短縮名は、VIDEO です。

次の表は、ビデオ・クリップ・オブジェクトのプロパティについての情報を示しています。

表 104. ビデオ・クリップ・オブジェクトのプロパティ

プロパティ名	データ・ タイプ	サイズ	プロパティ 短縮名	値フラグ	UUI 順序
名前	VARCHAR	200	NAME	R	
簡略説明	VARCHAR	250	SHRTDESC	O	
詳細説明	LONG VARCHAR	32700	LONGDESC	O	
アクション	VARCHAR	254	ACTIONS	O	
ビデオ・クリップのファイル名	VARCHAR	254	FILENAME	R	1
ビデオ・クリップのクラスまたはタイプ	VARCHAR	80	TYPE	R	2
データにアクセスするための URL	VARCHAR	254	URL	O	

表 104. ビデオ・クリップ・オブジェクトのプロパティ (続き)

プロパティ名	データ・タイプ	サイズ	プロパティ短縮名	値フラグ	UI 順序
注: S = インフォメーション・カタログ・センター生成、R = 必要、O = オプション					

関連資料:

- 93 ページの『すべてのインフォメーション・カタログ・センター・オブジェクトのデフォルトのプロパティ』
- 93 ページの『インフォメーション・カタログ・センター用の拡張可能オブジェクト・タイプのガイドライン』
- 「インフォメーション・カタログ・センター 管理ガイド」の『インフォメーション・カタログ・センターの定義済みオブジェクト・タイプ』

第 3 部 提供されているプログラムとマクロのリファレンス

第 8 章 提供されているデータウェアハウス・センター・プログラム

データウェアハウス・センターは、データウェアハウス・センターとの統合をサポートするために、以下のプログラムを提供しています。

- VWPEXUNX
- ISV_Sample

データウェアハウス・センターとともに提供される VWPEXUNX プログラム

VWPEXUNX プログラムは、リモート側でコマンドを実行またはプログラムを実行します。VWPEXUNX は、Windows NT、Windows 2000、および UNIX[®] 上で実行します。

VWPEXUNX プログラムを Windows NT または Windows 2000 上で実行している場合、REXECD プログラムもワークステーション上で実行していなければなりません。

パラメーター

次の表は、VWPEXUNX プログラムのためのパラメーター・リストを示しています。このリストには、パラメーターのための事前定義トークン (存在する場合) も含まれています。

表 105. VWPEXUNX のパラメーター

順序	説明
1	リモート・ホスト名。
2	リモート・ユーザー ID。
3	実行するリモート・プログラム。
4	リモート・エラー・ファイル。
5	リモート警告ファイル。警告ファイルが存在しない場合、- (該当しないことを示すシンボル) を指定します。
6	リモート・ログ (サマリー) ファイル。ログ・ファイルが存在しない場合、- (該当しないことを示すシンボル) を指定します。
7	リモート・オペレーティング・システムのタイプ。UNIX、WINNT、または WIN2000 のいずれかを指定します。
8	パスワードのタイプ。PasswordNotRequired、EnterPassword、または GetPassword のいずれかを指定します。

表 105. VWPEXUNX のパラメーター (続き)

順序	説明
9	<p>パスワード・タイプが EnterPassword である場合のパスワード値。</p> <p>パスワード・タイプが PasswordNot Required である場合は、 - (該当しないことを示すシンボル)。</p> <p>パスワード・タイプが GetPassword である場合は、パスワード・プログラム。パスワード・プログラムはステップのために選択されたエージェント・サイトに存在しなければなりません。そのプログラムは、使用するパスワードをファイルの最初の行に含むファイルを記述しなければなりません。正常に実行した場合には 0 を戻さなければなりません。</p>
10	<p>パスワード・タイプが GetPassword である場合は、パスワード・プログラム・パラメーター。</p>

以下の例は、VWPEXUNX プログラムをコマンド・プロンプトから開始する方法を示しています。コマンドはすべて同一行にタイプしなければなりません。この例における改行には意味はありません。

```
vwplexunx tomari labriejj db2cmd %usr%labriejj%db2cmd.err - -
UNIX EnterPassword mypass
```

tomari リモート・ホストの名前

labriejj リモート・ホストへのアクセスに使用するユーザー ID

db2cmd 実行するリモート・プログラム

%usr%labriejj%db2cmd.err
 リモート・エラー・ファイルのパスおよび名前

- リモート警告ファイルは存在しない

- リモート・ログ (サマリー) ファイルは存在しない

UNIX リモート・オペレーティング・システム

EnterPassword
 パスワードのタイプ

mypass パスワード

戻りコード

VWPEXUNX プログラムはリモート・エラー・ファイルを使用して、リモート・コマンドまたはプログラムが成功したかエラーとなったかを、以下のように判別します。

- エラー・ファイルが空であるか存在しない場合、VWPEXUNX プログラムは成功を示すエラー・コードを戻します。
- エラー・ファイルが空ではない場合、VWPEXUNX プログラムは:
 - エラー・ファイルの内容を一時ファイルに保管します。
 - 失敗を示すエラー・コードを戻します。

VWPEXUNX プログラムは、リモート・エラー・ファイルの内容は調べません。

次の表は、VWPEXUNX プログラムの戻りコードをリストしています。

表 106. VWPEXUNX プログラムの戻りコード

戻りコード	説明
0	プログラムは正常に実行しました。
4	プログラムの実行時に警告が出されました。 プログラムはパスワード・プログラムの実行後にパスワード・ファイルを削除できませんでした。
8	パラメーター・エラー。 プログラムに供給されたパラメーターの数が多過ぎるか少な過ぎます。または無効値がパラメーターとして指定されました。
16	内部エラー プログラムは、一時ファイルのオープン、作成、書き込み不可などの内部エラーを検出しました。
48	環境変数エラー。 <i>VWS_LOGGING</i> 環境変数が設定されていません。
52	パスワード・プログラム・エラーの取得。 プログラムは、プログラムの欠落、名前の無効、パラメーター数の不適切などのパスワード・プログラム・エラーを検出しました。
56	リモート実行エラー。 プログラムは、以下のエラーのようなりモート実行エラーを検出しました。 <ul style="list-style-type: none">指定されたユーザー ID またはパスワードが不適切です。リモート・ファイルが見つかりません。リモート・ホストが応答しません。指定されたユーザー ID は、リモート・ファイルの作成または読み取りを許可されていません。

ログ・ファイル

VWPEXUNX プログラムは、トレース・ファイルを *VWS_LOGGING* 環境変数が指定するディレクトリーに書き込みます。

データウェアハウス・センターとともに提供される ISV_Sample プログラム

ISV_Sample プログラムは、ODBC データ・ソースからメタデータを読み取り、そのメタデータからデータウェアハウス・センター・オブジェクトを生成します。この ISV_Sample プログラムは、Windows 上で実行します。

次の表は、ISV_Sample プログラムのパラメーター・リストを示しています。

このパラメーターのための事前定義されたトークンはありません。

表 107. ISV_Sample のパラメーター

順序	説明
1	メタデータを取り出す ODBC DSN
2	ODBC ユーザー ID
3	ODBC パスワード

次の例は、C++ での ISV_Sample プログラムの開始方法を示しています。

```
ISV_Sample SAMPLE labriejj mypass
```

次の例は、Java での ISV_Sample プログラムの開始方法を示しています。

```
java db2_vw.ISV_sample SAMPLE labriejj mypass
```

SAMPLE メタデータを読み取る ODBC DSN

labriejj ODBC DSN へのアクセスに使用するユーザー ID

mypass ODBC DSN へのアクセスに使用するパスワード

ISV_Sample プログラムは、ISV_VWP プログラムを使用します。ステップは ISV_VWP プログラムを呼び出して、入力パラメーターを出力ファイルに書き込みます。

Java サンプル・ソース・コードを変更して、データウェアハウス・センター・パッケージにある既存のクラスを置き換えないでください。サブクラスにするか、Java サンプル・クラスの名前を変更して ISV アプリケーションで使用してください。

付録 A. 情報カタログ・マネージャー、バージョン 7 のビューの互換性

「インフォメーション・カタログの管理」ウィザードを使用すると、情報カタログ・マネージャー、バージョン 7 と互換性のあるビューを作成できます。詳細については、「情報カタログ・マネージャー 管理の手引き」を参照してください。アプリケーションで情報カタログ・マネージャー、バージョン 7 のメタデータにアクセスするために SQL を使用しているなら、そのようなビューにアクセスすることが必要になる場合があります。

データウェアハウス・センター用の FLG.ATCHREL ビュー

FLG.ATCHREL ビューは、オブジェクトとコメントの間の関係を定義するために使用されます。

次の表は、FLG.ATCHREL ビューの各列に関する情報を示しています。

表 108. FLG.ATCHREL ビューの列のプロパティ

列名	データ・タイプ	説明
RELTYPE	CHAR(1)	関係のタイプ: A アタッチ関係 L リンク関係 M コメント関係
SOURCE	CHAR(16)	ソース・オブジェクトを表す FLGID。
TARGET	CHAR(16)	ターゲット・オブジェクトを表す FLGID。

データウェアハウス・センター用の FLG.NAMEINST ビュー

FLG.NAMEINST ビューには、インフォメーション・カタログ内のそれぞれのオブジェクトの名前が含まれます。

次の表は、FLG.NAMEINST ビューの各列に関する情報を示しています。

表 109. FLG.NAMEINST ビューの列のプロパティ

列名	データ・タイプ	説明
FLGID	CHAR(16)	16 文字のオブジェクト ID。
TYPENAME	VARCHAR(80)	オブジェクト・タイプの外部名。
INSTNAME	VARCHAR(80)	オブジェクト・インスタンスの外部名。

データウェアハウス・センター用の FLG.PROPERTY ビュー

FLG.PROPERTY ビューは、1 つのオブジェクト・タイプのプロパティを定義するために使用されます。この表で定義されるそれぞれのオブジェクト・タイプのプロパティごとに、1 つの行があります。

次の表は、FLG.PROPERTY ビューの各列に関する情報を示しています。

表 110. FLG.PROPERTY ビューの列のプロパティ

列名	データ・タイプ	説明
OBJTYPID	CHAR(6)	それぞれのオブジェクト・タイプを表す 6 桁のユニークなシステム生成 ID。
PHYPRPNM	CHAR(8)	オブジェクト・タイプ内のプロパティの物理名。この名前は、ユーザーのオブジェクト表で列名を生成するために使用されます。
PROPNAME	CHAR(80)	このオブジェクト・タイプ・プロパティの外部名。
DATATYPE	CHAR(30)	プロパティのデータ・タイプ (CHAR、VARCHAR、LONG VARCHAR、および TIMESTAMP)。
LENGTH	INTEGER	プロパティの長さ。
OPTIONS	CHAR(1)	このフィールドで NULL 値が許可されるかどうかを示す値フラグ。 R 値は必要 (NULL 不可) O 値はオプション (NULL 可能) S システム生成の値
UISEQNO	CHAR(2)	オブジェクト・タイプ内のプロパティの UI シーケンス番号。
PROPSEQ	INTEGER	プロパティのシーケンス番号。

データウェアハウス・センター用の FLG.RELINST ビュー

FLG.RELINST ビューでは、2 つのオブジェクトの間関係が定義されます。この表には、ソース・オブジェクトとターゲット・オブジェクトの関係ごとに、1 つの行が入ります。

RELTYPE、SOURCE、および TARGET 列は、表の主キーを形成します。

RELTYPE、SRCCAT、SOURCE、SRCTNAME、SRCINAME、TRGCAT、TARGET、TRGTNAME、および TRGINAME 列は、表の索引です。

次の表は、FLG.RELINST ビューの各列に関する情報を示しています。

表 111. FLG.RELINST ビューの列のプロパティ

列名	データ・タイプ	説明
RELTYPE	VARCHAR(1)	関係のタイプ: C 包含 T 接点

表 111. FLG.RELINST ビューの列のプロパティ (続き)

列名	データ・タイプ	説明
SRCCAT	CHAR(1)	ソース・オブジェクトのカテゴリ。
SOURCE	CHAR(16)	ソース・オブジェクトを表す FLGID。
SRCTNAME	VARCHAR(80)	ソース・オブジェクト・タイプの外部名。
SRCINAME	VARCHAR(80)	ソース・オブジェクトの外部名。
TRGCAT	CHAR(1)	ターゲット・オブジェクトのカテゴリ。
TARGET	CHAR(16)	ターゲット・オブジェクトを表す FLGID。
TRGTNAME	VARCHAR(80)	ターゲット・オブジェクト・タイプの外部名。
TRGINAME	VARCHAR(80)	ターゲット・オブジェクトの外部名。

付録 B. テンプレート・プラン・ワークシート

このワークシートは、パートナー・アプリケーションが提供する必要のある値を収集するために使用します。

表の中にトークンの値を書き入れます。使用できる値の特定のリストが示されているトークンについては、使用できる値の 1 つを丸で囲んでください。

表 112. テンプレート内で必要なメタデータのトークン

トークン	値
<i>*AgentSite</i>	
<i>*AgentSiteContact</i>	
<i>*AgentSiteDescription</i>	
<i>*AgentSiteNotes</i>	
<i>*AgentSiteOSType</i>	次のいずれかの値: ISV_windowsNT Windows NT ISV_AIX AIX ISV_as400 AS/400 ISV_Solaris SUN ISV_MVS MVS ISV_Linux Linux
<i>*AgentSiteTCPIPHostName</i>	
<i>*AgentSiteUserid</i>	
<i>*ColumnAllowsNulls</i>	次のいずれかの値: ISV_NULLSYES この列は NULL データが許される。 ISV_NULLSNO この列では NULL データが許されない。
<i>*ColumnDataIsText</i>	次のいずれかの値: ISV_ISTEXTYES この列にはテキスト・データだけが入ります。 ISV_ISTEXTNO この列にはテキスト以外のデータも入ります。
<i>*ColumnDescription</i>	

表 112. テンプレート内で必要なメタデータのトークン (続き)

トークン	値
* <i>ColumnEditionType</i>	次のいずれかの値: ISV_ColumnIsEditionColumn この列はエディション列です。 ISV_ColumnIsNormal この列は通常の列です。
* <i>ColumnKeyPosition</i>	
* <i>ColumnLength</i>	
* <i>ColumnName</i>	

表 112. テンプレート内で必要なメタデータのトークン (続き)

トークン	値
* <i>ColumnNativeDataType</i>	次のいずれかの値: ISV_NATIVE_CHAR ISV_NATIVE_VARCHAR ISV_NATIVE_LONGVARCHAR ISV_NATIVE_VARCHAR2 ISV_NATIVE_GRAPHIC ISV_NATIVE_VARGRAPHIC ISV_NATIVE_LONGVARGRAPHIC ISV_NATIVE_CLOB ISV_NATIVE_INT ISV_NATIVE_TINYINT ISV_NATIVE_BLOB ISV_NATIVE_SMALLINT ISV_NATIVE_INTEGER ISV_NATIVE_FLOAT ISV_NATIVE_SMALLFLOAT ISV_NATIVE_DOUBLE ISV_NATIVE_REAL ISV_NATIVE_DECIMAL ISV_NATIVE_SMALLMONEY ISV_NATIVE_MONEY ISV_NATIVE_NUMBER ISV_NATIVE_NUMERIC ISV_NATIVE_DATE ISV_NATIVE_TIME ISV_NATIVE_TIMESTAMP ISV_NATIVE_LONG ISV_NATIVE_RAW ISV_NATIVE_LONGRAW ISV_NATIVE_DATETIME ISV_NATIVE_SMALLDATETIME ISV_NATIVE_SYSNAME ISV_NATIVE_TEXT ISV_NATIVE_BINARY

表 112. テンプレート内で必要なメタデータのトークン (続き)

トークン	値
* <i>ColumnNativeDataType</i> (続き)	次のいずれかの値: ISV_NATIVE_VARBINARY ISV_NATIVE_LONGVARBINARY ISV_NATIVE_BIT ISV_NATIVE_IMAGE ISV_NATIVE_SERIAL ISV_NATIVE_DATETIMEYEARTOFRACTION ISV_NATIVE_DBCLOB ISV_NATIVE_BIGINT
* <i>ColumnNotes</i>	
* <i>ColumnOffsetFromZero</i>	
* <i>ColumnOrdinalNumber</i>	
* <i>ColumnPositionNumber</i>	
* <i>ColumnPrecision</i>	
* <i>ColumnUserActions</i>	
* <i>CurrentCheckPointID++</i>	
* <i>DatabaseContact</i>	
* <i>DatabaseDescription</i>	
* <i>DatabaseName</i>	
* <i>DatabaseNotes</i>	
* <i>DatabasePhysicalName</i>	
* <i>DatabaseType</i>	次のいずれかの値: ISV_IR_DB2Family DB2 ファミリー ISV_IR_Oracle Oracle ISV_IR_Sybase Sybase ISV_IR_MSSQLServer Microsoft SQLServer ISV_IR_Informix Informix ISV_IR_GenericODBC 汎用 ODBC ISV_IR_FFJan フラット・ファイル LAN ISV_IR_VSAM VSAM ISV_IR_IMS IMS

表 112. テンプレート内で必要なメタデータのトークン (続き)

トークン	値
<i>*DatabaseTypeExtended</i>	次のいずれかの値: ISV_IR_DB2400CISC CISC 用の DB2 UDB (AS/400® 版) ISV_IR_DB2400RISC RISC 用の DB2 UDB (AS/400 版) ISV_IR_FFLanLocalCmd ローカル・フラット・ファイル ISV_IR_FFLanFTPCopy リモート・システムから FTP を使用して送信されたローカル・フラット・ファイル
<i>*DatabaseServerName</i>	
<i>*DatabaseUserid</i>	
<i>*DatabaseVersion</i>	
<i>*PostStepName</i>	
<i>*ProcessContact</i>	
<i>*ProcessDescription</i>	
<i>*ProcessName</i>	
<i>*ProcessNotes</i>	
<i>*ProcessType</i>	次のいずれかの値: ISV_ProcessType_Normal プロセスは通常のユーザー・プロセスです。 ISV_ProcessType_Meta_pub プロセスは、メタデータ・パブリケーション処理です。 ISV_ProcessType_Notify プロセスは通知プロセスです。
<i>*SecurityGroup</i>	ISV_DEFAULTSECURITYGROUP
<i>*StarSchemaContact</i>	
<i>*StarSchemaDBName</i>	
<i>*StarSchemaDescription</i>	
<i>*StarSchemaName</i>	
<i>*StarSchemaNotes</i>	
<i>*StepCommit</i>	次のいずれかの値: ISV_Step_Incremental_Commit_On データはターゲットにおいて漸進的にコミットされます。 ISV_Step_Incremental_Commit_Off データはターゲットにおいて漸進的にコミットされません。
<i>*StepCommitAfterNumberRows</i>	

表 112. テンプレート内で必要なメタデータのトークン (続き)

トークン	値
<i>*StepContact</i>	
<i>*StepDataNotPresent</i>	次のいずれかの値: ISV_StepDataNotPresent_OK データが存在しない場合、処理を続けます。 ISV_StepDataNotPresent_Warning データが存在しない場合、警告を発行して処理を続けます。 ISV_StepDataNotPresent_Error データが存在しない場合、エラー・メッセージを発行して処理を停止します。
<i>*StepDescription</i>	
<i>*StepExternalPopulation</i>	次のいずれかの値: ISV_StepExternalNo 表には他の方法で外部的なデータが取り込まれることはありません。 ISV_StepExternalYes 表には他の方法で外部的なデータが取り込まれます。
<i>*StepName</i>	
<i>*StepNotes</i>	
<i>*StepSelectStatement</i>	
<i>*StepSelectStatementGenerated</i>	次のいずれかの値: ISV_StepSelectStatementNo SELECT ステートメントは生成されませんが、 <i>*StepSelectStatement</i> に含まれています。 ISV_StepSelectStatementYes SELECT ステートメントが生成されて、 <i>*StepSelectStatement</i> は無視されます。
<i>*StepSQLWarning</i>	次のいずれかの値: ISV_StepSQLWarning_OK SQL 警告が生じた場合、処理を続けます。 ISV_StepSQLWarning_Warning SQL 警告が生じた場合、警告を発行して処理を続けます。 ISV_StepSQLWarning_Error SQL 警告が生じた場合、エラーを発行して処理を停止します。

表 112. テンプレート内で必要なメタデータのトークン (続き)

トークン	値
*StepType	次のいずれかの値: ISV_StepType_Editioned_Append ステップが実行されると、表内のデータは追加されます。 ISV_StepType_Full_Replace ステップが実行されると、表内のデータは置換されます。 ISV_StepType_Uneditioned_Append ステップが実行されると、表内のデータは追加されます。 ISV_StepType_VWP_Population 表内のデータはデータウェアハウス・センター・プログラムによって埋め込まれます。
*SubjectArea	
*SubjectAreaContact	
*SubjectAreaDescription	
*SubjectAreaNotes	
*TableBinaryIfFile	次のいずれかの値: ISV_DR_FILE_IS_BINARY ファイルはバイナリーです。 ISV_DR_FILE_IS_NOT_BINARY ファイルは ASCII、または混合形式です。
*TableCreatedByDWC	次のいずれかの値: ISV_TableIsCreatedByDWC 表はデータウェアハウス・センターによって作成されます。 ISV_TableIsNotCreatedByDWC 表はデータウェアハウス・センターによって作成されません。
*TableCreateStatement	
*TableDelimiterIfFile	
*TableDescription	
*TableFirstRowNamesIfFile	次のいずれかの値: ISV_DR_ROW_CONTAINS_NAMES ファイルの最初の行は列名。 ISV_DR_ROW_DOES_NOT_CONTAIN_NAMES ファイルの最初の行はデータ。
*TableFullName	

表 112. テンプレート内で必要なメタデータのトークン (続き)

トークン	値
<i>*TableGenerateCreateStatement</i>	次のいずれかの値: ISV_GenerateCreateTableStmt データウェアハウス・センターは、CREATE TABLE ステートメントを生成することになります。 ISV_DoNotGenerateCreateTableStmt データウェアハウス・センターは、CREATE TABLE ステートメントを生成しないことになります。
<i>*TableGrantedToPublic</i>	次のいずれかの値: ISV_GrantTableAccessToPublic この表に対する PUBLIC アクセス権限を付与します。 ISV_DoNotGrantTableAccessToPublic この表に対する PUBLIC アクセス権限を付与しない。
<i>*TableIsAnAlias</i>	次のいずれかの値: ISV_TableIsAnAlias この表は他の表の別名です。 ISV_TableIsNotAnAlias この表は他の表の別名ではありません。
<i>*TableIsADimensionTable</i>	次のいずれかの値: ISV_TableIsADimensionalTable 表はディメンション表です。 ISV_TableIsNotADimensionalTable 表はディメンション表ではありません。
<i>*TableIsAFactTable</i>	次のいずれかの値: ISV_TableIsAFactTable 表はファクト表です。 ISV_TableIsNotAFactTable 表はファクト表ではありません。
<i>*TableIsAView</i>	次のいずれかの値: ISV_TableIsAView 表はビューです。 ISV_TableIsNotAView 表はビューではありません。
<i>*TableIsPersistent</i>	次のいずれかの値: ISV_TableIsPersistent 表は持続的なものと見なされます。 ISV_TableIsTransient 表は一時的なものとして見なされます。
<i>*TableMaximumEditions</i>	

表 112. テンプレート内で必要なメタデータのトークン (続き)

トークン	値
<i>*TableNotes</i>	
<i>*TableOwner</i>	
<i>*TablePhysicalName</i>	
<i>*TableTypeIfFile</i>	次のいずれかの値: ISV_DR_REL_TABLE 表はリレーショナル表です。 ISV_DR_COMMA_DELIMITED ファイル内の列はコンマで区切られます。 ISV_DR_FIXED_FORMAT ファイル内の列は固定形式です。 ISV_DR_TAB_DELIMITED ファイル内の列はタブで区切られます。 ISV_DR_CHAR_DELIMITED ファイル内の列は、 <i>*TableDelimiterIfFile</i> の値で区切られます。
<i>*VWPGGroup</i>	
<i>*VWPGGroupDescription</i>	
<i>*VWPGGroupNotes</i>	
<i>*VWPPProgramInstanceKey</i>	
<i>*VWPPProgramInstanceParameterData</i>	
<i>*VWPPProgramInstanceParameterKey</i>	
<i>*VWPPProgramInstanceParameterName</i>	
<i>*VWPPProgramInstanceParameterOrder</i>	
<i>*VWPPProgramInstanceParameterType</i>	次のいずれかの値: ISV_ParameterTypeNone パラメーター・タイプが不明です。 ISV_ParameterTypeCharacter パラメーター・タイプは文字です。 ISV_ParameterTypeNumeric パラメーター・タイプは数値です。 ISV_ParameterTypePassword パラメーター・タイプはパスワードです。
<i>*VWPPProgramTemplateDescription</i>	
<i>*VWPPProgramTemplateExecutableName</i>	
<i>*VWPPProgramTemplateFunctionName</i>	
<i>*VWPPProgramTemplateName</i>	
<i>*VWPPProgramTemplateNotes</i>	

表 112. テンプレート内で必要なメタデータのトークン (続き)

トークン	値
*VWPPProgramTemplateType	次のいずれかの値: ISV_PROGRAMTYPEDLL データウェアハウス・センター・プログラムはダイナミック・リンク・ライブラリー (DLL) からロードされるか、またはロード・モジュールです。 ISV_PROGRAMTYPECOMMAND データウェアハウス・センター・プログラムはコマンド・ファイルです。 ISV_PROGRAMTYPEEXECUTABLE データウェアハウス・センター・プログラムは実行可能ファイルです。
*VWPPProgramTemplateParameterData	
*VWPPProgramTemplateParameterKey	
*VWPPProgramTemplateParameterName	
*VWPPProgramTemplateParameterOrder	
*VWPPProgramTemplateParameterType	次のいずれかの値: ISV_ParameterTypeNone パラメーター・タイプが不明です。 ISV_ParameterTypeCharacter パラメーター・タイプは文字です。 ISV_ParameterTypeNumeric パラメーター・タイプは数値です。 ISV_ParameterTypePassword パラメーター・タイプはパスワードです。

付録 C. データウェアハウス・センターで使用する独自のプログラムの作成

データウェアハウス・センター・プログラムは、実行可能、バッチ・プログラム、またはダイナミック・リンク・ライブラリーのいずれかのプログラム・タイプをサポートする言語であれば、任意の言語で作成できます。

プログラム・タイプが実行可能、コマンド・ファイル、またはダイナミック・リンク・ライブラリーである場合は、そのプログラムはエージェント・サイトに入っている必要があります。データウェアハウス・センター・エージェントがスケジュールされた時刻にプログラムを開始します。Windows オペレーティング・システムでは、エージェントは、デフォルトによりシステム・プロセスとして実行されます。このプログラムは、ユーザー ID を必要とするリソースまたはプログラムにアクセスすることはできません。また、プログラムがアクセスに必要とする環境変数は、システム変数である必要があります。

パラメーターの受け渡し

実行時に、データウェアハウス・センターはプログラムへの入力として渡すためのコマンド行パラメーター・リストを生成します。いつでも可能なときに、プログラムをステップで使用する前にそれをコマンド行からテストしてください。

例: データウェアハウス・センター・プログラム VW 5.2 DB2 ロード置換 (VWPLOADR) は、ファイルからデータを選択してデータベースにロードします。以下のパラメーターを使用します。

- ソース・ファイル名
- ターゲット・データベース名
- ターゲット・データベースのユーザー ID
- ターゲット・データベースのパスワード
- ターゲット表名
- 列の区切り文字

次の図で示すように、プログラムはパラメーターを受け取ります。

```

char * sourceFile;
sourceFile = argv[1];
char * dbName;
dbName = argv[2];
char * dbUser;
dbUser = argv[3];
char * dbPassword;
dbPassword = argv[4];
char * dbTable;
dbTable = argv[5];
char * fileMod;
if(argc>6) fileMod = argv[6];
else fileMod = NULL;

```

図3. コマンド行からパラメーターを読み取る

図4 に示されているように、プログラムはターゲット・パラメーターを使用してターゲット・データベースに接続します。

```

rc = SQLConnect (hdbc, (SQLCHAR *)dbName, SQL_NTS,
(SQLCHAR *)dbUser, SQL_NTS, /* UID */
(SQLCHAR *)dbPassword, SQL_NTS); /* Password */

```

図4. ターゲット・データベースに接続する

その後、プログラムは DB2 ロード・ユーティリティーを使用してデータをデータベースにロードします。

データウェアハウス・センターのプログラムから状況情報を戻す

データウェアハウス・センター・プログラムの実行後に、戻りコードがプログラムを使用したステップに戻されなければなりません。戻りコードは正の整数でなければなりません。ご使用のプログラムが戻りコードを戻さない場合、プログラムを使用しているステップは失敗します。 **Error RC1** の値が 8410 である場合、データウェアハウス・センターは「ログ詳細 (Log Details)」ウィンドウの「**エラー RC2 (Error RC2)**」フィールドに戻りコードを表示します。

データウェアハウス・センター・プログラムは、以下に示す追加の状況情報をデータウェアハウス・センターに戻すことができます。

- 別の戻りコード。これはデータウェアハウス・センター・プログラムから戻されるコードと同じでも異なっても可能です。
- データウェアハウス・センターが戻りコードを警告として処理するように指示するフラグ。プログラムがこのフラグを立てると、このプログラムを使用するステップは「進行中の操作作業 (Operations Work in Progress)」ウィンドウに「警告 (Warning)」状況を示します。
- 「ログ・ビューアーの詳細 (Log Viewer Details)」ウィンドウの「**システム・メッセージ (System Message)**」フィールドに表示されるメッセージ。
- プログラムが処理したデータの行数。

データウェアハウス・センターは、ステップについての数を「ログ・ビューアーの詳細 (Log Viewer Details)」ウィンドウに表示します。

- プログラムが処理したデータのバイト数。

データウェアハウス・センターは、ステップについての数を「ログ・ビューアーの詳細 (Log Viewer Details)」ウィンドウに表示します。

- データウェアハウス・センターが「ログ・ビューアーの詳細 (Log Viewer Details)」ウィンドウの「SQL 状態 (SQL state)」フィールドに表示する SQLSTATE 戻りコード。

データウェアハウス・センター・エージェントは、追加の状況情報をウェアハウス・サーバーに転送します。

ユーザー定義プログラムの標準出力の保管

ユーザー定義プログラム (UDP) でログまたはトレース情報を作成する場合、その情報は、自分で指定するディレクトリーまたはファイルに書き込んでください。その情報を書き込まない場合、`stdout` および `stderr` からの出力データは保管されません。

情報をデータウェアハウス・センターに転送する

追加の状況情報をウェアハウス・エージェントに転送するために、プログラムは追加の状況情報を含むフィードバック・ファイルと呼ばれるファイルを作成しなければなりません。フィードバック・ファイルのパスおよびファイル名は、`VWP_LOG` 環境変数の値でなければなりません。エージェントは、プログラムを呼び出す前に `VWP_LOG` を設定します。プログラムの実行が終了した後、エージェントはフィードバック・ファイルが存在するかどうかを調べます。存在する場合、エージェントはそのファイルを処理します。存在しない場合、エージェントは何も行いません。プログラムがファイルを作成できない場合、それは実行を続ける必要があります。

フィードバック・ファイルの形式設定

プログラムは追加の状況情報をフィードバック・ファイルに任意の順序で書き込むことができますが、情報を識別するために以下の形式を使用しなければなりません。以下のリストに示すように、戻される各項目を開始タグ `<tag>` および終了タグ `</tag>` で囲みます。それぞれの開始タグの次には対応する終了タグがなければなりません。2 つの開始タグを連続して使用することはできません。たとえば、以下のタグ形式は有効です。

```
<RC>...</RC>...<MSG>...</MSG>
```

以下の組み込みタグ形式は無効です。

```
<RC>...<MSG>...</RC>...</MSG>
```

フィードバック・ファイル内に以下の情報を指定できます。

戻りコード

`<RC>return code</RC>`。 `return code` は正の整数です。

戻りコード警告標識

`<WARNING>1</WARNING>` は、戻りコード警告標識をオンに設定します。

データウェアハウス・センター・システム・メッセージ

```
<MSG>message text\n</MSG>
```

message text

1 つ以上のメッセージのテキスト

¥n 改行文字。複数のメッセージがある場合、この文字を各メッセージの終わりに含めます。

コメント

<COMMENT>*comment text*</COMMENT>。 *comment text* は、コメントのテキストです。

処理されたデータの行数

<ROWS>*number of rows*</ROWS>。 *number of rows* は正の整数です。

処理されたデータのバイト数

<BYTES>*number of bytes*</BYTES>。 *number of bytes* は正の整数です。

SQLSTATE

<SQLSTATE>*sqlstate string*</SQLSTATE>。 *sqlstate string* は長さが 0 より大きく、5 桁以下の任意のストリングです。

次の図は、フィードバック・ファイルの例を示しています。

```
<RC> 20</RC>
<ROWS>2345</ROWS>
<MSG>The parameter type is not correct</MSG>
<COMMENT> Please supply the correct parameter type (PASSWORD
NOTREQUIRED, GETPASSWORD, ENTERPASSWORD)</COMMENT>
<BYTES> 123456</BYTES>
<WARNING> 1</WARNING>
<SQLSTATE>12345</SQLSTATE>
```

図 5. フィードバック・ファイルの例

フィードバックによってステップ状況を判別する方法

Log Viewer に表示されるプログラムの戻りコードおよびステップ状況には、さまざまなものがあります。それらはプログラムによって設定される以下の値に依存します。

- プログラムが戻す戻りコードの値
- フィードバック・ファイルが存在するかどうか
- フィードバック・ファイル内の戻りコードの値
- 警告標識がオンに設定されているかどうか

次の表は、これらの値の可能な組み合わせと、それぞれの組み合わせから生じる結果をリストしています。

表 113. フィードバック・ファイルの状態および結果

状態		結果			
		ステップ の状況 ¹	エラー RC1 およ び RC2 の値		
データウェア アハウス・ センター・ プログラムの 戻りコードが 0	フィードバック・ファイルが存在しない ²		成功	RC1 = 0; RC2 = 0	
	フィードバック・ファイルが存在する ²	フィードバック・ファイル内の <RC> の値が 0 ³	<WARNING> がフィードバック・ファイル内で設定されていない	成功	RC1 = 0; RC2 = 0
			フィードバック・ファイル内の <WARNING> の値が 1	警告	RC1 = 0; RC2 = 0
	フィードバック・ファイル内の <RC> の値が 0 ではない ³		<WARNING> がフィードバック・ファイル内で設定されていない	失敗	RC1 = 8410 (プログラムは失敗した)、RC2 = フィードバック・ファイル内の <RC> の値
			フィードバック・ファイル内の <WARNING> の値が 1	警告	RC1 = 0、RC2 = フィードバック・ファイル内の <RC> の値

表 113. フィードバック・ファイルの状態および結果 (続き)

状態		結果			
		ステップ の状況 ¹	エラー RC1 およ び RC2 の値		
データウェア ハウス・ センター・ プログラ ムの戻りコ ードがゼロ ではない	フィードバック・ファイルが存在しない ²		失敗	RC1 = 8410 (データウェアハウス・センター・プログラムは失敗した)、RC2 = データウェアハウス・センター・プログラムによって戻されるコード	
	フィードバック・ファイルが存在する ²	フィードバック・ファイル内の <RC> の値が 0 ³	<WARNING> がフィードバック・ファイル内で設定されていない	成功	RC1 = 0; RC2 = 0
			フィードバック・ファイル内の <WARNING> の値が 1	警告	RC1 = 0; RC2 = 0
		フィードバック・ファイル内の <RC> の値がゼロではない	<WARNING> がフィードバック・ファイル内で設定されていない	失敗	RC1 = 8410 (データウェアハウス・センター・プログラムは失敗した)、RC2 = データウェアハウス・センター・プログラムによって戻されるコード
			フィードバック・ファイル内の <WARNING> の値が 1	警告	RC1 = 0、RC2 = フィードバック・ファイル内の <RC> の値
注: 1. 「進行中の作業 (Work in Progress)」ウィンドウに表示される、ステップの処理状況。 2. プログラムの戻りコードが 0 であってもなくても、データウェアハウス・センターはフィードバック・ファイルが存在するかどうかをチェックします。 3. データウェアハウス・センターは常に、フィードバック・ファイル内の <RC> の値を「ログ詳細 (Log Details)」ウィンドウ内の「RC2」フィールドの値として表示します。					

特記事項

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム(本プログラムを含む)との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Canada Limited
Office of the Lab Director
8200 Warden Avenue
Markham, Ontario
L6G 1C7
CANADA

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生した創作物には、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。 © Copyright IBM Corp. _年を入れる_. All rights reserved.

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

ACF/VTAM	iSeries
AISPO	LAN Distance
AIX	MVS
AIXwindows	MVS/ESA
AnyNet	MVS/XA
APPN	Net.Data
AS/400	NetView
BookManager	OS/390
C Set++	OS/400
C/370	PowerPC
CICS	pSeries
Database 2	QBIC
DataHub	QMF
DataJoiner	RACF
DataPropagator	RISC System/6000
DataRefresher	RS/6000
DB2	S/370
DB2 Connect	SP
DB2 Extenders	SQL/400
DB2 OLAP Server	SQL/DS
DB2 Information Integrator	System/370
DB2 Query Patroller	System/390
DB2 Universal Database	SystemView
Distributed Relational Database Architecture	Tivoli
DRDA	VisualAge
eServer	VM/ESA
Extended Services	VSE/ESA
FFST	VTAM
First Failure Support Technology	WebExplorer
IBM	WebSphere
IMS	WIN-OS/2
IMS/ESA	z/OS
	zSeries

以下は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Pentium は、Intel Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。
他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

参考文献

データウェアハウス・センターの使用方法については、オンライン・ヘルプを参照してください。データウェアハウス・センターには、特定のウィンドウに関するヘルプ、およびウェアハウス・ソースやステップの作成などの汎用タスクに関するヘルプがあります。

データウェアハウス・センターに関連する IBM 製品については、IBM Data Management Web サイト (<http://www.software.ibm.com/data/>) をご覧ください。

データウェアハウス・センター・ライブラリーには、以下の資料があります。

IBM DB2: DB2 Warehouse Manager インストール・ガイド (GC88-9164)

IBM DB2: インフォメーション・カタログ・センター ユーザーズ・ガイド (SC88-9167)

IBM DB2 OLAP Server: DB2 OLAP Server 使用の手引き (SD88-7081-01)

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

ウェアハウス・コントロール・データベース
タグ言語ファイルの 11
エージェント
からデータのインポート 11

[カ行]

カスケード関係
定義 11

[サ行]

サンプル・プログラム
ISV_Sample 141
ソース
ウェアハウス 11
ソース・データベース
説明 11

[タ行]

ターゲット
ファイル 11
ターゲット・データベース
説明 11
データウェアハウス・センター
エージェント 11
プログラム
定義 11
データベース
ウェアハウス・ソース 11
ウェアハウス・ターゲット 11
テンプレート
AgentSite.tag 32
AgenttoDatabase.tag 50
AgenttoProgram.tag 51
Column.tag 34
Commit.tag 51
ForeignKeyAdditional.tag 55
ForeignKey.tag 52
HeaderInfo.tag 39

テンプレート (続き)

PrimaryKeyAdditional.tag 58
PrimaryKey.tag 56
Process.tag 39
SourceDataBase.tag 60
StarSchemaInputTable.tag 41
StarSchema.tag 41
StepCascade.tag 45
StepInputTable.tag 46
StepOutputTable.tag 47
StepVWPOutputTable.tag 48
StepVWPProgramInstance.tag 49
Step.tag 42
SubjectArea.tag 62
Table.tag 64
UDP で必要 22
VWPGGroup.tag 69
VWPProgramInstanceParameter.tag 70
VWPProgramTemplateParameter.tag 75
VWPProgramTemplate.tag 72
WarehouseDataBase.tag 77

[ハ行]

パートナー
アプリケーション 4
アプリケーション・スケジューリング
21
メタデータ 4

A

AgentSite.tag テンプレート 32
AgenttoDatabase.tag テンプレート 50
AgenttoProgram.tag テンプレート 51

C

COLUMN メタデータ・オブジェクト 89
Column.tag テンプレート 34
Commit.tag テンプレート 51

F

FLG.ATCHREL ビュー 143
FLG.NAMEINST ビュー 143
FLG.PROPERTY ビュー 144
FLG.RELINST ビュー 144
ForeignKeyAdditional.tag テンプレート
55

ForeignKey.tag テンプレート 52

H

HeaderInfo.tag テンプレート 39

I

ISV_Sample プログラム 141

P

PrimaryKeyAdditional.tag テンプレート
58
PrimaryKey.tag テンプレート 56
Process.tag テンプレート 39

S

SourceDataBase.tag テンプレート 60
StarSchemaInputTable.tag テンプレート
41
StarSchema.tag テンプレート 41
StepCascade.tag テンプレート 45
StepInputTable.tag テンプレート 46
StepOutputTable.tag テンプレート 47
StepVWPOutputTable.tag テンプレート
48
StepVWPProgramInstance.tag テンプレート
49
Step.tag テンプレート 42
SubjectArea.tag テンプレート 62

T

Table.tag テンプレート 64

V

VWPGGroup.tag テンプレート 69
VWPProgramInstanceParameters.tag テンプレ
レート 70
VWPProgramTemplateParameter.tag テンプレ
レート 75
VWPProgramTemplate.tag テンプレート
72

W

WarehouseDataBase.tag テンプレート 77

IBM と連絡をとる

技術上の問題がある場合は、お客様サポートにご連絡ください。

製品情報

DB2 Universal Database 製品に関する情報は、
<http://www.ibm.com/software/data/db2/udb> から入手できます。

このサイトには、技術ライブラリー、資料の注文方法、製品のダウンロード、ニュースグループ、フィックスパック、ニュース、および Web リソースへのリンクに関する最新情報が掲載されています。

米国以外の国で IBM に連絡する方法については、IBM Worldwide ページ (www.ibm.com/planetwide) にアクセスしてください。



プログラム番号: 5724-E66

Printed in Japan

SC88-9166-01



日本アイ・ビー・エム株式会社
〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12